

| | | |
|------------|--|--|
| 科目名 | 日本語日本文学入門 | |
| 担当者 | 嶋田 直哉 / ◎新内 康子 / 平塚 雄亮 | |
| 科目情報 | 人間文化<基礎> / 必修 / 前期 / 講義 / 2単位 / 1年次 | |
| | — | |
| 科目概要 | 授業内容 | A. (嶋田) 文学作品の読み方について概説する。中学校・高等学校国語教科書でなじみの深い漱石と鷗外について再読を試みる。 B. (平塚) 日本語の文字・音・語彙・文法といったさまざまな観点から、日本語研究における基礎的事項を概説する。 C. (新内) 外国人が使用した日本語の誤用を通して、日本人が言語形成期に自然習得した現代日本語の諸規則を考える。 |
| | 到達目標 | 「A. (嶋田) 論理的に文学作品を読むことができるようになる。」 「B. (平塚) 日本語のあり方と変化に興味を持ち、日本語を研究するための視点や問題点を考える姿勢を身につける。」 「C. (新内) ことばに対して興味関心が持て、現代日本語の諸規則について考える姿勢を身につける。」 |
| 授業計画 | (1) ガイダンス 文学作品を読むための準備 (嶋田) (2) 日本近代文学史概観 (嶋田) (3) 夏目漱石の生涯と作品 (嶋田) (4) 夏目漱石「坊っちゃん」を読む (嶋田) (5) 森鷗外の生涯と作品 (嶋田) (6) 森鷗外「舞姫」を読む (嶋田) (7) 日本語の文字 (平塚) (8) 日本語の音韻・音声 (平塚) (9) 日本語の語彙 (平塚) (10) 日本語の文法 (平塚) (11) 日本語の方言 (平塚) (12) 日本語の歴史 (平塚) (13) 日本語教育の現状。外国人の誤用から考える日本語の諸規則<音声> (新内) (14) 外国人の誤用から考える日本語の諸規則<語彙・表現> (新内) (15) 外国人の誤用から考える日本語の諸規則<文法> (新内) | |
| 自学自習 | 事前学習 | ・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。 |
| | 事後学習 | ・前回の授業内容をよく復習しておくこと。 |
| 使用教材・参考文献 | 使用教材 | A: 各自授業の対象となる文庫本を用意。詳しくは初回の授業で説明する。 B: 使用しない。プリントを配付する。 C: 使用しない。プリントを配付する。 |
| | 参考文献 | A: 授業時に適宜指示する。 B: 授業時に適宜指示する。 C: 授業時に適宜指示する。 |
| 成績評価の基準と方法 | 基準 | A: 文学作品を論理的に読むことができる。 B: 日本語の特徴と変化について理解を深め、その問題点を見出し、考える姿勢を身につけることができれば合格とする。 C: 現代日本語への理解を深め日本語現象の特徴を見つけまとめることができれば、合格とする。 |
| | 方法 | A: レポート 50%、受講態度 50% B: テスト 50%、授業時の提出物・態度 50% C: 授業中課題 100% |
| 備考 | 成績評価については、A, B, Cすべての課題（レポート、テスト等）を行わなければ、評価の対象としない。 | |

| 授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ） | | |
|-------------------------------------|-------------|-----|
| 教育課程の獲得目標 | レベルに応じた到達目標 | レベル |
| | | |
| | | |
| | | |

| | | |
|------------|---|---|
| 科目名 | 英語英米文化入門 | |
| 担当者 | ◎酒瀬川 純行 / 入江 公啓 / マーカス・シオボールド / 蒲地 賢一郎 | |
| 科目情報 | 人間文化<基礎> / 必修 / 後期 / 講義 / 2単位 / 1年次 | |
| | — | |
| 科目概要 | 授業内容 | 英米の歴史と文化、文学、英語の歴史等の視点に加えて、実践的な英語教育の必要性まで、多岐にわたり総合的に学習する。英語英米文化コース科目群で学習できること、卒業研究のテーマなど、今後の研究に必要な事項も学ぶ。 |
| | 到達目標 | 世界の急速な一体化が進む中で、国際語としての英語を実践的に学ぶことと、英米文化を理解することの重要性は益々高まっている。これまでの狭い意味での英語・英米文学という立場から抜け出し、広い文化的視点に立って言語や文化を分析する姿勢、能力をもつようになることが目標である。 |
| 授業計画 | (1) 総合的英国研究、時事英語、通訳英語研究(1) (酒瀬川) (2) 総合的英国研究、時事英語、通訳英語研究(2) (酒瀬川) (3) 総合的英国研究、時事英語、通訳英語研究(3) (酒瀬川) (4) 総合的英国研究、時事英語、通訳英語研究(4) (酒瀬川) (5) 英語教育(1) (入江) (6) 英語教育(2) (入江) (7) 英語教育(3) (入江) (8) 英語教育(4) (入江) (9) cross-cultural communication (1) (シオボールド) (10) cross-cultural communication (2) (シオボールド) (11) cross-cultural communication (3) (シオボールド) (12) cross-cultural communication (4) (シオボールド) (13) 英語学(1) (蒲地) (14) 英語学(2) (蒲地) (15) 英語学(3) (蒲地) | |
| 自学自習 | 事前学習 | ・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。 |
| | 事後学習 | 4回ごとにテストを行う。 |
| 使用教材・参考文献 | 使用教材 | 教科書は使用しない。授業内で、資料を配布する。 |
| | 参考文献 | 4人の教員が、授業時に適宜指示する。 |
| 成績評価の基準と方法 | 基準 | テストによって、到達目標に記されていることが理解できたものを合格とする。 |
| | 方法 | 人の教員が、英語の歴史・文化、英語教育、言語習得、英語学についてテストをおこなう。各々25%ずつ。 |
| 備考 | | |

| 授業マトリクス上の位置づけ (科目が設置された学科、コースでの位置づけ) | | |
|--------------------------------------|-------------|-----|
| 教育課程の獲得目標 | レベルに応じた到達目標 | レベル |
| | | |
| | | |
| | | |

| | | |
|------------|---|--|
| 科目名 | 歴史地理入門 | |
| 担当者 | 宗 建郎 / SOH, Tatsuroh 溝上 宏美 / MIZOKAMI, Hiromi | |
| 科目情報 | 人間文化<基礎> / 必修 / 前期 / 講義 / 2単位 / 1年次 | |
| | — | |
| 科目概要 | 授業内容 | (前半)歴史学という学問の特性と分野的広がりについて概観し、歴史を学ぶ上で不可欠な基礎的事項について説明する。(後半)「地理的知識」とはいかなるものか、それに地理学がどのようにアプローチしてきたのかを説明する。 |
| | 到達目標 | ・(歴史学分野) 歴史学という学問についての概略を理解し、授業内容を踏まえたうえで自分なりに「歴史とは何か」という問題について論じることができる。 ・(地理学分野) 地理学の流れを理解し、地理的知識とは何かについて自らの言葉で論じることができる。 |
| 授業計画 | (1) 歴史とは何か (2) 歴史学の歴史 (1) —近代歴史学の成立 (3) 歴史学の歴史 (2) —マルクス主義歴史学と時代区分論 (4) 歴史学の歴史 (3) —アナール学派と社会史 (5) 歴史の手法—史資料と批判的検討 (6) 様々な歴史学 (7) 歴史学の新しい潮流 (8) 歴史を学ぶ意味 (9) 地理学とは何か (10) 地図と歴史 (1) —地理的知識の拡大と地図 (11) 地図と歴史 (2) —地理的知識の精緻化 (12) 地理的知識とは (13) 近代地理学史 (1) —近代地理学の成立 (14) 近代地理学史 (2) —新しい地理学へ (15) 現代の地理学 | |
| 自学自習 | 事前学習 | ・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと ・意味のわからない用語は辞書などで事前に調べておくこと。 |
| | 事後学習 | ・授業で紹介された参考文献を読むこと ・博物館や史跡・名勝などを訪ね、現地で考えること。 |
| 使用教材・参考文献 | 使用教材 | 教科書は使用しない。授業でレジュメを配布する。 |
| | 参考文献 | E. H. カー『歴史とは何か』岩波新書、1962年 P. クラヴァル『新しい地理学』文庫クセジュ、1984年 |
| 成績評価の基準と方法 | 基準 | 到達目標に従って自分の言葉でまとめることができることを基準とします。 |
| | 方法 | 歴史分野と地理分野の成績を50%ずつに換算し合算する。歴史分野、地理分野ともにそれぞれ受講態度が40%、レポートが60%とする。 |
| 備考 | | |

| 授業マトリクス上の位置づけ (科目が設置された学科、コースでの位置づけ) | | |
|--------------------------------------|-------------|-----|
| 教育課程の獲得目標 | レベルに応じた到達目標 | レベル |
| | | |
| | | |
| | | |

| | | |
|------------|---|--|
| 科目名 | 卒業研究 I | |
| 担当者 | 入江 公啓 / IRIE, Kimihiro | |
| 科目情報 | 人間文化<卒業> / 必修 / 後期 / 演習 / 2単位 / 3年次 | |
| | — | |
| 科目概要 | 授業内容 | 演習形態で卒業論文作成に向けた研究を行う。 |
| | 到達目標 | 卒業論文を作成するために必要な研究の方法論や文献収集法を学び、自らの問題意識の焦点化と研究テーマの絞り込みをする。 |
| 授業計画 | (1) 授業概要説明 (2) 研究の方法、文献収集の方法 (3) 研究テーマに関する概要説明 (4) 研究テーマに関する文献調査 (1) (5) 研究テーマに関する文献調査 (2) (6) 研究テーマに関する文献調査 (3) (7) 研究テーマに関する文献調査 (4) (8) 研究テーマに関する文献調査 (5) (9) 研究テーマに関するディスカッション (1) (10) 研究テーマに関するディスカッション (2) (11) 研究テーマに関するディスカッション (3) (12) 研究テーマに関するディスカッション (4) (13) 研究テーマに関するディスカッション (5) (14) 研究テーマに関するディスカッション (6) (15) 総まとめ | |
| 自学自習 | 事前学習 | 配布したプリントは前もって読んでおくこと。 |
| | 事後学習 | 指示された課題を行うこと。 |
| 使用教材・参考文献 | 使用教材 | 教科書は特に指定しない。講義中に配布するプリント（ハンドアウト）を用いる。 |
| | 参考文献 | 別途指示する。 |
| 成績評価の基準と方法 | 基準 | 卒業論文を作成するために必要な研究の方法論や文献収集法を学び、自らの問題意識の焦点化と研究テーマの絞り込みができたものは合格とする。 |
| | 方法 | 受講態度 50%、課題ほか 50%。 |
| 備考 | | |

| 授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ） | | |
|-------------------------------------|-------------|-----|
| 教育課程の獲得目標 | レベルに応じた到達目標 | レベル |
| | | |
| | | |
| | | |

| | | |
|------------|---|--|
| 科目名 | 卒業研究 I | |
| 担当者 | 入佐 信宏 / IRISA, Nobuhiro | |
| 科目情報 | 人間文化<卒業> / 必修 / 後期 / 演習 / 2単位 / 3年次 | |
| | - | |
| 科目概要 | 授業内容 | 4年時の卒業論文作成のための基礎能力を身につけるために、日本語教育学、社会言語学、対照言語学の領域に関する問題と論点を知り、それらの問題解決の方法論について考える。 |
| | 到達目標 | (1)上記の領域に関する論点と分析方法がわかるようになる。 (2)卒業論文の作成方法がわかるようになる。 (3)卒業論文のテーマを決める。 |
| 授業計画 | (1) 卒業論文の作成方法について (2) 社会言語学の先行研究について（講義） (3) 対照言語学の先行研究について（講義） (4) 類義表現の先行研究について（講義） (5) 発表および議論（演習） (6) 〃 (7) 〃 (8) 〃 (9) 〃 (10) 〃 (11) 〃 (12) 〃 (13) 〃 (14) 〃 (15) 〃 | |
| 自学自習 | 事前学習 | 授業で扱う使用教材を前もって熟読し、内容を把握しておくこと。 発表に備え、関心分野の文献等を探し、熟読すること。” |
| | 事後学習 | 関心分野の文献等を多く読み、卒業論文のテーマを探し出すこと。 |
| 使用教材・参考文献 | 使用教材 | 教科書は使用しない。授業中に配布するプリントを使用する。 |
| | 参考文献 | 授業の中で必要に応じて紹介する。 |
| 成績評価の基準と方法 | 基準 | 上記の到達目標を達成できた者を合格とします。 |
| | 方法 | 授業での積極性(20点)、発表(30点)、レポート(30点)、卒業論文計画書(20点)で評価します。 |
| 備考 | | |

| 授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ） | | |
|-------------------------------------|-------------|-----|
| 教育課程の獲得目標 | レベルに応じた到達目標 | レベル |
| | | |
| | | |
| | | |

| | | |
|------------|--|--|
| 科目名 | 卒業研究 I | |
| 担当者 | 蒲地 賢一郎 / KAMACHI, Kenichiro | |
| 科目情報 | 人間文化<卒業> / 必修 / 後期 / 演習 / 2単位 / 3年次 | |
| | — | |
| 科目概要 | 授業内容 | 英語の文献を読み、テーマを探す。研究発表の準備と、その実践。そして、研究論文を書いてみる。 |
| | 到達目標 | 参考文献を英語で読める、要約ができる、そして、自分なりの意見、考えを述べられるようになる。 |
| 授業計画 | (1) 英語文を読む。研究発表の準備をする。 (2) 英語文を読む。研究発表の準備をする。 (3) 英語文を読む。研究発表の準備をする。 (4) 英語文を読む。研究発表の準備をする。 (5) 英語文を読む。研究発表の準備をする。 (6) 英語文を読む。研究発表の準備をする。 (7) 英語文を読む。研究発表の準備をする。 (8) 英語文を読む。研究発表をする。 (9) 英語文を読む。研究発表をする。 (10) 英語文を読む。研究発表をする。 (11) 英語文を読む。研究発表をする。 (12) 英語文を読む。研究発表をする。 (13) 英語文を読む。研究発表をする。 (14) 英語文を読む。研究発表をする。 (15) 英語文を読む。研究発表をする。 | |
| 自学自習 | 事前学習 | ・「使用教材」を読んでおくこと。 ・意味のわからない単語は辞書で調べておくこと。 |
| | 事後学習 | ・授業後に、当日読んだ英語文を再読すること。 ・予習内容と授業内容の類似点、相違点を確認すること。 |
| 使用教材・参考文献 | 使用教材 | 教科書は特に指定しない。講義中に配布するプリント（ハンドアウト）を用いる。 |
| | 参考文献 | 適宜指示する。 |
| 成績評価の基準と方法 | 基準 | 参考文献を英語で読める、要約ができる、そして、自分なりの意見、考えを述べられるものを合格とする。 |
| | 方法 | reading assignment 50%, presentation 50% |
| 備考 | 毎回の予習は必須事項。 | |

| 授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ） | | |
|-------------------------------------|-------------|-----|
| 教育課程の獲得目標 | レベルに応じた到達目標 | レベル |
| | | |
| | | |
| | | |

| | | |
|------------|--|---|
| 科目名 | 卒業研究 I | |
| 担当者 | 酒瀬川 純行 / SAKASEGAWA, Sumiyuki | |
| 科目情報 | 人間文化<卒業> / 必修 / 後期 / 演習 / 2単位 / 3年次 | |
| | — | |
| 科目概要 | 授業内容 | ゼミ担当教員の指示により英国の歴史、文化等に関するテーマについて演習形態で卒業論文作成に向けた研究を行う。 |
| | 到達目標 | 卒業論文を作成するために必要な研究の方法論や文献収集法を学び、自らの問題意識の焦点化と研究テーマの絞り込みをする。 |
| 授業計画 | (1) 卒業論文作成に関するオリエンテーション (2) 卒業論文のテーマに関する資料収集と発表、指導教員のアドバイス。 (3) 卒業論文のテーマに関する資料収集と発表、指導教員のアドバイス。 (4) 卒業論文のテーマに関する資料収集と発表、指導教員のアドバイス。 (5) 卒業論文のテーマに関する資料収集と発表、指導教員のアドバイス。 (6) 卒業論文のテーマに関する資料収集と発表、指導教員のアドバイス。 (7) 卒業論文のテーマに関する資料収集と発表、指導教員のアドバイス。 (8) 卒業論文のテーマに関する資料収集と発表、指導教員のアドバイス。 (9) 卒業論文のテーマに関する資料収集と発表、指導教員のアドバイス。 (10) 卒業論文のテーマに関する資料収集と発表、指導教員のアドバイス。 (11) 卒業論文のテーマに関する資料収集と発表、指導教員のアドバイス。 (12) 卒業論文のテーマに関する資料収集と発表、指導教員のアドバイス。 (13) 卒業論文のテーマに関する資料収集と発表、指導教員のアドバイス。 (14) 卒業論文のテーマに関する資料収集と発表、指導教員のアドバイス。 (15) 総まとめ | |
| 自学自習 | 事前学習 | 卒業論文テーマに関する資料を読み、発表に備える。 |
| | 事後学習 | 指導教員の指導に基づき新たな資料等を調べ、発表に備える。 |
| 使用教材・参考文献 | 使用教材 | 教科書は特に指定しない。講義中に配布するプリント（ハンドアウト）等を用いる。 |
| | 参考文献 | 樋口昌幸、PA Goldsbury 『英語論文表現事典』北星堂書店 1982 ISBN4-590-01083-6 研究社出版編集部 『英文科学生必携ハンドブック』 研究社出版 1981 ISBN4-327-48071-1 |
| 成績評価の基準と方法 | 基準 | テーマに沿って研究方法を設定、資料収集し、論文作成の準備ができた者は合格とする。 |
| | 方法 | 毎時間の発表（80%）、研究態度（20%） |
| 備考 | | |

| 授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ） | | |
|-------------------------------------|-------------|-----|
| 教育課程の獲得目標 | レベルに応じた到達目標 | レベル |
| | | |
| | | |
| | | |

| | | |
|------------|--|---|
| 科目名 | 卒業研究 I | |
| 担当者 | マーカス・シオボールド / Marcus Theobald | |
| 科目情報 | 人間文化<卒業> / 必修 / 後期 / 演習 / 2単位 / 3年次 | |
| | — | |
| 科目概要 | 授業内容 | Discuss areas of interest for study, research guidance and collaborative writing. それぞれが興味を持った研究や情報源、論文の書き方について話し合います。 |
| | 到達目標 | 卒業論文のタイトルを決定し、研究内容について理解すること。卒業論文を完成させること。 |
| 授業計画 | (1) Continue writing (2) Discuss areas of interest (3) Direct towards areas of research (4) Start writing down chunks of research information (5) Continue writing (6) Continue writing (7) Continue writing (8) Continue writing (9) Continue writing (10) Continue writing (11) Assess research and discover a title (12) Continue writing (13) Continue writing (14) Continue writing (15) Review writing and guide research for the summer | |
| 自学自習 | 事前学習 | ・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。 |
| | 事後学習 | ゼミの内容を復習しておくこと。毎週新しい研究内容を提示すること。 |
| 使用教材・参考文献 | 使用教材 | 担当者作成資料 |
| | 参考文献 | Depending on the student's area of research |
| 成績評価の基準と方法 | 基準 | ゼミへ毎週参加し、多くの文献を調べて、新しい知見を取り入れて自分の意見が決まっていること。 |
| | 方法 | ゼミ中の発表、コントリビューション100% |
| 備考 | | |

| 授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ） | | |
|-------------------------------------|-------------|-----|
| 教育課程の獲得目標 | レベルに応じた到達目標 | レベル |
| | | |
| | | |
| | | |

| | | |
|------------|---|---|
| 科目名 | 卒業研究 I | |
| 担当者 | 嶋田 直哉 / SHIMADA, Naoya | |
| 科目情報 | 人間文化<卒業> / 必修 / 後期 / 演習 / 2単位 / 3年次 | |
| | — | |
| 科目概要 | 授業内容 | ゼミ担当教員の指示により演習形態で卒業論文作成に向けた研究を行う。 |
| | 到達目標 | 卒業論文を作成するために必要な研究の方法論や文献収集法を学び、自らの問題意識の焦点化と研究テーマの絞り込みをする。 |
| 授業計画 | (1) ゼミ担当教員の指示による。 (2) ゼミ担当教員の指示による。 (3) ゼミ担当教員の指示による。 (4) ゼミ担当教員の指示による。 (5) ゼミ担当教員の指示による。 (6) ゼミ担当教員の指示による。 (7) ゼミ担当教員の指示による。 (8) ゼミ担当教員の指示による。 (9) ゼミ担当教員の指示による。 (10) ゼミ担当教員の指示による。 (11) ゼミ担当教員の指示による。 (12) ゼミ担当教員の指示による。 (13) ゼミ担当教員の指示による。 (14) ゼミ担当教員の指示による。 (15) ゼミ担当教員の指示による。 | |
| 自学自習 | 事前学習 | ・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。 |
| | 事後学習 | ・新たに出た課題について調べる。 |
| 使用教材・参考文献 | 使用教材 | 教科書は特に指定しない。 |
| | 参考文献 | ゼミ担当教員の指示による。 |
| 成績評価の基準と方法 | 基準 | テーマに沿って研究方法を設定、資料収集し、論文作成の準備ができた者は合格とする。 |
| | 方法 | 受講態度 40%、卒業論文 60%。 |
| 備考 | | |

| 授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ） | | |
|-------------------------------------|-------------|-----|
| 教育課程の獲得目標 | レベルに応じた到達目標 | レベル |
| | | |
| | | |
| | | |

| | | |
|------------|---|--|
| 科目名 | 卒業研究 I | |
| 担当者 | 新内 康子 / SHIN' UCHI, Koko | |
| 科目情報 | 人間文化<卒業> / 必修 / 後期 / 演習 / 2単位 / 3年次 | |
| | - | |
| 科目概要 | 授業内容 | 4年次における卒業論文作成のための基礎能力が身につけられるよう、日本語教育学の日本語教育史・第二言語習得・対照言語学などの領域に関する問題と論点を知り、それらの問題解決の方法論について考える。 |
| | 到達目標 | 「日本語教育額の領域に関する論点と分析方法がわかるようになる。」 「論文の作成方法がわかるようになる。」 「卒業論文のテーマが見つげ出せる。」 |
| 授業計画 | (1) 日本語教育史の先行研究について (講義) (2) 同上 (講義) (3) 同上 (講義) (4) 同上に関する発表 (演習) (5) 同上に関する発表 (演習) (6) 第二言語習得の先行研究について (講義) (7) 同上 (講義) (8) 同上 (講義) (9) 同上に関する発表 (演習) (10) 同上に関する発表 (演習) (11) 対照言語学の先行研究について (講義) (12) 同上 (講義) (13) 同上 (講義) (14) 同上に関する発表 (演習) (15) 同上に関する発表 (演習) | |
| 自学自習 | 事前学習 | ・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・発表に備え興味のある文献等をできるかぎり多く読むこと。 |
| | 事後学習 | ・発表したこと等以外にも多くの文献を読み、卒業論文のテーマを探し出すこと。 ・訂正された発表要旨を確実に訂正しておくこと。 |
| 使用教材・参考文献 | 使用教材 | プリント |
| | 参考文献 | 関正昭『日本語教育史研究序説』1997年 スリーエーネットワーク 迫田久美子『日本語教育に生かす第二言語習得研究』2002年 アルク 水谷信子『続日英比較話しことばの文法』2001年 くろしお出版 |
| 成績評価の基準と方法 | 基準 | 日本語教育史・第二言語習得・対照言語学といった分野の論点と分析方法、論文の作成方法がわかり、卒業論文のテーマが見つげ出せれば、合格とする。 |
| | 方法 | 授業における積極性 (20点)、発表 (30点)、レポート (30点)、卒業論文計画書 (20点) |
| 備考 | 日本語教育関係の科目を履修している者を対象とする。 | |

| 授業マトリクス上の位置づけ (科目が設置された学科、コースでの位置づけ) | | |
|--------------------------------------|-------------|-----|
| 教育課程の獲得目標 | レベルに応じた到達目標 | レベル |
| | | |
| | | |
| | | |

| | | |
|------------|--|--|
| 科目名 | 卒業研究 I | |
| 担当者 | 宗 建郎 / SOH, Tatsuroh | |
| 科目情報 | 人間文化<卒業> / 必修 / 後期 / 演習 / 2単位 / 3年次 | |
| | — | |
| 科目概要 | 授業内容 | 地理学に関する基礎的な文献および研究論文を読んでまとめ、発表を行う。 |
| | 到達目標 | 卒業論文の研究テーマを絞り込み、その分野に関する研究動向を把握する。 |
| 授業計画 | (1) イントロダクション (2) 文献検索 (3) 発表およびディスカッション (4) 発表およびディスカッション (5) 発表およびディスカッション (6) 発表およびディスカッション (7) 発表およびディスカッション (8) 発表およびディスカッション (9) 発表およびディスカッション (10) 発表およびディスカッション (11) 発表およびディスカッション (12) 発表およびディスカッション (13) 発表およびディスカッション (14) 発表およびディスカッション (15) まとめ | |
| 自学自習 | 事前学習 | ・常に自らに必要と思われる文献がないか調べてみること。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。 |
| | 事後学習 | ・自らの発表や他の学生の発表結果を振り返り、次の文献検索につなげていくこと。 |
| 使用教材・参考文献 | 使用教材 | 教科書は特に指定しない。 |
| | 参考文献 | 適宜指示する。 |
| 成績評価の基準と方法 | 基準 | 卒業論文の研究テーマを絞り込み、そのテーマに関する研究動向を理解していることを基準とする。 |
| | 方法 | 発表 70%・受講態度 30% |
| 備考 | 授業には積極的に参加してください。 | |

| 授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ） | | |
|-------------------------------------|-------------|-----|
| 教育課程の獲得目標 | レベルに応じた到達目標 | レベル |
| | | |
| | | |
| | | |

| | | |
|------------|---|---|
| 科目名 | 卒業研究 I | |
| 担当者 | 原口 泉 / HARAGUCHI, Izumi | |
| 科目情報 | 人間文化<卒業> / 必修 / 後期 / 演習 / 2単位 / 3年次 | |
| | — | |
| 科目概要 | 授業内容 | ゼミ担当教員の指示により演習形態で卒業論文作成に向けた研究を行う。 |
| | 到達目標 | 卒業論文を作成するために必要な研究の方法論や文献収集法を学び、自らの問題意識の焦点化と研究テーマの絞り込みをする。 |
| 授業計画 | (1) ゼミ担当教員による史料解読 (2) " " (3) " " (4) " " (5) " " (6) " " (7) " " (8) 学生による発表（史料解読） (9) " " (10) " " (11) " " (12) " " (13) " " (14) " " (15) 総まとめ | |
| 自学自習 | 事前学習 | 「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。 |
| | 事後学習 | 新たに出た課題について調べる。 |
| 使用教材・参考文献 | 使用教材 | 古文書・古記録の史料を配布する。 |
| | 参考文献 | 『鹿児島県史料・旧記雑録』 黎明館 |
| 成績評価の基準と方法 | 基準 | 卒業論文の研究テーマを絞り込み、そのテーマに関する研究動向を理解していることを基準とする。 |
| | 方法 | 授業での報告と議論が 60%、その結果でてきた成果物（レジュメ、論文の草稿など）が 40% |
| 備考 | | |

| 授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ） | | |
|-------------------------------------|-------------|-----|
| 教育課程の獲得目標 | レベルに応じた到達目標 | レベル |
| | | |
| | | |
| | | |

| | | |
|------------|--|--|
| 科目名 | 卒業研究 I | |
| 担当者 | 平塚 雄亮 / HIRATSUKA, Yusuke | |
| 科目情報 | 人間文化<卒業> / 必修 / 後期 / 演習 / 2単位 / 3年次 | |
| | — | |
| 科目概要 | 授業内容 | 次年度の卒業論文の執筆に向けて、各自の興味のあるテーマにかんする論文を選び、それについてレジュメにまとめて発表する。ゼミ参加者もその論文についてじっくり読み、授業時には積極的にディスカッションに参加する。 |
| | 到達目標 | 卒業論文を作成するために必要な研究の方法論や文献収集法を学び、自らの問題意識の焦点化と研究テーマの絞り込みをすることができるようになる。 |
| 授業計画 | (1) ゼミ担当教員の指示による (2) ゼミ担当教員の指示による (3) ゼミ担当教員の指示による (4) ゼミ担当教員の指示による (5) ゼミ担当教員の指示による (6) ゼミ担当教員の指示による (7) ゼミ担当教員の指示による (8) ゼミ担当教員の指示による (9) ゼミ担当教員の指示による (10) ゼミ担当教員の指示による (11) ゼミ担当教員の指示による (12) ゼミ担当教員の指示による (13) ゼミ担当教員の指示による (14) ゼミ担当教員の指示による (15) ゼミ担当教員の指示による | |
| 自学自習 | 事前学習 | 各回の担当者の選んだ論文をしっかりと読んでくる。また、各自の発表に向けて準備する。 |
| | 事後学習 | 各回の発表についてわからなかったこと、疑問に思ったことがあれば自分で調べる。 |
| 使用教材・参考文献 | 使用教材 | 特に指定しない。 |
| | 参考文献 | 授業時に適宜指示する。 |
| 成績評価の基準と方法 | 基準 | 上記の到達目標にしたがい、先行研究を適切にまとめられるようになれば合格とする。 |
| | 方法 | 発表 50%、議論への参加 50% |
| 備考 | | |

| 授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ） | | |
|-------------------------------------|-------------|-----|
| 教育課程の獲得目標 | レベルに応じた到達目標 | レベル |
| | | |
| | | |
| | | |

| | | |
|------------|--|--|
| 科目名 | 卒業研究 I | |
| 担当者 | 溝上 宏美 / MIZOKAMI, Hiromi | |
| 科目情報 | 人間文化<卒業> / 必修 / 後期 / 演習 / 2単位 / 3年次 | |
| | — | |
| 科目概要 | 授業内容 | 卒業論文で扱う課題を各自設定し、参考文献を収集してその内容を報告するとともに、史料の収集、読解をおこなう。 |
| | 到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・卒業論文を書くために、専門的な知識に基づいて、自ら課題を設定することができるようになる。 ・自らが調べている分野に関する先行研究の状況を把握し、卒論の議論の見通しを立てることができるようになる。 ・自ら調べた内容を報告し、議論することができるようになる。 |
| 授業計画 | (1) オリエンテーション (2) 報告と議論 (3) 報告と議論 (4) 報告と議論 (5) 報告と議論 (6) 報告と議論 (7) 報告と議論 (8) 報告と議論 (9) 報告と議論 (10) 報告と議論 (11) 報告と議論 (12) 報告と議論 (13) 報告と議論 (14) 報告と議論 (15) 卒業研究 II にむけて | |
| 自学自習 | 事前学習 | ・報告に向けて、必要な文献を収集し、読み、まとめておくこと。 |
| | 事後学習 | ・報告の際に指摘された問題点について検討し、必要なところが調べておくこと。 |
| 使用教材・参考文献 | 使用教材 | 教科書は使用しない。報告者がレジュメと資料を準備する。 |
| | 参考文献 | 指導教員の助言の下、自ら参考文献、史料を探す。 |
| 成績評価の基準と方法 | 基準 | 当該分野において、先行研究を踏まえたうえで適切に問題設定ができており、必要な参考文献や資料を収集し、整理して報告できているかを基準とする。 |
| | 方法 | 授業での報告と議論が 60%、その結果でできた成果物（レジュメ、論文の草稿など）が 40% |
| 備考 | 史料読解（特に英語史料）については、別途時間を設けて個別指導を行うこともある。 | |

| 授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ） | | |
|-------------------------------------|-------------|-----|
| 教育課程の獲得目標 | レベルに応じた到達目標 | レベル |
| | | |
| | | |
| | | |

| | | |
|------------|---|---|
| 科目名 | 卒業研究 I | |
| 担当者 | 宮野 直也 / MIYANO, Naoya | |
| 科目情報 | 人間文化<卒業> / 必修 / 後期 / 演習 / 2単位 / 3年次 | |
| | — | |
| 科目概要 | 授業内容 | 演習形態で卒業論文作成に向けた研究を行う。具体的な内容は学生の研究対象と論文の題目に因る。 |
| | 到達目標 | 卒業論文を執筆するために必要なスキル、資料の搜索法、文献の解釈法、研究の方法論を理解する。 |
| 授業計画 | (1) オリエンテーション (2) 学生と相談してテーマを決定する。 (3) 演習 (4) 演習 (5) 演習 (6) 演習 (7) 演習 (8) 演習 (9) 演習 (10)演習 (11)演習 (12)演習 (13)演習 (14)演習 (15)総まとめ | |
| 自学自習 | 事前学習 | 前回の授業で指示された課題の遂行。 |
| | 事後学習 | 学生の研究対象に応じて、毎回課題を出す。また、前回の課題の結果に追加・訂正を指示する。 |
| 使用教材・参考文献 | 使用教材 | 教科書は特に指定しない。 |
| | 参考文献 | 学生の研究対象に合わせて指示する。 |
| 成績評価の基準と方法 | 基準 | 資料の搜索法、文献の解釈法、研究の方法論を理解できれば合格とする。 |
| | 方法 | 資料の搜索法 20%、文献の解釈法 20%、研究の方法論 20%、出席態度 40%。 |
| 備考 | | |

| 授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ） | | |
|-------------------------------------|-------------|-----|
| 教育課程の獲得目標 | レベルに応じた到達目標 | レベル |
| | | |
| | | |
| | | |

| | | |
|------------|--|---|
| 科目名 | 卒業研究 I | |
| 担当者 | 山崎 桂子 / YAMASAKI, Keiko | |
| 科目情報 | 人間文化<卒業> / 必修 / 後期 / 演習 / 2単位 / 3年次 | |
| | — | |
| 科目概要 | 授業内容 | 卒業論文で扱うテーマを絞り込み、当該領域における先行研究を整理し、研究を行うに当たっての問題意識を明確化する。古典文学研究の基礎的方法論を学ぶ。 |
| | 到達目標 | 1) 自分の研究テーマを確定する。 2) 原文の読み込み。 3) 先行研究を収集する。 4) ゼミ生同士がお互いの研究を理解し、批評し合う。 |
| 授業計画 | (1) オリエンテーション (2) 扱う作品・テーマの絞り込み (演習) (3) 〃 (4) 〃 (5) 作品・テーマを決定し、底本等の入手 (6) 先行する研究文献の収集 (7) 〃 (8) 〃 (9) 対象作品の概略を理解する (演習) (10) 対象作品の読み込み (演習) (11) 〃 (12) 〃 (13) 〃 (14) 〃 (15) 総まとめ | |
| 自学自習 | 事前学習 | ・自分の研究について資料を作成し、報告・発表の準備をする。 ・不明な点を質問できるように準備する。 |
| | 事後学習 | ・演習で指摘された不備・問題点を解決する。 ・それらを整理してデータとして蓄積する。 |
| 使用教材・参考文献 | 使用教材 | 各自の取り上げる作品による。 |
| | 参考文献 | 受講生それぞれに応じたものを適宜指示する。 |
| 成績評価の基準と方法 | 基準 | 研究対象とする作品とテーマを決定し、底本入手、先行研究論文収集が出来、研究の見通しが立てば合格とする。 |
| | 方法 | 演習 (70%)、授業参加度 (30%) |
| 備考 | | |

| 授業マトリクス上の位置づけ (科目が設置された学科、コースでの位置づけ) | | |
|--------------------------------------|-------------|-----|
| 教育課程の獲得目標 | レベルに応じた到達目標 | レベル |
| | | |
| | | |
| | | |

| | | |
|------------|--|---|
| 科目名 | 卒業研究 I | |
| 担当者 | 横山 政子 / YOKOYAMA, Masako | |
| 科目情報 | 人間文化<卒業> / 必修 / 後期 / 演習 / 2単位 / 3年次 | |
| | — | |
| 科目概要 | 授業内容 | ゼミ担当教員の指示により演習形態で卒業論文作成に向けた研究を行う。 |
| | 到達目標 | 卒業論文を作成するために必要な研究の方法論や文献収集法を学び、自らの問題意識の焦点化と研究テーマの絞り込みをする。 |
| 授業計画 | (1) ゼミ担当教員の指示による。 (2) " " (3) " " (4) " " (5) " " (6) " " (7) " " (8) " " (9) " " (10) " " (11) " " (12) " " (13) " " (14) " " (15) 総まとめ | |
| 自学自習 | 事前学習 | 「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 |
| | 事後学習 | 新たに出た課題について調べる。 |
| 使用教材・参考文献 | 使用教材 | ゼミ担当教員の指示による。 |
| | 参考文献 | ゼミ担当教員の指示による。 |
| 成績評価の基準と方法 | 基準 | 興味関心にそって先行研究を収集し、研究動向を把握してテーマを絞り込めていれば合格とする。 |
| | 方法 | 授業における報告と議論（40%）、卒業論文準備書（60%）。 |
| 備考 | | |

| 授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ） | | |
|-------------------------------------|-------------|-----|
| 教育課程の獲得目標 | レベルに応じた到達目標 | レベル |
| | | |
| | | |
| | | |

| | | |
|------------|---|---|
| 科目名 | 卒業研究Ⅱ | |
| 担当者 | 入江 公啓 / IRIE, Kimihiro | |
| 科目情報 | 人間文化<卒業> / 必修 / 前期 / 演習 / 2単位 / 4年次 | |
| | — | |
| 科目概要 | 授業内容 | 卒業研究Ⅰで学んだことを踏まえてより具体的に卒業論文作成の仕方を学び、執筆に取り組む。 |
| | 到達目標 | 卒業論文を完成させる。 |
| 授業計画 | (1) 卒業論文についてのディスカッション、作成、校正 (1) (2) 卒業論文についてのディスカッション、作成、校正 (2) (3) 卒業論文についてのディスカッション、作成、校正 (3) (4) 卒業論文についてのディスカッション、作成、校正 (4) (5) 卒業論文についてのディスカッション、作成、校正 (5) (6) 卒業論文についてのディスカッション、作成、校正 (6) (7) 卒業論文についてのディスカッション、作成、校正 (7) (8) 卒業論文についてのディスカッション、作成、校正 (8) (9) 卒業論文についてのディスカッション、作成、校正 (9) (10) 卒業論文についてのディスカッション、作成、校正 (10) (11) 卒業論文についてのディスカッション、作成、校正 (11) (12) 卒業論文についてのディスカッション、作成、校正 (12) (13) 卒業論文についてのディスカッション、作成、校正 (13) (14) 卒業論文についてのディスカッション、作成、校正 (14) (15) 卒業論文についてのディスカッション、作成、校正 (15) | |
| 自学自習 | 事前学習 | 配布したプリントは前もって読んでおくこと。 |
| | 事後学習 | 指示された課題を行うこと。 |
| 使用教材・参考文献 | 使用教材 | 教科書は特に指定しない。講義中に配布するプリント（ハンドアウト）を用いる。 |
| | 参考文献 | 別途指示する。 |
| 成績評価の基準と方法 | 基準 | 卒業論文を完成できたものは合格とする。 |
| | 方法 | 受講態度 40%、卒業論文 60%。 |
| 備考 | | |

| 授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ） | | |
|-------------------------------------|-------------|-----|
| 教育課程の獲得目標 | レベルに応じた到達目標 | レベル |
| | | |
| | | |
| | | |

| | | |
|------------|---|---|
| 科目名 | 卒業研究Ⅱ | |
| 担当者 | 入佐 信宏 / IRISA, Nobuhiro | |
| 科目情報 | 人間文化<卒業> / 必修 / 前期 / 演習 / 2単位 / 4年次 | |
| | — | |
| 科目概要 | 授業内容 | テーマに関連した先行研究の問題と論点を知り、研究計画に基づいて調査、データの分析、考察を行い、卒業論文を作成する。 |
| | 到達目標 | (1) 卒業論文を作成するための論点と分析方法を決定できる。 (2) 日本語教育学の分野で卒業論文を作成できる。 |
| 授業計画 | (1) 卒業論文の作成方法について (2) テーマ、研究目的、研究方法、研究の意義について (3) 研究計画について (4) 先行研究の発表および議論 (5) 〃 (6) 〃 (7) 〃 (8) 先行研究をまとめる (9) 調査方法、サンプル調査 (10) データ収集 (11) 〃 (12) 〃 (13) データの分析および考察 (14) 〃 (15) 〃 | |
| 自学自習 | 事前学習 | 卒業論文のテーマに関連した先行研究を読み、問題と論点を理解すること。 |
| | 事後学習 | 研究計画に基づき、調査、データの分析、考察を行い、卒業論文を作成すること。 |
| 使用教材・参考文献 | 使用教材 | 教科書は使用しない。 |
| | 参考文献 | 授業の中で必要に応じて紹介する。 |
| 成績評価の基準と方法 | 基準 | 上記の到達目標を達成できた者を合格とします。 |
| | 方法 | 授業での積極性(20点)、発表(50点)、卒業論文中間発表(30点)で評価します。 |
| 備考 | | |

| 授業マトリクス上の位置づけ (科目が設置された学科、コースでの位置づけ) | | |
|--------------------------------------|-------------|-----|
| 教育課程の獲得目標 | レベルに応じた到達目標 | レベル |
| | | |
| | | |
| | | |

| | | |
|------------|---|--|
| 科目名 | 卒業研究Ⅱ | |
| 担当者 | 蒲地 賢一郎 / KAMACHI, Kenichiro | |
| 科目情報 | 人間文化<卒業> / 必修 / 前期 / 演習 / 2単位 / 4年次 | |
| | — | |
| 科目概要 | 授業内容 | 英語の文献を読み、テーマを探す。研究発表の準備と、その実践。そして、研究論文を書いてみる。 |
| | 到達目標 | 参考文献を英語で読める、要約ができる、そして、自分なりの意見、考えを述べられるようになる。 |
| 授業計画 | (1) 英語文を読む。研究発表の準備をする。 (2) 英語文を読む。研究発表の準備をする。 (3) 英語文を読む。研究発表の準備をする。 (4) 英語文を読む。研究発表の準備をする。 (5) 英語文を読む。研究発表の準備をする。 (6) 英語文を読む。研究発表の準備をする。 (7) 英語文を読む。研究発表の準備をする。 (8) 英語文を読む。研究発表をする。 (9) 英語文を読む。研究発表をする。 (10) 英語文を読む。研究発表をする。 (11) 英語文を読む。研究発表をする。 (12) 英語文を読む。研究発表をする。 (13) 英語文を読む。研究発表をする。 (14) 英語文を読む。研究発表をする。 (15) 総まとめ | |
| 自学自習 | 事前学習 | ・「使用教材」を読んでおくこと。 ・意味のわからない単語は辞書で調べておくこと。 |
| | 事後学習 | ・授業後に、当日読んだ英語文を再読すること。 ・予習内容と授業内容の類似点、相違点を確認すること。 |
| 使用教材・参考文献 | 使用教材 | 教科書は特に指定しない。講義中に配布するプリント（ハンドアウト）を用いる。 |
| | 参考文献 | 適宜指示する。 |
| 成績評価の基準と方法 | 基準 | 参考文献を英語で読める、要約ができる、そして、自分なりの意見、考えを述べられるものを合格とする。 |
| | 方法 | reading assignment 50%, presentation 50% |
| 備考 | 毎回の予習は必須事項。 | |

| 授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ） | | |
|-------------------------------------|-------------|-----|
| 教育課程の獲得目標 | レベルに応じた到達目標 | レベル |
| | | |
| | | |
| | | |

| | | |
|------------|---|--|
| 科目名 | 卒業研究Ⅱ | |
| 担当者 | 酒瀬川 純行 / SAKASEGAWA, Sumiyuki | |
| 科目情報 | 人間文化<卒業> / 必修 / 前期 / 演習 / 2単位 / 4年次 | |
| | — | |
| 科目概要 | 授業内容 | ゼミ担当教員の指示により英国の歴史、文化等に関するテーマについて演習形態で卒業論文作成に向けた研究を行う。 |
| | 到達目標 | 卒業論文を作成するために必要な研究の方法論や文献収集法を学び、自らの問題意識の焦点化と研究テーマの絞り込みをする。 |
| 授業計画 | (1) 卒業論文のテーマに関する資料収集と発表、指導教員のアドヴァイス。 (2) 卒業論文(英語)の書き方、指導教員のアドヴァイス。 (3) 卒業論文(英語)作成準備、指導教員の指導及びアドヴァイス。 (4) 卒業論文(英語)作成準備、指導教員の指導及びアドヴァイス。 (5) 卒業論文(英語)作成準備、指導教員の指導及びアドヴァイス。 (6) 卒業論文(英語)作成準備、指導教員の指導及びアドヴァイス。 (7) 卒業論文(英語)作成準備、指導教員の指導及びアドヴァイス。 (8) 卒業論文(英語)作成準備、指導教員の指導及びアドヴァイス。 (9) 卒業論文(英語)作成準備、指導教員の指導及びアドヴァイス。 (10) 卒業論文(英語)作成準備、指導教員の指導及びアドヴァイス。 (11) 卒業論文(英語)作成準備、指導教員の指導及びアドヴァイス。 (12) 卒業論文(英語)作成準備、指導教員の指導及びアドヴァイス。 (13) 卒業論文(英語)作成準備、指導教員の指導及びアドヴァイス。 (14) 卒業論文(英語)作成準備、指導教員の指導及びアドヴァイス。 (15) 総まとめ | |
| 自学自習 | 事前学習 | 卒業論文テーマに関する資料を読み、論文(草案)を準備する。 |
| | 事後学習 | 指導教員の指導、アドヴァイスに基づき論文(草案)を推敲する。 |
| 使用教材・参考文献 | 使用教材 | 教科書は特に指定しない。講義中に配布するプリント(ハンドアウト)等を用いる。 |
| | 参考文献 | 樋口昌幸、PA Goldsbury 『英語論文表現事典』北星堂書店 1982 ISBN4-590-01083-6 研究社出版編集部 『英文科学生必携ハンドブック』 研究社出版 1981 ISBN4-327-48071-1 |
| 成績評価の基準と方法 | 基準 | テーマに沿って研究方法を設定、資料収集し、論文作成の準備ができた者は合格とする。 |
| | 方法 | 毎時間のペーパー提出(80%)、研究態度(20%) |
| 備考 | | |

| 授業マトリクス上の位置づけ(科目が設置された学科、コースでの位置づけ) | | |
|-------------------------------------|-------------|-----|
| 教育課程の獲得目標 | レベルに応じた到達目標 | レベル |
| | | |
| | | |
| | | |

| | | |
|------------|---|---|
| 科目名 | 卒業研究Ⅱ | |
| 担当者 | マーカス・シオボールド / Marcus Theobald | |
| 科目情報 | 人間文化<卒業> / 必修 / 前期 / 演習 / 2単位 / 4年次 | |
| | — | |
| 科目概要 | 授業内容 | Discuss areas of interest for study, research guidance and collaborative writing. それぞれが興味を持った研究や情報源、論文の書き方について話し合います。 |
| | 到達目標 | 研究内容について理解すること。卒業論文を完成させること。 |
| 授業計画 | (1) Continue writing (2) Continue writing (3) Continue writing (4) Continue writing (5) Continue writing (6) Continue writing (7) Continue writing (8) Continue writing (9) Continue writing (10) Complete first draft (11) Arrange chapters and contents (12) Compile second draft (13) Add final pieces of necessary information (14) Produce final report (15) Practice presentation of research | |
| 自学自習 | 事前学習 | ・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。 |
| | 事後学習 | ゼミの内容を復習しておくこと。毎週新しい研究内容を提示すること。 |
| 使用教材・参考文献 | 使用教材 | 担当者作成資料 |
| | 参考文献 | Depending on the student's area of research |
| 成績評価の基準と方法 | 基準 | ゼミへ毎週参加し、卒業研究に取り組むこと。自分の意見をより発展させていること。 |
| | 方法 | ゼミ中の発表と論文、コントリビューション 100% |
| 備考 | | |

| 授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ） | | |
|-------------------------------------|-------------|-----|
| 教育課程の獲得目標 | レベルに応じた到達目標 | レベル |
| | | |
| | | |
| | | |

| | | |
|------------|---|--|
| 科目名 | 卒業研究Ⅱ | |
| 担当者 | 嶋田 直哉 / SHIMADA, Naoya | |
| 科目情報 | 人間文化<卒業> / 必修 / 前期 / 演習 / 2単位 / 4年次 | |
| | — | |
| 科目概要 | 授業内容 | 卒業研究Ⅰで学んだことを踏まえてより具体的に卒業論文作成の仕方を学び、執筆に取り組む。 |
| | 到達目標 | 卒業論文を完成させる。 |
| 授業計画 | (1) ゼミ担当教員の指示による。 (2) ゼミ担当教員の指示による。 (3) ゼミ担当教員の指示による。 (4) ゼミ担当教員の指示による。 (5) ゼミ担当教員の指示による。 (6) ゼミ担当教員の指示による。 (7) ゼミ担当教員の指示による。 (8) ゼミ担当教員の指示による。 (9) ゼミ担当教員の指示による。 (10) ゼミ担当教員の指示による。 (11) ゼミ担当教員の指示による。 (12) ゼミ担当教員の指示による。 (13) ゼミ担当教員の指示による。 (14) ゼミ担当教員の指示による。 (15) ゼミ担当教員の指示による。 | |
| 自学自習 | 事前学習 | ・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。 |
| | 事後学習 | ・新たに出た課題について調べる。 |
| 使用教材・参考文献 | 使用教材 | ゼミ担当教員の指示による |
| | 参考文献 | ゼミ担当教員の指示による |
| 成績評価の基準と方法 | 基準 | テーマに沿って研究方法を設定、資料収集し、論文作成の準備ができた者は合格とする。 |
| | 方法 | 受講態度 40%、卒業論文 60%。 |
| 備考 | | |

| 授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ） | | |
|-------------------------------------|-------------|-----|
| 教育課程の獲得目標 | レベルに応じた到達目標 | レベル |
| | | |
| | | |
| | | |

| | | |
|------------|--|---|
| 科目名 | 卒業研究Ⅱ | |
| 担当者 | 新内 康子 / SHIN' UCHI, Koko | |
| 科目情報 | 人間文化<卒業> / 必修 / 前期 / 演習 / 2単位 / 4年次 | |
| | — | |
| 科目概要 | 授業内容 | 卒業研究Ⅰで決めた卒業論文テーマについて、多くの先行研究を読み要約し、具体的な論点を浮き彫りにし、卒業論文に用いる分析方法と論文の構成を決める。 |
| | 到達目標 | 「卒業論文の詳細なテーマが決められる。」 「先行研究が適切に要約できる。」 「卒業論文のテーマに合った適切な調査・分析方法が決められる。」 「卒業論文の構成が決められる。」 |
| 授業計画 | (1) 授業概要説明。卒業研究Ⅰで提出した卒業論文計画書の検討。 (2) 先行研究①発表と検討 (3) 先行研究②発表と検討 (4) 先行研究③発表と検討 (5) 卒業論文題目の具体的で詳細な検討 (6) 先行研究④発表と検討 (7) 先行研究⑤発表と検討 (8) 先行研究⑥発表と検討 (9) 先行研究⑦発表と検討 (10) 先行研究⑧発表と検討 (11) 先行研究⑨発表と検討 (12) 先行研究⑩発表と検討 (13) 卒業論文に用いる調査・分析方法の検討 (14) 卒業論文の構成の発表と検討 (15) 卒業論文「1. はじめに」「2. 先行研究」の文章検討 | |
| 自学自習 | 事前学習 | ・卒業論文のテーマに関わる先行研究を探し出し、読み、適切に要約しておくこと。 |
| | 事後学習 | ・発表後の検討で指摘された内容を再確認し、訂正・加筆等しておくこと。 |
| 使用教材・参考文献 | 使用教材 | 必要なものは授業時に適宜指示する。 |
| | 参考文献 | 必要なものは授業時に適宜指示する。 |
| 成績評価の基準と方法 | 基準 | 卒業論文のテーマにもとづき、卒業論文の「1. はじめに」「2. 先行研究」がまとめられれば、合格とする。 |
| | 方法 | 発表（50点）、レポート（50点） |
| 備考 | | |

| 授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ） | | |
|-------------------------------------|-------------|-----|
| 教育課程の獲得目標 | レベルに応じた到達目標 | レベル |
| | | |
| | | |
| | | |

| | | |
|------------|--|--|
| 科目名 | 卒業研究Ⅱ | |
| 担当者 | 宗 建郎 / SOH, Tatsuroh | |
| 科目情報 | 人間文化<卒業> / 必修 / 前期 / 演習 / 2単位 / 4年次 | |
| | — | |
| 科目概要 | 授業内容 | 自ら定めた卒業論文のテーマに沿って学術論文をまとめ、研究方法を学び、対象地域を選定して予備的な調査を行う。また、それぞれの段階で発表を行う。 |
| | 到達目標 | 卒業論文の研究テーマに必要な方法論を身につける。研究対象地域について基礎的な知識を身につける。 |
| 授業計画 | (1) イントロダクション (2) 文献検索 (3) 発表およびディスカッション (4) 発表およびディスカッション (5) 発表およびディスカッション (6) 発表およびディスカッション (7) 発表およびディスカッション (8) 事前調査 (9) 事前調査 (10)発表およびディスカッション (11)発表およびディスカッション (12)発表およびディスカッション (13)発表およびディスカッション (14)発表およびディスカッション (15)まとめ | |
| 自学自習 | 事前学習 | ・常に自らに必要と思われる文献がないか調べてみること。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。 |
| | 事後学習 | ・自らの発表や他の学生の発表結果を振り返り、次の文献検索および研究対象地域選定につなげていくこと。 |
| 使用教材・参考文献 | 使用教材 | 教科書は特に指定しない。 |
| | 参考文献 | 適宜指示する。 |
| 成績評価の基準と方法 | 基準 | 卒業論文作成に必要な研究法を身につけていること、および研究対象地域について基礎的な情報を収集していることを基準とする。 |
| | 方法 | 発表 70%、受講態度 30% |
| 備考 | 授業には積極的に参加してください。 | |

| 授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ） | | |
|-------------------------------------|-------------|-----|
| 教育課程の獲得目標 | レベルに応じた到達目標 | レベル |
| | | |
| | | |
| | | |

| | | |
|------------|--|---|
| 科目名 | 卒業研究Ⅱ | |
| 担当者 | 原口 泉 / HARAGUCHI, Izumi | |
| 科目情報 | 人間文化<卒業> / 必修 / 前期 / 演習 / 2単位 / 4年次 | |
| | — | |
| 科目概要 | 授業内容 | 卒業研究Ⅰで学んだことを踏まえて、より具体的に卒業論文作成の仕方を学び、執筆に取り組む。 |
| | 到達目標 | 卒業論文を完成させる。 |
| 授業計画 | (1) ゼミ担当教員によるオリエンテーション (2) 学生による発表（史料解読と論理構築） (3) 〃 (4) 〃 (5) 〃 (6) 〃 (7) 〃 (8) 〃 (9) 〃 (10) 〃 (11) 〃 (12) 〃 (13) 〃 (14) 〃 (15) 総まとめ | |
| 自学自習 | 事前学習 | 「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 |
| | 事後学習 | 新たに出た課題について調べる。 |
| 使用教材・参考文献 | 使用教材 | 古文書・古記録の史料を配布する。 |
| | 参考文献 | 『鹿児島県史料・旧記雑録』ほか。 |
| 成績評価の基準と方法 | 基準 | 卒業論文の研究テーマを絞り込み、そのテーマに関する研究動向を理解していることを基準とする。 |
| | 方法 | 授業での報告と議論が60%、その結果でてきた成果物（レジュメ、論文の草稿など）が40% |
| 備考 | | |

| 授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ） | | |
|-------------------------------------|-------------|-----|
| 教育課程の獲得目標 | レベルに応じた到達目標 | レベル |
| | | |
| | | |
| | | |

| | | |
|------------|--|--|
| 科目名 | 卒業研究Ⅱ | |
| 担当者 | 平塚 雄亮 / HIRATSUKA, Yusuke | |
| 科目情報 | 人間文化<卒業> / 必修 / 前期 / 演習 / 2単位 / 4年次 | |
| | — | |
| 科目概要 | 授業内容 | 卒業論文の執筆に向けて、各自の興味のあるテーマについて発表するとともに、その卒業論文の完成に必要な参考文献を調べてリスト化する。各自の発表をもとに全員でディスカッションを行い、教員の指導を受ける。 |
| | 到達目標 | 卒業論文の執筆に向けて、各自のテーマを設定するとともに、先行研究について整理する。また、今後行うべき作業についてもはっきりと設定できるようになる。 |
| 授業計画 | (1) ゼミ担当教員の指示による (2) ゼミ担当教員の指示による (3) ゼミ担当教員の指示による (4) ゼミ担当教員の指示による (5) ゼミ担当教員の指示による (6) ゼミ担当教員の指示による (7) ゼミ担当教員の指示による (8) ゼミ担当教員の指示による (9) ゼミ担当教員の指示による (10) ゼミ担当教員の指示による (11) ゼミ担当教員の指示による (12) ゼミ担当教員の指示による (13) ゼミ担当教員の指示による (14) ゼミ担当教員の指示による (15) ゼミ担当教員の指示による | |
| 自学自習 | 事前学習 | 各自の発表に向けて準備をする。 |
| | 事後学習 | 卒業論文の執筆に向けての作業を行う。 |
| 使用教材・参考文献 | 使用教材 | 特に指定しない。 |
| | 参考文献 | 授業時に適宜指示する。 |
| 成績評価の基準と方法 | 基準 | 先行研究を適切にまとめてリスト化し、卒業論文のアウトラインができていれば合格とする。 |
| | 方法 | 発表 50%、議論への参加 50% |
| 備考 | | |

| 授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ） | | |
|-------------------------------------|-------------|-----|
| 教育課程の獲得目標 | レベルに応じた到達目標 | レベル |
| | | |
| | | |
| | | |

| | | |
|------------|--|--|
| 科目名 | 卒業研究Ⅱ | |
| 担当者 | 溝上 宏美 / MIZOKAMI, Hiromi | |
| 科目情報 | 人間文化<卒業> / 必修 / 前期 / 演習 / 2単位 / 4年次 | |
| | — | |
| 科目概要 | 授業内容 | 卒業研究Ⅰに引き続いて、自ら選んだ課題について参考文献、史料を収集して整理し、卒業論文執筆にむけた準備を行う。 |
| | 到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> 必要な参考文献や史料を集めて、その内容を適切に整理し、口頭で報告することができるようになる。 先行研究を踏まえたうえで、参考文献や資料を用いて自ら議論を組み立てることができるようになる。 |
| 授業計画 | (1) 報告と議論 (2) 報告と議論 (3) 報告と議論 (4) 報告と議論 (5) 報告と議論 (6) 報告と議論 (7) 報告と議論 (8) 報告と議論 (9) 報告と議論 (10) 報告と議論 (11) 報告と議論 (12) 報告と議論 (13) 報告と議論 (14) 報告と議論 (15) 卒業論文執筆に向けて | |
| 自学自習 | 事前学習 | <ul style="list-style-type: none"> 報告に向けて、参考文献や史料を収集し、内容を整理しておく。 授業での指示に従って、論文執筆に向けた準備をすすめておく。 |
| | 事後学習 | <ul style="list-style-type: none"> 授業で指摘された問題点、課題について検討し、解決しておく。 |
| 使用教材・参考文献 | 使用教材 | 教科書は使用しない。報告者自らレジュメと資料を作成すること。 |
| | 参考文献 | 指導教員の助言の下、参考文献は自ら探すこと。 |
| 成績評価の基準と方法 | 基準 | 先行研究を踏まえたうえで、自ら探した参考文献や資料を使い、自分で議論を組み立てることができるかを基準とする。 |
| | 方法 | 授業中の議論と報告が 60%、作成したレジュメや資料、論文の草稿が 40%として評価する。 |
| 備考 | 卒業研究Ⅰを履修していること。また、史料読解については、別途時間を設けて個別指導をすることもある。 | |

| 授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ） | | |
|-------------------------------------|-------------|-----|
| 教育課程の獲得目標 | レベルに応じた到達目標 | レベル |
| | | |
| | | |
| | | |

| | | |
|------------|---|---|
| 科目名 | 卒業研究Ⅱ | |
| 担当者 | 宮野 直也 / MIYANO, Naoya | |
| 科目情報 | 人間文化<卒業> / 必修 / 前期 / 演習 / 2単位 / 4年次 | |
| | — | |
| 科目概要 | 授業内容 | 卒業研究Ⅰで学んだことを踏まえてより具体的に卒業論文作成の仕方を学び、執筆に取り組む。具体的な内容は学生の研究対象と論文の題目に因る。 |
| | 到達目標 | 卒業論文を完成できる。 |
| 授業計画 | (1) オリエンテーション (2) 学生と相談して論文の題目の再確認 (3) 演習 (4) 演習 (5) 演習 (6) 演習 (7) 演習 (8) 演習 (9) 演習 (10)演習 (11)演習 (12)演習 (13)演習 (14)演習 (15)総まとめ | |
| 自学自習 | 事前学習 | 前回の授業で指示された課題の遂行。 |
| | 事後学習 | 学生の研究対象に応じて、毎回課題を出す。また、前回の課題の結果に追加・訂正を指示する。 |
| 使用教材・参考文献 | 使用教材 | 教科書は特に指定しない。 |
| | 参考文献 | 学生の研究対象に合わせて指示する。 |
| 成績評価の基準と方法 | 基準 | 卒業論文を完成できれば合格とする。 |
| | 方法 | 資料の搜索と解釈 25%、問題の設定と論証 25%、論理的な文章 25%、出席態度 25%。 |
| 備考 | | |

| 授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ） | | |
|-------------------------------------|-------------|-----|
| 教育課程の獲得目標 | レベルに応じた到達目標 | レベル |
| | | |
| | | |
| | | |

| | | |
|------------|--|--|
| 科目名 | 卒業研究Ⅱ | |
| 担当者 | 山崎 桂子 / YAMASAKI, Keiko | |
| 科目情報 | 人間文化<卒業> / 必修 / 前期 / 演習 / 2単位 / 4年次 | |
| | — | |
| 科目概要 | 授業内容 | 卒業研究Ⅰで学んだことを踏まえてより具体的に深く対象作品を読み込む。卒業論文作成の仕方を学び、執筆に向けてアウトラインを描き、章立てを確定する。先行研究を批判的に読み、自論展開の余地を探る。 |
| | 到達目標 | 1) 自分の研究テーマをサポートする資料等の収集。 2) 収集した先行研究の読み込みと理解。 3) アウトライン・章立ての確定。 4) ゼミ生同士がお互いの研究を理解し、批評し合う。 |
| 授業計画 | (1) オリエンテーション (2) 対象作品と資料の深い読み込み (演習) (3) 〃 (4) 〃 (5) 先行研究論文の読解 (演習) (6) 〃 (7) アウトライン・章立ての決定 (演習) (8) レポートの執筆 (9) 論文作法等書き方の個別指導 (10) 〃 (11) 卒論中間発表用の資料作成 (12) 〃 (13) 〃 (14) プレ卒論中間発表 (15) 総まとめ | |
| 自学自習 | 事前学習 | ・自分の研究について資料を作成し、報告・発表の準備をする。 ・不明な点を質問できるように準備する。 |
| | 事後学習 | ・演習で指摘された不備・問題点を解決する。 ・それらを整理してデータとして蓄積する。 |
| 使用教材・参考文献 | 使用教材 | 各自の取り上げる作品による。 |
| | 参考文献 | 受講生それぞれに応じたものを適宜指示する。 |
| 成績評価の基準と方法 | 基準 | アウトライン・章立てを確定し、レポートを提出する。その上でプレ卒論中間発表をゼミ内で行えれば合格とする。 |
| | 方法 | レポート (60%)、演習 (30%)、授業参加度 (10%) |
| 備考 | | |

| 授業マトリクス上の位置づけ (科目が設置された学科、コースでの位置づけ) | | |
|--------------------------------------|-------------|-----|
| 教育課程の獲得目標 | レベルに応じた到達目標 | レベル |
| | | |
| | | |
| | | |

| | | |
|------------|--|---|
| 科目名 | 卒業研究Ⅱ | |
| 担当者 | 横山 政子 / YOKOYAMA, Masako | |
| 科目情報 | 人間文化<卒業> / 必修 / 前期 / 演習 / 2単位 / 4年次 | |
| | — | |
| 科目概要 | 授業内容 | 卒業研究Ⅰで学んだことを踏まえてより具体的に卒業論文作成の仕方を学び、執筆に取り組む。 |
| | 到達目標 | 卒業論文を完成させる。 |
| 授業計画 | (1) ゼミ担当教員の指示による。 (2) " " (3) " " (4) " " (5) " " (6) " " (7) " " (8) " " (9) " " (10) " " (11) " " (12) " " (13) " " (14) " " (15) 総まとめ | |
| 自学自習 | 事前学習 | 「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 |
| | 事後学習 | 新たに出た課題について調べる。 |
| 使用教材・参考文献 | 使用教材 | ゼミ担当教員の指示による。 |
| | 参考文献 | ゼミ担当教員の指示による。 |
| 成績評価の基準と方法 | 基準 | 先行研究を整理したうえで、研究テーマを確定し、必要な参考文献および資料を収集して、卒業論文のアウトラインができていれば合格とする。 |
| | 方法 | 授業における報告と議論（40%）、卒業論文計画書（60%）。 |
| 備考 | | |

| 授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ） | | |
|-------------------------------------|-------------|-----|
| 教育課程の獲得目標 | レベルに応じた到達目標 | レベル |
| | | |
| | | |
| | | |

| | | |
|----------------|---|--|
| 科目名 | 生涯学習概論Ⅱ | |
| 担当者 | 岩橋 恵子 / IWAHASHI, Keiko | |
| 科目情報 | 人間文化<関連> / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 2年次 | |
| | 社会教育主事資格科目 / 必修 | |
| 科目概要 | 授業内容 | 世界において生涯学習が組織化されてきた過程と今日までの展開についての歴史的 理解を得ることによって、これからの生涯学習のあり方を国際的視野にたつて考 える。 |
| | 到達目標 | 国際的・歴史的視点から、生涯学習の今日的到達点と課題を理解し、これからのあり 方を展望することができる。 |
| 授業計画 | (1) 近代生涯学習の誕生とその理念 (2) 社会問題の発生と生涯教育の組織化 (3) 成人教育制度と国家的整備 (4) 日本の社会教育制度の誕生とその性格 (5) 労働の変化と成人教育 (6) 成人教育の国際化とユネスコの誕生 (7) ユネスコ生涯学習論の生成と課題 (8) 南北問題と生涯学習の転換 (9) 学習権宣言と識字教育 (10) 21世紀の鍵＝成人の学習 (11) 持続可能な開発のための教育 (12) 実現可能な未来のために生きることと学ぶこと：成人学習の力 (13) 世界の生涯学習の諸相－アジアとヨーロッパを素材に－ (14) 国際的視野からみた日本の生涯学習の課題 (15) 総まとめ | |
| 自学自習 | 事前学習 | ・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。 |
| | 事後学習 | ・取り上げたテーマ・内容について、授業中に紹介する資料・文献・論文などで理解 を深めること。 |
| 使用教材・ 参考文献 | 使用教材 | 教科書は特に指定しない。講義中に配布するプリント（ハンドアウト）を用いる。 |
| | 参考文献 | 『持続可能な開発のための教育（ESD）をつくる－地域でひらく未来の教育－』ミネ ルヴァ書房 2011年／ユネスコ『持続可能な未来のための学習』有斐閣 2005年 / 新海英行ほか『現代世界の生涯学習』大学図書出版 2002年 |
| 成績評価の 基準と方法 | 基準 | 国際的・歴史的視点にたつて今日の生涯学習のあり方を論じることができる。 |
| | 方法 | 授業中に課す小レポート 20点、プレゼンテーション 30点、期末試験 50点 |
| 備考 | | |

| 授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ） | | |
|-------------------------------------|-------------|-----|
| 教育課程の獲得目標 | レベルに応じた到達目標 | レベル |
| | | |
| | | |
| | | |

| | | |
|------------|--|--|
| 科目名 | 地域教育論 | |
| 担当者 | 東川 隆太郎 / HIGASHIKAWA, Ryutaro | |
| 科目情報 | 人間文化<関連> / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 2年次 | |
| | — | |
| 科目概要 | 授業内容 | 鹿児島地域における生涯学習・観光・まちづくりの現状や課題、またはそれらの活動のこれからを実践事例等から地域における人材育成の手法を学ぶことを目的とする。 |
| | 到達目標 | 地域で活動すること・地域で学ぶことを、実践研究や鹿児島らしいテーマから具体的に学習することで、地域教育やまちづくり活動に必要な手法やノウハウを理解する。 |
| 授業計画 | (1) 「地域・教育」ってなんだろう(地域教育総論) (2) 地域の公民館で活動する～講座開催の計画立案～ (3) 地域へのまなざし～マイヘリテージの取組・世間遺産～ (4) 地域へのまなざし～フィールドワーク(大学周辺まち歩き) * (5) 地域へのまなざし～公衆浴場という地域コミュニティ～ (6) 「考現学」で学内を見つめる * (7) 地域の「農」を考える～グリーン・ツーリズムの取組～ (8) 世界遺産へ向けた動き～九州・山口の近代化産業遺産群～ (9) 離島の魅力から地域を考える・島の人材育成 (10) 「ゆるキャラ」や「ご当地キャラ」で地域づくり * (11) 地域へのまなざし～フィールドワーク(郡元墓地まち歩き) (12) ジオパークにおける教育的効果と人材育成 (13) 地域づくりと観光～明治維新 150 年に向けた動き (14) 地域づくりと観光における人材育成～「まち歩き」「観光ガイド」 (15) 総まとめ * | |
| 自学自習 | 事前学習 | ・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。 |
| | 事後学習 | ・鹿児島市の NPO 活動や地域づくり活動に積極的に参加すること。 |
| 使用教材・参考文献 | 使用教材 | 教科書は特に指定しない。講義中に配布するプリント(ハンドアウト)を用いる。 |
| | 参考文献 | 適宜指示する。 |
| 成績評価の基準と方法 | 基準 | 授業内容を参考にしたそれぞれのレポートにおいて、オリジナリティーのある表現または創造ができたものを合格とする。 |
| | 方法 | 4 回のレポート提出 70%、毎回の授業後提出の感想レポート 30% |
| 備考 | | |

| 授業マトリクス上の位置づけ(科目が設置された学科、コースでの位置づけ) | | |
|-------------------------------------|-------------|-----|
| 教育課程の獲得目標 | レベルに応じた到達目標 | レベル |
| | | |
| | | |
| | | |

| | | |
|------------|--|---|
| 科目名 | 社会教育計画論 I | |
| 担当者 | 松下 尚明 / MATSUSHITA, Naoaki | |
| 科目情報 | 人間文化<関連> / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 3年次 | |
| | 集中講義 | |
| 科目概要 | 授業内容 | 生涯学習時代に地域で展開されている学習・実践等の具体的様相、それを支える論理、そして今後の社会教育計画のあり方を学ぶ。 |
| | 到達目標 | ①「社会教育の問題意識」はいかに発生するかを学び、生涯学習時代の中の位置づけが分かる。②現場の社会教育が当面している問題を学び、今後の課題と方向性について理解することができる。③社会教育計画の視点と方法を理解するとともに、社会教育主事としての表現方法を学ぶことができる。 |
| 授業計画 | (1) 社会教育計画の問題意識 (2) 地域の只中に立つ社会教育主事 (3) 社会教育主事のベテランとプロ (4) テキスト熟読・討論・小論①作成 (5) 社会教育・学校教育・地域の教育力 (6) 戦前における学校教育と社会教育の融合の実践 (7) 自治の一環としての社会教育行政 (8) テキスト熟読・討論・小論②作成 (9) 学校・家庭・地域の三者連携の結末点 - PTA (10) P T Aの活動計画論 (11) 地域女性団体と活動計画 (12) テキスト熟読・討論・小論③作成 (13) 地域変動に対応するコミュニティづくり (14) 薩摩郷中教育の理念と計画 (15) 薩摩郷中教育の現代化論 | |
| 自学自習 | 事前学習 | 「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。[意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。] |
| | 事後学習 | 書き上げた小論（400字）を翌日に提出すること。 |
| 使用教材・参考文献 | 使用教材 | 松下尚明 『地域と文化 増補版（仮称）』 2015年 鹿児島学術文化出版 |
| | 参考文献 | 松下尚明 『ドラマとしてのベッドサイド』 2013 鹿児島学術文化出版 ISBN 978-4-902709-19-3 |
| 成績評価の基準と方法 | 基準 | 到達目標を踏まえて「社会教育の概念理解」が達成されたものは合格とします。また、「小論の提出」がない場合は不合格とします。 |
| | 方法 | 社会教育の概念理解の程度を見るレポート（60%）、小論（20%）、受講態度（20%）。 |
| 備考 | 教科書を熟読して小論4本を仕上げることは、現場の社会教育主事のあり方を把握するために必須である。 | |

| 授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ） | | |
|-------------------------------------|-------------|-----|
| 教育課程の獲得目標 | レベルに応じた到達目標 | レベル |
| | | |
| | | |
| | | |

| | | |
|------------|---|---|
| 科目名 | 社会教育演習 | |
| 担当者 | 岩橋 恵子 / IWAHASHI, Keiko | |
| 科目情報 | 人間文化<関連> / 選択 / 前期 / 演習 / 2単位 / 3年次 | |
| | 社会教育主事資格科目 / 選択必修 | |
| 科目概要 | 授業内容 | ・公民館 70 年の歴史をふまえた上で、公民館についての最近の研究から公民館を分析する視点と方法を学ぶ。・鹿児島市の公民館の現状を調査し、今日公民館の課題と可能性について考察する。調査対象公民館は、資料収集の中で討議して決定する。 |
| | 到達目標 | 人々の学びと地域づくりなど、公民館のあり方の基本を構想できる力をめざす。 |
| 授業計画 | (1) 公民館の歴史を学ぶ (1) (2) 公民館の歴史を学ぶ (2) (3) 公民館の歴史を学ぶ (3) (4) 公民館分析の視点と方法 (1) (5) 公民館分析の視点と方法 (2) (6) 公民館分析の視点と方法 (3) (7) 公民館分析の視点と方法 (4) (8) 鹿児島県下の公民館の資料収集と調査 (1) (9) 鹿児島県下の公民館の資料収集と調査 (2) (10) 鹿児島県下の公民館の資料収集と調査 (3) (11) 鹿児島県下の公民館の資料収集と調査 (4) (12) 鹿児島県下の公民館の資料収集と調査 (5) (13) 公民館の調査分析 (1) (14) 公民館の調査分析 (2) (15) 調査分析の報告とまとめ | |
| 自学自習 | 事前学習 | ・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。 |
| | 事後学習 | ・取り上げたテーマ・内容について、授業中に紹介する資料・文献・論文などで理解を深めること。 |
| 使用教材・参考文献 | 使用教材 | 佐藤一子『地域学習の創造 地域再生への学びを拓く』2015年、東京大学出版会／その他適宜プリントを用いる。 |
| | 参考文献 | 寺中作雄『公民館の建設』<復刻版>1995年、国土社／全国公民館連合会『月刊公民館』／日本公民館学会『公民館・コミュニティ施設ハンドブック』2006年、エイデル研究所／長沢成次編『公民館で学ぶⅠ～Ⅲ』国土社 |
| 成績評価の基準と方法 | 基準 | 事例研究を通して、これからの公民館の可能性と課題を分析しまとめることができる。 |
| | 方法 | 文献・資料を考察したレポート報告 30%、調査発表 30% 調査報告レポート 40% |
| 備考 | 現地調査の交通費等は自己負担とする。 | |

| 授業マトリクス上の位置づけ (科目が設置された学科、コースでの位置づけ) | | |
|--------------------------------------|-------------|-----|
| 教育課程の獲得目標 | レベルに応じた到達目標 | レベル |
| | | |
| | | |
| | | |

| | | |
|------------|--|---|
| 科目名 | 社会教育実習 | |
| 担当者 | 岩橋 恵子 / IWAHASHI, Keiko | |
| 科目情報 | 人間文化<関連> / 選択 / 後期 / 実習・演習 / 2単位 / 3年次 | |
| | 社会教育主事資格科目 / 選択必修 | |
| 科目概要 | 授業内容 | 鹿児島市教育委員会及び社会教育施設において実習を行う。実習にあたっては、事前授業において社会教育主事の役割を中心に社会教育制度の仕組みとその意義を理解する（講義・演習）。事後授業においては、実習の反省とまとめを各自の発表のもとに行う（プレゼンテーション・討論）。 |
| | 到達目標 | 実習を通して、住民の学習・文化・スポーツ活動を支援する社会教育主事の仕事の基本と役割を理解する。 |
| 授業計画 | (1) 社会教育実習オリエンテーション (2) 社会教育・生涯学習の歴史と社会教育主事 (3) 社会教育制度の仕組み (4) 社会教育主事の仕事とその役割 (5) 社会教育実習の計画 (6) 鹿児島市教育委員会および社会教育施設において1週間程度の実習の実施 (7) 鹿児島市教育委員会および社会教育施設において1週間程度の実習の実施 (8) 鹿児島市教育委員会および社会教育施設において1週間程度の実習の実施 (9) 鹿児島市教育委員会および社会教育施設において1週間程度の実習の実施 (10) 鹿児島市教育委員会および社会教育施設において1週間程度の実習の実施 (11) 鹿児島市教育委員会および社会教育施設において1週間程度の実習の実施 (12) 鹿児島市教育委員会および社会教育施設において1週間程度の実習の実施 (13) 社会教育実習の省察（1） (14) 社会教育実習の省察（2） (15) 総まとめ | |
| 自学自習 | 事前学習 | ・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。 |
| | 事後学習 | ・取り上げたテーマ・内容について、授業中に課する資料・文献・論文などで理解を深めること。 |
| 使用教材・参考文献 | 使用教材 | 社会教育行政研究会『社会教育行政読本－協働時代の道しるべー』第一法規、2013年。 |
| | 参考文献 | 社会教育推進全国協議会『社会教育の“しごと”』2005年 |
| 成績評価の基準と方法 | 基準 | 社会教育実習に積極的に取り組み、かつ実習についての内容・考察を適切に記録できること。ただし、実習事前・事後授業への出席が大前提であり、出席不良の場合実習そのもの |
| | 方法 | 社会教育実習 80点、実習事前・事後の受講態度と発表 20点 |
| 備考 | | |

| 授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ） | | |
|-------------------------------------|-------------|-----|
| 教育課程の獲得目標 | レベルに応じた到達目標 | レベル |
| | | |
| | | |
| | | |

| | | |
|------------|--|---|
| 科目名 | 法学概論 | |
| 担当者 | 中野 進 / NAKANO, Susumu | |
| 科目情報 | 人間文化<関連> / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 2年次 | |
| | — | |
| 科目概要 | 授業内容 | 『法令遵守』と言われることがありますが、卒業後の社会人の常識として、「法学的思考方法」即ち「法学的ものの考え方」をしっかりと身に付けて下さい。 |
| | 到達目標 | リーガルマインドの正体が理解できる。 |
| 授業計画 | (1) 法とは何か (2) 法学的思考方法 (3) 国内法の法源 (4) 近代における社会正義の内容 (5) 現代における社会正義の内容 (6) 2つの事例を通じて社会正義の実現について考える (7) 明治憲法 (8) 日本国憲法の制定過程 (9) 国連憲章の精神と日本国憲法 (10) 国民主権主義 (11) 基本的人権尊重主義 (12) 恒久平和主義 (13) 国際社会と法 (14) 日本の領土問題 (15) 総まとめ | |
| 自学自習 | 事前学習 | ・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。 |
| | 事後学習 | ・4回おきに小レポートを課す。 |
| 使用教材・参考文献 | 使用教材 | 吉川仁編『法学入門』嵯峨野書院 2009年 4-7823-0377-7 |
| | 参考文献 | 中野進『2割司法(完結版)』近代文芸社 2004年 4-7733-7123-4 |
| 成績評価の基準と方法 | 基準 | 総合評価の結果、概ね6割以上の得点率を獲得した者は合格とします。 |
| | 方法 | テスト(80%)、レポートなど(20%) |
| 備考 | 予習と復習を行ない、且つ、問題点を自分で考える習慣を身に付けるように心掛けて下さい。 | |

| 授業マトリクス上の位置づけ(科目が設置された学科、コースでの位置づけ) | | |
|-------------------------------------|-------------|-----|
| 教育課程の獲得目標 | レベルに応じた到達目標 | レベル |
| | | |
| | | |
| | | |

| | | |
|------------|---|--|
| 科目名 | 政治学概論 | |
| 担当者 | 原 清一 / HARA, Seiichi | |
| 科目情報 | 人間文化<関連> / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 2年次 | |
| | — | |
| 科目概要 | 授業内容 | 近代の政治思想から現代政治学までを概観します。近代や現代の思想家や政治学者たちが、政治をどう捉え、どう論じてきたのかを学び、自らが今日の政治を考えていく上での糸口をつかんでください。 |
| | 到達目標 | 政治学には様々な研究分野がありますが、講義ではまず社会契約論など近代の政治思想を概観し、続いて米国政治学を中心に説明していきます。それぞれの内容を把握し、幅広い政治学の見取り図が描けるようになることが、この講義の目標です。 |
| 授業計画 | (1) オリエンテーション (2) 近代の政治思想① (マキャベリ『君主論』) (3) 近代の政治思想② (ボダンの主権論) (4) 近代の政治思想③ (ホッブス『リバイアサン』) (5) 近代の政治思想④ (ロックとルソー) (6) 近代の政治思想⑤ (権力分立論ほか) (7) 現代の政治学① (米国政治学の系譜) (8) 現代の政治学② (メリアム、ラズウェルほか) (9) 現代の政治学③ (ベントレーほか) (10) 現代の政治学④ (政治システム論) (11) 現代の政治学⑤ (ラズウェルのエリート論ほか) (12) 現代の政治学⑥ (パワー・エリート論ほか) (13) 現代の政治学⑦ (権力関係説) (14) 現代の政治学⑧ (多元主義とその批判) (15) 結論 | |
| 自学自習 | 事前学習 | 教科書や参考文献等の該当箇所を事前に読んだうえで、講義に出席してください。 |
| | 事後学習 | 教科書や参考文献、講義ノート等の該当箇所を読み返して、講義内容を確認してください。 |
| 使用教材・参考文献 | 使用教材 | 初回の講義で指示します。 |
| | 参考文献 | 佐々木毅、鷲見誠一、杉田敦著『西洋政治思想史』北樹出版、1995年 福田歓一著『政治学史』東京大学出版会、1985年 中谷猛、足立幸男著『概説 西洋政治思想史』ミネルヴァ書房、1994年 福田歓一著『近代の政治思想』岩波新書、1970年 宇野重規著『西洋政治思想史』有斐閣、2013年 小笠原弘親、小野紀明、藤原保信著『政治思想史』有斐閣、1987年 岡崎晴輝、木村俊道編『はじめて学ぶ政治学』ミネルヴァ書房、2008年 堀江湛、岡沢憲英編『現代政治学 (第2版)』法学書院、2002年 久米郁夫ほか著『政治学』 |
| 成績評価の基準と方法 | 基準 | 講義内容がおおむね理解できていると判断されれば、単位が認定されます。 |
| | 方法 | 試験により評価します。教科書や参考文献からの長文引用、インターネットからの丸写しなど不誠実な答案は評価の対象外となり、単位は認定されません。 |
| 備考 | 講義中に私語をする学生の受講は認めません。学期を通じて注意を2回受けた学生については、試験を受けることができません。単位は認定されません。 | |

| 授業マトリクス上の位置づけ (科目が設置された学科、コースでの位置づけ) | | |
|--------------------------------------|-------------|-----|
| 教育課程の獲得目標 | レベルに応じた到達目標 | レベル |
| | | |
| | | |
| | | |

| | | |
|------------|---|--|
| 科目名 | 人権論 | |
| 担当者 | 中野 進 / NAKANO, Susumu | |
| 科目情報 | 人間文化<関連> / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 1年次 | |
| | — | |
| 科目概要 | 授業内容 | 東洋と西洋とでは、人権概念が異なると言われることもあるが、本当であろうか。この講義においては、日本を含むアジアにおける人権問題を具体的に検討したい。 |
| | 到達目標 | 現代においては、国内社会における人権問題の他に国際社会における人権問題も存在することが理解できる。国内外の人権問題の理解が容易になる。 |
| 授業計画 | (1) 人権に関する基礎知識 (2) 近代における人権 (3) 現代における人権 (4) 明治憲法下の臣民の権利及び義務 (5) 日本国憲法下の国民の権利及び義務 (6) ビルマ（ミャンマー）における人権問題(1) (7) ビルマ（ミャンマー）における人権問題(2) (8) ビルマ（ミャンマー）における人権問題(3) (9) 東チモールにおける人権問題(1) (10) 東チモールにおける人権問題(2) (11) 東チモールにおける人権問題(3) (12) 西パプアにおける人権問題(1) (13) 西パプアにおける人権問題(2) (14) 西パプアにおける人権問題(3) (15) 総まとめ | |
| 自学自習 | 事前学習 | ・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。 |
| | 事後学習 | ・4回おきに小レポートを課す。 |
| 使用教材・参考文献 | 使用教材 | 中野進『アジアと自決権』信山社 2008年 4-434-12141-8 |
| | 参考文献 | なし |
| 成績評価の基準と方法 | 基準 | 総合評価の結果、概ね6割以上の得点率を獲得した者は合格とします。 |
| | 方法 | テスト（80%）、レポートなど（20%） |
| 備考 | 予習と復習を行ない、且つ、問題点を自分で考える習慣を身に付けるように心掛けて下さい。 | |

| 授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ） | | |
|-------------------------------------|-------------|-----|
| 教育課程の獲得目標 | レベルに応じた到達目標 | レベル |
| | | |
| | | |
| | | |

| | | |
|------------|--|--|
| 科目名 | 社会学概論 | |
| 担当者 | 近藤 諭 / KONDO, Satoru | |
| 科目情報 | 人間文化<関連> / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 2年次 | |
| | — | |
| 科目概要 | 授業内容 | 社会学は、普段は意識しない「日常性」の中に、人と人の相互作用、個人と社会の関係、個人と集団の関係、社会規範・秩序など人間社会を形づくっているものを探る学問である。本科目では、人と人が関わりあう活動領域で有効かつ必要な、社会的なものを見方を取り上げ、実践してもらうことを目的としている。 |
| | 到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・具体的な事柄について、個人的なことと社会との結びつきを認識できる。 ・「日常生活の自明性」を再考する発想ができる。 ・前近代から近・現代社会への変化のすう勢を理解できる。 |
| 授業計画 | (1) はじめに 社会学とはどのような学問か (2) 社会に対する2つのアプローチ (3) 私たちはいかにして社会と「馴染む」のか:自己意識の成立と社会化 (4) 私たちはいかにして社会と「馴染む」のか:地位と役割 (5) 私たちはいかにして社会と「馴染む」のか:演技という戦略 (6) 私たちはいかにして「社会」と馴染むのか:組織と集団 (7) 社会を捉える視点:様々な社会学理論(1) (8) 社会を捉える視点:様々な社会学理論(2) (9) 現代日本の姿 世帯構造の変化と高齢化(1) (10) 現代日本の姿 世帯構造の変化と高齢化(2) (11) 現代日本の姿 世帯構造の変化と高齢化(3) (12) 現代日本の姿 人間関係の変容(1) (13) 現代日本の姿 人間関係の変容(2) (14) 現代日本の姿 人間関係の変容(3) (15) 総まとめ | |
| 自学自習 | 事前学習 | ・意味のわからない用語は事前に調べておくこと。 |
| | 事後学習 | Moodleにて随時復習課題を提示する。 |
| 使用教材・参考文献 | 使用教材 | 教科書は特に指定しない。講義中に配布するプリント(ハンドアウト)を用いる。 |
| | 参考文献 | 別途、指示する。 |
| 成績評価の基準と方法 | 基準 | 社会学が目指す、自明性への問いかけおよび社会と自分の経験との橋渡しがある程度達成していることを最低の合格基準とする。 |
| | 方法 | 定期試験 60%、Moodle 課題 40%。 |
| 備考 | | |

| 授業マトリクス上の位置づけ (科目が設置された学科、コースでの位置づけ) | | |
|--------------------------------------|-------------|-----|
| 教育課程の獲得目標 | レベルに応じた到達目標 | レベル |
| | | |
| | | |
| | | |

| | | |
|------------|--|---|
| 科目名 | 社会調査法 | |
| 担当者 | 河原 晶子 / KAWAHARA, Akiko | |
| 科目情報 | 人間文化<関連> / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 2年次 | |
| | — | |
| 科目概要 | 授業内容 | 複雑な社会現象を捉えるための手段として、行政・政策・政治・経済・社会・文化や研究など様々な分野で重要性を持つ社会調査について、それが科学的で説得力をもつための基本的事項を学ぶ。受講生は、「とりあえず調査してみよう」の姿勢が危険であることを痛感するだろう。 |
| | 到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・社会調査の有効性と限界、社会調査に求められる「科学性」を理解できる。 ・身近な社会調査である国勢調査・世論調査について基本的事項を確実に理解し、説明できる。 ・基本型である統計的調査・記述的調査について説明できる。 ・調査者に求められる倫理について、確実に理解できる。 |
| 授業計画 | (1) 社会調査—社会をとらえるためのツール／調査でわかること／個人の偶然と社会の確からしさ (2) 社会調査の歴史—人口統計と社会問題の調査／調査技術の高度化・多様化 (3) 社会調査の実例—官庁統計・国勢調査／世論調査／マーケティング・リサーチ (4) 社会調査の種類①その1—量的調査・統計的調査 (5) 社会調査の種類①その2—統計的調査の具体的調査方法 (6) 社会調査の種類②その1—事例調査・記述的調査 (7) 社会調査の種類②その2—事例調査の実例 (8) 統計的調査と事例調査の比較—それぞれの技法としての有効性と限界、相互補完の関係 (9) 科学的な調査の条件①—調査の企画・設計の科学／母集団・標本／全数調査・標本調査 (10) 科学的な調査の条件②—標本抽出の科学 (11) 科学的な調査の条件③—調査結果と現実とのズレの科学—標本誤差と非標本誤差— (12) 科学的な調査の条件④—調査票の質問文と回答選択肢の科学 (13) 科学的な調査の条件⑤—調査結果の評価の科学 (14) 調査者に求められる倫理—なぜ調査するのか？／してはいけない調査／無駄な調査 (15) 総まとめ | |
| 自学自習 | 事前学習 | 毎回、次回の授業のキーワードや専門用語を提示するので、参考文献・辞書・事典等で事前に調べておくこと。 |
| | 事後学習 | 不定期に授業内容の復習小クイズをするので、確実に復習しておくこと。 |
| 使用教材・参考文献 | 使用教材 | 使用しない。 |
| | 参考文献 | 嶋崎尚子『社会をとらえるためのルール—社会調査入門』学文社, 2008年. ISBN9784762018336 大谷信介他『新・社会調査へのアプローチ—論理と方法』ミネルヴァ書房, 2013年. ISBN9784623066544 宮内泰介『自分で調べる技術—市民のための調査入門』岩波書店, 2004年. 谷富夫, 芦田徹郎編『よくわかる質的社会調査法』ミネルヴァ書房, 2009年. 佐藤郁哉『フィールドワークの技法：問を育てる・仮説をきたえる』新曜社, 2002年. 山田一成『聞き方の技術：リサ— |
| 成績評価の基準と方法 | 基準 | 科目目標の到達を重視する。到達していないものは不合格とする。 |
| | 方法 | レポート等の課題遂行 15%・定期筆記試験 85% |
| 備考 | 社会調査の入門科目であるので、この科目の受講で実践的な調査スキルを習得することはできない。しかし、受講生は社会に氾濫する様々な安易な調査を批判的に観察してほしい。 | |

| 授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ） | | |
|-------------------------------------|-------------|-----|
| 教育課程の獲得目標 | レベルに応じた到達目標 | レベル |
| | | |
| | | |
| | | |

| | | |
|------------|---|---|
| 科目名 | 倫理学概論 | |
| 担当者 | 村若 修 / MURAWAKA, Osamu | |
| 科目情報 | 人間文化<関連> / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 2年次 | |
| | — | |
| 科目概要 | 授業内容 | 倫理学の基本的な問題を、現代社会の状況にも照らし合わせながら考えてみたい。功利主義とカントの倫理学を基本に据えながら、生命倫理や環境倫理まで考察を広げるつもりである。 |
| | 到達目標 | 功利主義の基本的な考え方を理解する。 カント倫理学の基本的な考え方を理解する。 倫理学の諸問題について、自ら考え、表現することができる。 |
| 授業計画 | (1) 人を助けるために嘘をつくことは許されるか① (2) 人を助けるために嘘をつくことは許されるか② (3) 10人の命を救うために1人の人を殺すことは許されるか① (4) 10人の命を救うために1人の人を殺すことは許されるか② (5) 10人のエイズ患者に対して特効薬が1人分しかないとき、誰に渡すか① (6) 10人のエイズ患者に対して特効薬が1人分しかないとき、誰に渡すか② (7) エゴイズムに基づく行為はすべて道徳に反するか① (8) エゴイズムに基づく行為はすべて道徳に反するか② (9) どうすれば幸福の計算ができるか① (10) どうすれば幸福の計算ができるか② (11) 判断能力の判断は誰がするか① (12) 判断能力の判断は誰がするか② (13) 他人に迷惑をかけなければ何をしてもよいか① (14) 他人に迷惑をかけなければ何をしてもよいか② (15) まとめ | |
| 自学自習 | 事前学習 | ・テキストの該当箇所を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。 |
| | 事後学習 | ・2回おきに小レポートを課す。 |
| 使用教材・参考文献 | 使用教材 | 加藤尚武『現代倫理学入門』講談社1997（ISBN4-06-159267-X） |
| | 参考文献 | なし |
| 成績評価の基準と方法 | 基準 | 講義内容の理解が不十分な場合、不合格となることがある。 |
| | 方法 | 期末試験（80％） 授業時間内の課題提出物等（20％） |
| 備考 | | |

| 授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ） | | |
|-------------------------------------|-------------|-----|
| 教育課程の獲得目標 | レベルに応じた到達目標 | レベル |
| | | |
| | | |
| | | |

| | | |
|------------|--|--|
| 科目名 | 哲学概論 | |
| 担当者 | 村若 修 / MURAWAKA, Osamu | |
| 科目情報 | 人間文化<関連> / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 2年次 | |
| | - | |
| 科目概要 | 授業内容 | 本講義では、古代から近代に至る西洋の哲学史を概観する。自ら「哲学する」ことは、ともすれば独りよがりになるものである。哲学史を学び、適切なテーマと適切な考え方を先人から学ぶことで、哲学の全体像をつかんでもらいたい。 |
| | 到達目標 | 西洋哲学の歴史について一定の知識をもつ。 哲学の基本的問題を理解する。 哲学のテキストを理解し、その筋道を追体験できる。 |
| 授業計画 | (1) 哲学するための哲学史 (2) 古代ギリシアの自然哲学 (3) ソクラテス (4) プラトン (5) アリストテレス (6) ストア派とエピクロス (7) デカルト (8) スピノザ (9) ロック (10) バークリ (11) ヒューム (12) カント (13) 現代の哲学 (1) (14) 現代の哲学 (2) (15) まとめ | |
| 自学自習 | 事前学習 | ・テキストの該当箇所を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。 |
| | 事後学習 | テキストの該当部分を再読・復習する。 |
| 使用教材・参考文献 | 使用教材 | ヨースタイン・ゴルデル『ソフィーの世界』NHK 出版 1997 (ISBN4-14-08331-2 C0097) |
| | 参考文献 | 岩田靖夫『ヨーロッパ思想入門』岩波ジュニア新書 2003 (ISBN4-00-500441-5) 岩田靖夫『いま哲学とはなにか』岩波新書 2008 (ISBN978-4-00-431137-9) |
| 成績評価の基準と方法 | 基準 | 講義内容の理解が不十分な場合、不合格となることがあります。 |
| | 方法 | 期末試験 (80%) 授業時間内の課題提出物等 (20%) |
| 備考 | | |

| 授業マトリクス上の位置づけ (科目が設置された学科、コースでの位置づけ) | | |
|--------------------------------------|-------------|-----|
| 教育課程の獲得目標 | レベルに応じた到達目標 | レベル |
| | | |
| | | |
| | | |

| | | |
|------------|---|---|
| 科目名 | 日本語学の基礎 I | |
| 担当者 | 平塚 雄亮 / HIRATSUKA, Yusuke | |
| 科目情報 | 人間文化<日本語日本文学> / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 1年次 | |
| | — | |
| 科目概要 | 授業内容 | ふだん何気なく使っている私たちの日本語には、実は今まで気づかなかったさまざまなルールが存在している。この授業ではその日本語のルールについて、文字・音・語彙・文法といったさまざまな観点から考えながら基礎を学んでいく。 |
| | 到達目標 | この授業をとおして、これまで意識していなかった母語（日本語）について客観的に観察できるようになり、また、それを適切な言語学・日本語学の用語・概念で説明できるようになることを目指す。 |
| 授業計画 | (1) オリエンテーション (2) 日本語の文字 (1) (3) 日本語の文字 (2) (4) 日本語の音韻・音声 (1) (5) 日本語の音韻・音声 (2) (6) 日本語の語彙 (1) (7) 小テスト (1) (8) 日本語の語彙 (2) (9) 日本語の文法 (1) (10) 日本語の文法 (2) (11) 日本語の文法 (3) (12) 日本語の文法 (4) (13) 日本語の方言 (14) 日本語の歴史 (15) 小テスト (2) | |
| 自学自習 | 事前学習 | ふだんからことばづかい、友だちや家族との会話、テレビ、新聞、インターネットなど、日常生活にある言語を注意深く観察しておくこと。 |
| | 事後学習 | 小テストと期末試験に向けて復習を欠かさないこと。 |
| 使用教材・参考文献 | 使用教材 | なし。授業時にハンドアウトを配布する。 |
| | 参考文献 | 益岡隆志（編）（2011）『はじめて学ぶ日本語学 ことばの奥深さを知る 15 章』ミネルヴァ書房。（ISBN 4623061213） 工藤浩ほか（2009）『改訂版 日本語要説』ひつじ書房。（ISBN 4894764682） 日本語記述文法研究会（編）『現代日本語文法』くろしお出版。 庵功雄（2012）『新しい日本語学入門 ことばのしくみを考える（第2版）』スリーエーネットワーク。（ISBN 4883195893） その他、授業時に適宜指示する。 |
| 成績評価の基準と方法 | 基準 | 日本語の文字・音韻・語彙・文体・文法について、基礎的なことが理解できているものは合格とする。 |
| | 方法 | 期末試験 50%、小テスト 20%、授業時の提出物・態度 30% |
| 備考 | ことばに興味がある学生の受講を歓迎します。何か質問があれば気軽に声をかけてください。 | |

| 授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ） | | |
|-------------------------------------|-------------|-----|
| 教育課程の獲得目標 | レベルに応じた到達目標 | レベル |
| | | |
| | | |
| | | |

| | | |
|------------|--|--|
| 科目名 | 日本語学の基礎Ⅱ | |
| 担当者 | 平塚 雄亮 / HIRATSUKA, Yusuke | |
| 科目情報 | 人間文化<日本語日本文学> / 選択 / 後期 / 演習 / 2単位 / 2年次 | |
| | — | |
| 科目概要 | 授業内容 | この授業では、現代標準語ではなく、方言を中心に取り上げることで、日本語にはどのような地域差や歴史があり、どのような変化をたどってきたのかについて学ぶ。 |
| | 到達目標 | テキストは方言学の入門書を使用するが、日本語がどのような地域差や歴史をもっているのか、そしてどのように変化してきたのかについても理解し、それを適切な言語学・日本語学の用語・概念で説明できるようになることを目指す。 |
| 授業計画 | (1) オリエンテーション (2) 第1章 地図から見えることばの地域差 (3) 第1章 地図から見えることばの地域差 (4) 第1章 地図から見えることばの地域差 (5) 第2章 ことばの仕組みから見える地域差 (6) 第2章 ことばの仕組みから見える地域差 (7) 小テスト (1) (8) 第2章 ことばの仕組みから見える地域差 (9) 第3章 コミュニケーションから見えることばの地域差 (10) 第3章 コミュニケーションから見えることばの地域差 (11) 第3章 コミュニケーションから見えることばの地域差 (12) 第4章 社会の変化から見えることばの地域差 (13) 第4章 社会の変化から見えることばの地域差 (14) 第4章 社会の変化から見えることばの地域差 (15) 小テスト (2) | |
| 自学自習 | 事前学習 | テキストの当該の箇所を読んでくること。 |
| | 事後学習 | 小テストと期末試験に向けて復習を欠かさないこと。 |
| 使用教材・参考文献 | 使用教材 | 木部暢子ほか（編著）（2013）『方言学入門』三省堂。（ISBN 4385363935） |
| | 参考文献 | 授業時に適宜指示する。 |
| 成績評価の基準と方法 | 基準 | 日本語の方言、歴史、変化について、基礎的なことが理解できているものは合格とする。 |
| | 方法 | 期末試験 50%、小テスト 20%、授業時の提出物・態度 30% |
| 備考 | ことばに興味がある学生の受講を歓迎します。何か質問があれば気軽に声をかけてください。 | |

| 授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ） | | |
|-------------------------------------|-------------|-----|
| 教育課程の獲得目標 | レベルに応じた到達目標 | レベル |
| | | |
| | | |
| | | |

| | | |
|------------|--|--|
| 科目名 | 日本語の音声 | |
| 担当者 | 平塚 雄亮 / HIRATSUKA, Yusuke | |
| 科目情報 | 人間文化<日本語日本文学> / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 2年次 | |
| | — | |
| 科目概要 | 授業内容 | この授業では、日本語の音声について、どのように発音がなされているのかといったことについての概説を行う。なお、適宜英語など日本語以外の言語の音声にも触れながら音声学の基礎について学ぶ。 |
| | 到達目標 | この授業をとおして、発声や発音のしくみについて理解し、重要事項が説明できるようになる。また、現代日本語の音声における母音・子音・アクセントなどの特徴を理解し、それを適切な音声学の用語・概念で説明できるようになることを目指す。 |
| 授業計画 | (1) オリエンテーション (2) 音声器官 (3) 子音 (1) (4) 子音 (2) (5) 子音 (3) (6) 母音 (1) (7) 小テスト (1) (8) 母音 (2) (9) 母音 (3) (10) 音節とモーラ (11)アクセント (1) (12)アクセント (2) (13)イントネーション (14)鹿児島方言の音声 (15)小テスト (2) | |
| 自学自習 | 事前学習 | テキストの当該の箇所を読んでくること。 |
| | 事後学習 | 小テストと期末試験に向けて復習を欠かさないこと。 |
| 使用教材・参考文献 | 使用教材 | 斎藤純男 (2006) 『日本語音声学入門 改訂版』三省堂. (ISBN 4385345880) |
| | 参考文献 | 授業時に適宜指示する。 |
| 成績評価の基準と方法 | 基準 | 日本語の音声について、基礎的なことに加え応用的なことも理解できているものは合格とする。 |
| | 方法 | 期末試験 50%、小テスト 20%、授業時の提出物・態度 30% |
| 備考 | 予習・復習の欠かせない授業であることをよく理解して受講してください。 | |

| 授業マトリクス上の位置づけ (科目が設置された学科、コースでの位置づけ) | | |
|--------------------------------------|-------------|-----|
| 教育課程の獲得目標 | レベルに応じた到達目標 | レベル |
| | | |
| | | |
| | | |

| | | |
|------------|--|---|
| 科目名 | 日本語の文法 | |
| 担当者 | 平塚 雄亮 / HIRATSUKA, Yusuke | |
| 科目情報 | 人間文化<日本語日本文学> / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 2年次 | |
| | — | |
| 科目概要 | 授業内容 | この授業では、日本語の文法について取り上げ、そこに潜んでいるルールについて学ぶ。基本的には講義形式で進めるが、自分のことばどどのように言うか考える「内省」などの作業を含むので、積極的な授業参加が求められる。 |
| | 到達目標 | この授業をとおして、日本語の文法の基礎について理解し、重要事項について適切な言語学・日本語学の用語・概念で説明できるようになることを目指す。 |
| 授業計画 | (1) オリエンテーション (2) 文と単語 (3) 品詞 (4) 名詞と助詞 (1) (5) 名詞と助詞 (2) (6) 動詞 (1) (7) 小テスト (1) (8) 動詞 (2) (9) 動詞 (3) (10) 動詞 (4) (11) 動詞 (5) (12) 形容詞 (13) 複文 (14) 待遇表現 (15) 小テスト (2) | |
| 自学自習 | 事前学習 | ふだんからことばづかい、友だちや家族との会話、テレビ、新聞、インターネットなど、日常生活にある言語を注意深く観察しておくこと。 |
| | 事後学習 | 小テストと期末試験に向けて復習を欠かさないこと。 |
| 使用教材・参考文献 | 使用教材 | なし。授業時にハンドアウトを配布する。 |
| | 参考文献 | 授業時に適宜指示する。 |
| 成績評価の基準と方法 | 基準 | 日本語の文法について、基礎的なことに加え応用的なことも理解できているものは合格とする。 |
| | 方法 | 期末試験 50%、小テスト 20%、授業時の提出物・態度 30% |
| 備考 | ことばに興味がある学生の受講を歓迎します。何か質問があれば気軽に声をかけてください。 | |

| 授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ） | | |
|-------------------------------------|-------------|-----|
| 教育課程の獲得目標 | レベルに応じた到達目標 | レベル |
| | | |
| | | |
| | | |

| | | |
|------------|--|--|
| 科目名 | 日本語の表現 | |
| 担当者 | 平塚 雄亮 / HIRATSUKA, Yusuke | |
| 科目情報 | 人間文化<日本語日本文学> / 選択 / 後期 / 演習 / 2単位 / 1年次 | |
| | — | |
| 科目概要 | 授業内容 | 言葉で「表現」することによって、私たちは自己を表現し、他者やこの世界の出来事を理解している。だが「表現」の仕方には多くの方法がある。そこで、身の回りにあふれている日本語の表現方法を探り、実際の表現方法の特徴を見出す分析力を養うことをめざす。また、実際に表現活動を行い、表現力を磨いていく。 |
| | 到達目標 | 1. 手紙やビジネス文書など、実用文が書けるようになる。 2. 様々な文章表現の特徴を理解し、自己表現の手だての一つとして会得することができるようになる。 3. 様々な敬語表現の特徴を理解し、実践できるようになる。 |
| 授業計画 | (1) オリエンテーション (2) 表記の仕方 (3) メールの書き方 (4) パラグラフ・ライティング (1) (5) パラグラフ・ライティング (2) (6) パラグラフ・ライティング (3) (7) 小テスト (8) 引用の仕方、文献の調べ方 (9) プレゼンテーションの仕方 (1) (10) プレゼンテーションの仕方 (2) (11) 学生による発表 (1) (12) 学生による発表 (2) (13) 学生による発表 (3) (14) 学生による発表 (4) (15) 学生による発表 (5) | |
| 自学自習 | 事前学習 | 授業時に指示される参考文献を前もって読んでおくこと。 |
| | 事後学習 | 授業時に指示される課題に取り組むこと。また、各自の発表に向けて準備すること。 |
| 使用教材・参考文献 | 使用教材 | なし。授業時にハンドアウトを配布する。 |
| | 参考文献 | 授業時に適宜指示する。 |
| 成績評価の基準と方法 | 基準 | 文章表現の特徴を理解し、実用文・小論文などを書くことができ、また、敬語表現の特徴を理解・実践できるようになれば、合格とする。 |
| | 方法 | 期末レポート 50%、小テスト 10%、発表 10%、授業時の提出物・態度 30% |
| 備考 | | |

| 授業マトリクス上の位置づけ (科目が設置された学科、コースでの位置づけ) | | |
|--------------------------------------|-------------|-----|
| 教育課程の獲得目標 | レベルに応じた到達目標 | レベル |
| | | |
| | | |
| | | |

| | | |
|------------|--|--|
| 科目名 | 日本語と社会 | |
| 担当者 | 平塚 雄亮 / HIRATSUKA, Yusuke | |
| 科目情報 | 人間文化<日本語日本文学> / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 3年次 | |
| | — | |
| 科目概要 | 授業内容 | この授業は「社会言語学」について学ぶ。社会言語学は、その名のとおり社会と言語の関係について学ぶ分野である。この授業では、特に日本語を取り巻く社会的な状況について、地域、年齢、性別などといった社会的属性に注目しながらことばのバリエーションを観察していく。 |
| | 到達目標 | 社会のなかでことば、特に日本語のバリエーションがどのような役割をはたしているのかを分析できるようになることを目標とする。また、私たちが過ごす鹿児島の方が社会とどのように関係しているのかについても理解できるようになる。 |
| 授業計画 | (1) オリエンテーション (2) ことばのバリエーション (1) (3) ことばのバリエーション (2) (4) 日本語のバリエーション (5) 言語接触 (1) : ピジン・クレオール (6) 言語接触 (2) : 海外の日本語変種 (7) 小テスト (1) (8) ことばの切換え (9) 言語習得 (1) (10) 言語習得 (2) (11) ことばのイメージ・言語景観 (12) 言語の死と危機言語 (13) 鹿児島方言と社会 (1) (14) 鹿児島方言と社会 (2) (15) 小テスト (2) | |
| 自学自習 | 事前学習 | ふだんからことばづかい、友だちや家族との会話、テレビ、新聞、インターネットなど、日常生活にある言語を注意深く観察しておくこと。 |
| | 事後学習 | 小テストと期末レポートに向けて復習を欠かさないこと。 |
| 使用教材・参考文献 | 使用教材 | なし。授業時にハンドアウトを配布する。 |
| | 参考文献 | 授業時に適宜指示する。 |
| 成績評価の基準と方法 | 基準 | 社会言語学の意義、内容が理解できていれば、合格とする。 |
| | 方法 | 期末レポート 50%、小テスト 20%、授業時の提出物・態度 30% |
| 備考 | | |

| 授業マトリクス上の位置づけ (科目が設置された学科、コースでの位置づけ) | | |
|--------------------------------------|-------------|-----|
| 教育課程の獲得目標 | レベルに応じた到達目標 | レベル |
| | | |
| | | |
| | | |

| | | |
|------------|--|--|
| 科目名 | 日本文学史 I | |
| 担当者 | 山崎 桂子 / YAMASAKI, Keiko | |
| 科目情報 | 人間文化<日本語日本文学> / 必修 / 前期 / 講義 / 2単位 / 1年次 | |
| | — | |
| 科目概要 | 授業内容 | 日本の古代から中世までの文学（古典）の流れを概観する。各時代の主要な作品を1つずつ取り上げて解説し、原文の一部を書写、音読、鑑賞しながら、文学の特質やジャンルについて理解を深める。 |
| | 到達目標 | 1) 上代・中古・中世・近世・近代という時代区分を知る。 2) 主要な作品の成立時期・作者・内容を理解する。 3) 主要な作品の原文を正しく読み、書ける。 |
| 授業計画 | (1) 時代区分とジャンルについて (2) 古事記 (3) 万葉集 (4) 竹取物語 (5) 古今和歌集 (6) 蜻蛉日記 (7) 枕草子 (8) 源氏物語 (9) 和泉式部日記 (10) 今昔物語集 (11) 大鏡 (12) 新古今和歌集 (13) 平家物語 (14) ビデオ「平安貴族の生活」視聴 (15) 総まとめ | |
| 自学自習 | 事前学習 | ・参考文献を前もって読み、授業で取り上げられる作品の概略を理解しておくこと。 |
| | 事後学習 | ・授業で出た原文の音読をし、暗唱できるようになる。 ・授業で出た作品の感想をまとめる。 |
| 使用教材・参考文献 | 使用教材 | プリントを配布する |
| | 参考文献 | 小山弘志編『日本文学新史』至文堂 1990年 岩波講座『日本文学史』岩波書店 1995年 |
| 成績評価の基準と方法 | 基準 | 主要な作品の時代区分・作者・内容を理解し、原文を正しく音読、書写出来れば合格とする。 |
| | 方法 | テスト（70%）、提出物（20%）、受講態度（10%） |
| 備考 | | |

| 授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ） | | |
|-------------------------------------|-------------|-----|
| 教育課程の獲得目標 | レベルに応じた到達目標 | レベル |
| | | |
| | | |
| | | |

| | | |
|------------|---|--|
| 科目名 | 日本文学史Ⅱ | |
| 担当者 | 嶋田 直哉 / SHIMADA, Naoya | |
| 科目情報 | 人間文化<日本語日本文学> / 必修 / 後期 / 講義 / 2単位 / 2年次 | |
| | — | |
| 科目概要 | 授業内容 | テキストを参照しながら近代日本文学史を概説する。各時代の代表的な作家、作品、思潮を解説する。 |
| | 到達目標 | 近代日本文学史の流れを理解し、代表的な作家、作品を知る。 |
| 授業計画 | (1) ガイダンス 「近代／日本／文学／史」を考える (2) 近世文学と近代文学 (3) 硯友社の文学 (4) 日清戦争と文学 (5) 自然主義の文学 (6) 反自然主義の文学 (7) 耽美派の文学 (8) 白樺派の文学 (9) 私小説と心境小説 (10) 詩歌の近代 (11) プロレタリア文学 (12) モダニズム文学と文芸復興 (13) 戦時下の文学 (14) 戦後の文学 (15) 総まとめ | |
| 自学自習 | 事前学習 | ・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。 |
| | 事後学習 | 各授業終了時にコメントシートを記入し、提出。 |
| 使用教材・参考文献 | 使用教材 | 年表の会編『近代文学年表』双文社出版 1993 ISBN4-88164-031-3 |
| | 参考文献 | 三好行雄編『近代日本文学史』有斐閣 1975 ISBN4-641-09795-X |
| 成績評価の基準と方法 | 基準 | 近代日本文学史に対する理解、関心が深められれば合格とする。 |
| | 方法 | レポート 60%、受講態度 30%、コメントシート 10%。ただしそれぞれ合格点を満たしていること。 |
| 備考 | | |

| 授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ） | | |
|-------------------------------------|-------------|-----|
| 教育課程の獲得目標 | レベルに応じた到達目標 | レベル |
| | | |
| | | |
| | | |

| | | |
|------------|--|--|
| 科目名 | 古代文学講読Ⅰ | |
| 担当者 | 山崎 桂子 / YAMASAKI, Keiko | |
| 科目情報 | 人間文化<日本語日本文学> / 選択 / 前期 / 演習 / 2単位 / 2年次 | |
| | — | |
| 科目概要 | 授業内容 | 『伊勢物語』を演習形式で読む。簡潔な文章と和歌から成る原文を丁寧に読み解くことにより、人間の愛情の種々相をいかに描いているか、作品の魅力はどこにあるかを探る。 |
| | 到達目標 | 1) 原文を声に出して正しく読める。 2) 古語辞書を用いて古語の意味を調べ、現代語訳ができる。 3) 参考文献を用いて各段の内容を理解し、説明できる。 |
| 授業計画 | (1) 概説 (時代背景・歌物語・成立・作者・在原業平) (2) 〃 (書名・伝本・内容と構成)、担当段と日程の調整 (3) 初段 初冠 (演習モデル)、参考文献紹介 (4) 第5段 関守 (以下、受講者が一段ずつ担当し発表、質疑応答) (5) 第6段 芥川 〃 (補遺) (6) 第9段 東下り (7) 〃 (補遺) (8) 第23段 筒井筒 (9) 〃 (補遺) (10) 第24段 梓弓 (11) 第63段 つくも髪 (12) 第69段 狩の使 (13) 〃 (補遺) (14) 第84段 長岡の母 (15) 総まとめ | |
| 自学自習 | 事前学習 | ・原文を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない言葉・部分をチェックしておくこと。 |
| | 事後学習 | ・演習で指摘された不備・問題点を解決する。 ・関連した知識や情報を調べて更に理解を深める。 |
| 使用教材・参考文献 | 使用教材 | 松尾聡・永井和子校注『伊勢物語』笠間書院 1999年 ISBN4305000539 |
| | 参考文献 | 新編日本古典文学全集『伊勢物語他』小学館 1994年 ISBN096580120 新潮日本古典集成『伊勢物語』新潮社 1976年 |
| 成績評価の基準と方法 | 基準 | 演習資料の作成、発表、質疑応答が出来、その成果をレポートとして提出すれば合格とする。 |
| | 方法 | レポート (50%)、演習 (40%)、授業参加度 (10%) |
| 備考 | 毎回、古語辞書を持ってくること。 | |

| 授業マトリクス上の位置づけ (科目が設置された学科、コースでの位置づけ) | | |
|--------------------------------------|-------------|-----|
| 教育課程の獲得目標 | レベルに応じた到達目標 | レベル |
| | | |
| | | |
| | | |

| | | |
|------------|---|---|
| 科目名 | 古代文学講読Ⅱ | |
| 担当者 | 山崎 桂子 / YAMASAKI, Keiko | |
| 科目情報 | 人間文化<日本語日本文学> / 選択 / 後期 / 演習 / 2単位 / 2年次 | |
| | — | |
| 科目概要 | 授業内容 | 『百首一首』を演習形式で読む。和歌1首1首を丁寧に読み解くことにより、古代の人々の四季や恋・死・旅などに対する表現と精神の特質を知る。 |
| | 到達目標 | 1) 和歌を声に出して正しく読める。 2) 古語辞書を用いて古語の意味を調べ、現代語訳ができる。 3) 参考文献を用いて和歌の内容を理解し、説明できる。 4) 和歌文学の基本的な知識を身につける。 |
| 授業計画 | (1) 概説（和歌の基礎知識と秀歌撰について） (2) 『百首一首』の撰者・成立・内容 (3) 1番天智天皇（演習モデル）、参考文献紹介、担当段と日程の調整 (4) 演習（受講者が好きな歌を1首ずつ担当し発表、質疑応答） (5) 〃 (6) 〃 (7) 〃 (8) 〃 (9) 〃 (10) 〃 (11) 〃 (12) 〃 (13) 〃 (14) 『百首一首』カルタ大会 (15) 総まとめ | |
| 自学自習 | 事前学習 | ・テキストを前もって読んでおく。 ・意味のわからない言葉・部分をチェックしておく。 |
| | 事後学習 | ・演習で指摘された不備・問題点を解決する。 ・授業で出た歌を暗唱する。 |
| 使用教材・参考文献 | 使用教材 | 谷知子編『百首一首（全）』角川ソフィア文庫 2010年 ISBN9784044072186 |
| | 参考文献 | 島津忠夫『新版百首一首』角川ソフィア文庫 1999年 ISBN404404001X 井上宗雄『百首一首を楽しくよむ』笠間書院 2003年 ISBN4305702525 |
| 成績評価の基準と方法 | 基準 | 演習資料の作成、発表、質疑応答が出来、その成果をレポートとして提出すれば合格とする。 |
| | 方法 | レポート（50%）、演習（40%）、受講態度（10%） |
| 備考 | 毎回、古語辞書を持ってくること。 | |

| 授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ） | | |
|-------------------------------------|-------------|-----|
| 教育課程の獲得目標 | レベルに応じた到達目標 | レベル |
| | | |
| | | |
| | | |

| | | |
|------------|---|---|
| 科目名 | 中世文学講読Ⅰ | |
| 担当者 | 山崎 桂子 / YAMASAKI, Keiko | |
| 科目情報 | 人間文化<日本語日本文学> / 選択 / 前期 / 演習 / 2単位 / 2年次 | |
| | — | |
| 科目概要 | 授業内容 | 『方丈記』を演習形式で読む。洗練された格調高い文体を味わいつつ、五大災厄、数寄の精神と仏道、庵居の機微をめぐる長明の思想を読みとり、中世草庵文学の特質を知る。 |
| | 到達目標 | 1) 『方丈記』を受講者全員で最後まで読み通す。 2) 古語辞書を用いて古語の意味を調べ、現代語訳ができる。 3) 参考文献を用いて内容を理解し、説明できる。 |
| 授業計画 | (1) 概説（時代背景・随筆・鴨長明） (2) 〃（成立・書名・内容・伝本）、担当段と日程の調整 (3) 『発心集』『無名抄』、大福光寺本方丈記（複製） (4) ゆく河のながれ（演習モデル）、参考文献紹介 (5) 安元の大火／治承の辻風（以下、受講者が担当し発表、質疑応答） (6) 福原への遷都 (7) 養和の飢饉 (8) 天曆の大地震/すべて世の中ありにくく (9) あられぬ世を念じすぐしつ／末葉の宿り (10) 日野山の奥にあとをかくして／春は藤波を見る (11) もし、うららかなれば／もし、夜、静かなれば (12) 仮の庵もややふるさととなりて／手の奴、足の乗物 (13) 三界はただ心ひとつ／静かなる暁 (14) 補遺（演習予備回） (15) 総まとめ | |
| 自学自習 | 事前学習 | ・原文を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない言葉・部分をチェックしておくこと。 |
| | 事後学習 | ・演習で指摘された不備・問題点を解決する。 ・関連した知識や情報を調べて更に理解を深める。 |
| 使用教材・参考文献 | 使用教材 | 浅見和彦編『カラー版方丈記・伊勢記』おうふう 2001 ISBN4273031590 |
| | 参考文献 | 梁瀬一雄『方丈記全注釈』角川書店 1971年 新編日本古典文学全集『方丈記他』小学館 1995年 ISBN ISBN4096580449 |
| 成績評価の基準と方法 | 基準 | 演習資料の作成、発表、質疑応答が出来、その成果をレポートとして提出すれば合格とする。 |
| | 方法 | レポート（50%）、演習（40%）、授業参加度（10%） |
| 備考 | 毎回、古語辞書を持ってくること。 | |

| 授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ） | | |
|-------------------------------------|-------------|-----|
| 教育課程の獲得目標 | レベルに応じた到達目標 | レベル |
| | | |
| | | |
| | | |

| | | |
|------------|---|---|
| 科目名 | 中世文学講読Ⅱ | |
| 担当者 | 山崎 桂子 / YAMASAKI, Keiko | |
| 科目情報 | 人間文化<日本語日本文学> / 選択 / 後期 / 演習 / 2単位 / 2年次 | |
| | — | |
| 科目概要 | 授業内容 | 『徒然草』を演習形式で読む。『徒然草』に描かれた兼好の美意識・教養・趣味・思想・説話を自分なりに味読・鑑賞する。また、変体仮名を読むことに挑戦し、古典を原典から読む醍醐味を味わう。古写本の知識を得る。 |
| | 到達目標 | 1) 手引きを使って変体仮名が読めるようになる。 2) 本文校訂ということを知る。 3) 参考文献を用いて各段の内容を理解し、自分なりの解釈と意見を述べられる。「○ ○について学び、△△について理解する。」 |
| 授業計画 | (1) 文字の歴史・仮名について、変体仮名の読解練習① (2) 概説（時代背景・随筆・兼好・書名）、変体仮名の読解練習② (3) 〃（成立・内容・伝本・古注釈書・正徹本）、担当段と日程の調整 (4) つれづれなるままに（演習モデル）、参考文献紹介 (5) 変体仮名の読解練習③ (6) 演習（以下、受講者が好きな段を担当し発表、質疑応答） (7) 演習 (8) 演習 (9) 演習 (10) 変体仮名の読解練習④、パロディの作成 (11) 演習、パロディの発表と講評 (12) 演習 (13) 演習 (14) 補遺、仮名テスト (15) 総まとめ | |
| 自学自習 | 事前学習 | 毎回、宿題として出された変体仮名を手引を用いて翻字してくること。 |
| | 事後学習 | ・演習で指摘された不備・問題点を解決する。 ・関連した知識や情報を調べて更に理解を深める。 |
| 使用教材・参考文献 | 使用教材 | 稲田利徳編『校注徒然草』和泉書院 1987年 ISBN4870882671 |
| | 参考文献 | 安良岡康作『徒然草全注釈上・下』角川書店 1967年 ISBN4047610070/4047610089 新編日本古典文学全集『徒然草他』小学館 1995年 ISBN4096580449 |
| 成績評価の基準と方法 | 基準 | 演習資料の作成、発表、質疑応答が出来、変体仮名が読めるようになれば合格とする。 |
| | 方法 | 演習（50%）、仮名テスト（40%）、授業参加度（10%） |
| 備考 | 毎回、古語辞書を持ってくること。 | |

| 授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ） | | |
|-------------------------------------|-------------|-----|
| 教育課程の獲得目標 | レベルに応じた到達目標 | レベル |
| | | |
| | | |
| | | |

| | | |
|------------|--|---|
| 科目名 | 近世文学講読 I | |
| 担当者 | 亀井 森 / KAMEI, Shin | |
| 科目情報 | 人間文化<日本語日本文学> / 選択 / 前期 / 演習 / 2単位 / 2年次 | |
| | — | |
| 科目概要 | 授業内容 | 日本の代表的な怪談である上田秋成の『雨月物語』の中から「吉備津の釜」をとりあげ、古典の奥深さに触れる。 |
| | 到達目標 | 江戸時代の版本を読解できるようにくずし字を練習し、古典和歌や中国との関わりにも視野を広げ、広く国文学と国語に関心を持つようになる。 |
| 授業計画 | (1) ガイダンス・基礎の確認 (2) くずし字とはなにか。 (3) 江戸時代について (4) 上田秋成について (5) 「吉備津の釜」読解 (6) 「吉備津の釜」読解 (7) 「吉備津の釜」読解 (8) 「吉備津の釜」読解 (9) 「吉備津の釜」読解 (10) 「吉備津の釜」読解 (11) 「吉備津の釜」読解 (12) 「吉備津の釜」読解 (13) 「吉備津の釜」読解 (14) 「吉備津の釜」読解 (15) 授業の総括 | |
| 自学自習 | 事前学習 | 使用教材を前もって読んでおくこと。 |
| | 事後学習 | 授業の初めに前回の授業内容を確認するので、復習をしておくこと。 |
| 使用教材・参考文献 | 使用教材 | プリントを適宜配布する。 |
| | 参考文献 | 授業の初めに前回の授業内容を確認するので、復習をしておくこと。 |
| 成績評価の基準と方法 | 基準 | 下記評価方法によって60%以上を合格とする。 |
| | 方法 | レポート・小テスト(20%)、受講態度(30%)、最終試験(50%) |
| 備考 | 本講義では版本だけでなく、活字、まんがやその他のメディアを利用して『雨月物語』が描こうとした世界を理解したいと考えている。適宜小テストを行う。 | |

| 授業マトリクス上の位置づけ(科目が設置された学科、コースでの位置づけ) | | |
|-------------------------------------|-------------|-----|
| 教育課程の獲得目標 | レベルに応じた到達目標 | レベル |
| | | |
| | | |
| | | |

| | | |
|------------|--|---|
| 科目名 | 近世文学講読Ⅱ | |
| 担当者 | 亀井 森 / KAMEI, Shin | |
| 科目情報 | 人間文化<日本語日本文学> / 選択 / 後期 / 演習 / 2単位 / 2年次 | |
| | — | |
| 科目概要 | 授業内容 | 日本の代表的な怪談である上田秋成の『雨月物語』の中から「蛇性の姪（じゃせいのいん）」をとりあげ、古典の奥深さに触れる。 |
| | 到達目標 | 江戸時代の版本を読解できるようにくずし字を練習し、古典和歌や中国との関わりにも視野を広げ、広く国文学と国語に関心を持つようになる。 |
| 授業計画 | (1) ガイダンス・基礎の確認 (2) くずし字とはなにか。 (3) 江戸時代について (4) 上田秋成について (5) 「蛇性の姪」読解 (6) 「蛇性の姪」読解 (7) 「蛇性の姪」読解 (8) 「蛇性の姪」読解 (9) 「蛇性の姪」読解 (10) 「蛇性の姪」読解 (11) 「蛇性の姪」読解 (12) 「蛇性の姪」読解 (13) 「蛇性の姪」読解 (14) 「蛇性の姪」読解 (15) 授業の総括 | |
| 自学自習 | 事前学習 | 使用教材を前もって読んでおくこと。 |
| | 事後学習 | 授業の初めに前回の授業内容を確認するので、復習をしておくこと。 |
| 使用教材・参考文献 | 使用教材 | プリントを適宜配布する。 |
| | 参考文献 | 上田秋成『雨月物語』（鶴月洋訳注、角川ソフィア文庫、平成18年、ISBN978-4-04-401102-4） |
| 成績評価の基準と方法 | 基準 | 下記評価方法によって60%以上を合格とする。 |
| | 方法 | レポート・小テスト（20%）、受講態度（30%）、最終試験（50%） |
| 備考 | 本講義では版本だけでなく、活字、まんがやその他のメディアを利用して『雨月物語』が描こうとした世界を理解したいと考えている。適宜小テストを行う。 | |

| 授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ） | | |
|-------------------------------------|-------------|-----|
| 教育課程の獲得目標 | レベルに応じた到達目標 | レベル |
| | | |
| | | |
| | | |

| | | |
|------------|--|---|
| 科目名 | 近代文学講読 I | |
| 担当者 | 嶋田 直哉 / SHIMADA, Naoya | |
| 科目情報 | 人間文化<日本語日本文学> / 選択 / 前期 / 演習 / 2単位 / 2年次 | |
| | — | |
| 科目概要 | 授業内容 | 大正期に発表された代表的な短編小説を講読し、近代文学の読み方、発表の方法の基本を養う。 |
| | 到達目標 | 小説作品についての調査、発表の方法の基礎が理解できるようになる。 |
| 授業計画 | (1) ガイダンス 発表の方法・分担 (2) 田村俊子「女作者」 (3) 上司小剣「鱧の皮」 (4) 岡本綺堂「子供役者の死」 (5) 里見弴「銀二郎の片腕」 (6) 広津和郎「師崎行」 (7) 有島武郎「小さき者へ」 (8) 芥川龍之介「奉教人の死」 (9) 宇野浩二「屋根裏の法学士」 (10) 岩野泡鳴「猫八」 (11) 菊池寛「入れ札」 (12) 川端康成「葬式の名人」 (13) 葛西善蔵「椎の若葉」 (14) 葉山嘉樹「淫売婦」 (15) 総まとめ | |
| 自学自習 | 事前学習 | ・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。 |
| | 事後学習 | 発表者は次の授業時の司会、及び議論の口火を切る質問をするので準備すること。 |
| 使用教材・参考文献 | 使用教材 | 紅野敏郎・紅野謙介他編『日本近代短篇小説選 大正篇』 2012年 岩波文庫 ISBN978-4-00-311913-6 |
| | 参考文献 | 授業時に適宜指示する。 |
| 成績評価の基準と方法 | 基準 | 作品を読む初歩的な方法が身についたと確認できれば合格とする。 |
| | 方法 | 発表 40%、レポート 30%、受講態度 30%。ただしそれぞれ合格点を満たしていること。 |
| 備考 | | |

| 授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ） | | |
|-------------------------------------|-------------|-----|
| 教育課程の獲得目標 | レベルに応じた到達目標 | レベル |
| | | |
| | | |
| | | |

| | | |
|------------|---|---|
| 科目名 | 近代文学講読Ⅱ | |
| 担当者 | 嶋田 直哉 / SHIMADA, Naoya | |
| 科目情報 | 人間文化<日本語日本文学> / 選択 / 後期 / 演習 / 2単位 / 2年次 | |
| | — | |
| 科目概要 | 授業内容 | 昭和初期の代表的な短編小説を講読し、近代文学の読み方、発表の方法の基本を養う。 |
| | 到達目標 | 小説作品についての調査、発表の方法の基礎が理解できるようになる。 |
| 授業計画 | (1) ガイダンス 発表の方法・分担 (2) 平林たい子「施療室にて」 (3) 井伏鱒二「鯉」 (4) 佐多稲子「キャラメル工場から」 (5) 横光利一「機械」 (6) 梶井基次郎「闇の絵巻」 (7) 小林多喜二「母たち」 (8) 室生犀星「あにいもうと」 (9) 北条民雄「いのちの初夜」 (10) 宮本百合子「築地河岸」 (11) 高見順「虚実」 (12) 岡本かの子「家霊」 (13) 太宰治「待つ」 (14) 中島敦「文字禍」 (15) 総まとめ | |
| 自学自習 | 事前学習 | ・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。 |
| | 事後学習 | 発表者は次の授業時の司会、及び議論の口火を切る質問をするので準備すること。 |
| 使用教材・参考文献 | 使用教材 | 紅野敏郎・紅野謙介他編『日本近代短編小説選 昭和篇 1』 2012年 岩波文庫 ISBN978-4-00-311914-3 |
| | 参考文献 | 授業時に適宜指示する。 |
| 成績評価の基準と方法 | 基準 | 作品を読む初歩的な方法が身についたと確認できれば合格とする。 |
| | 方法 | 発表 40%、レポート 30%、受講態度 30%。ただしそれぞれ合格点を満たしていること。 |
| 備考 | | |

| 授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ） | | |
|-------------------------------------|-------------|-----|
| 教育課程の獲得目標 | レベルに応じた到達目標 | レベル |
| | | |
| | | |
| | | |

| | | |
|------------|--|--|
| 科目名 | 中国文学概説 I | |
| 担当者 | 宮野 直也 / MIYANO, Naoya | |
| 科目情報 | 人間文化<日本語日本文学> / 必修 / 前期 / 講義 / 2単位 / 2年次 | |
| | — | |
| 科目概要 | 授業内容 | 古代から六朝時代までの中国文学史。但し中国の伝統的な意味での「文学」を、その担い手「士大夫」の活動という視点で講じる。 |
| | 到達目標 | 中国古典文学の主要なジャンルに親しみ基本知識を得る。 中国古典文学の社会的位置づけを理解する。 |
| 授業計画 | (1) 授業のオリエンテーションと中国古典を理解するための基礎知識 (2) 「文学」とは何か (3) 士大夫と中国の伝統的書籍分類体系 (4) 『詩経』について (5) 儒家思想と文学との関係 1 (6) 漢代の賦 1 司馬相如「上林賦」を読む (7) 漢代の賦 2 嵇康 (8) 漢代の詩と五言詩の起源 (9) 三国時代の詩 1 (10) 三国時代の詩 2 (11) 「三国時代における文学の独立」 (12) 儒家思想と文学との関係 2 (13) 『文選』と「文」 (14) 『詩品』と『文心雕竜』 (15) 総まとめ | |
| 自学自習 | 事前学習 | ・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。 |
| | 事後学習 | 授業内容の復習。特に資料と結論との関係を再確認すること。 |
| 使用教材・参考文献 | 使用教材 | 教科書は特に指定しない。授業中に配布するプリントを用いる。 |
| | 参考文献 | 鈴木修次編『文学史』中国文化叢書 5 大修館書店 1967 年 鈴木修次編『文学概論』中国文化叢書 4 大修館書店 1968 年 近藤春雄『中国学芸大辞典』大修館書店 1987 年 |
| 成績評価の基準と方法 | 基準 | 授業内容に応じた中国古典文学に関する知識と理解があれば合格とする。 |
| | 方法 | 筆記試験 60% 出席態度 40% |
| 備考 | | |

| 授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ） | | |
|-------------------------------------|-------------|-----|
| 教育課程の獲得目標 | レベルに応じた到達目標 | レベル |
| | | |
| | | |
| | | |

| | | |
|------------|---|---|
| 科目名 | 中国文学概説Ⅱ | |
| 担当者 | 宮野 直也 / MIYANO, Naoya | |
| 科目情報 | 人間文化<日本語日本文学> / 必修 / 後期 / 講義 / 2単位 / 2年次 | |
| | — | |
| 科目概要 | 授業内容 | 中国文学概説Ⅰで採りあげられなかった中国古典の重要なジャンルについての講義。 |
| | 到達目標 | 中国古典文学の主要なジャンルに親しみ基本知識を得る。 中国古典文学の社会的位置づけを理解する。 |
| 授業計画 | (1) 授業のオリエンテーションと中国古典を理解するための基礎知識 (2) 楚辞と屈原 1 (3) 楚辞と屈原 2 (4) 司馬遷と『史記』 (5) 正史の形式 (6) 『史記』司馬相如列伝を読む (7) 中国の叙事詩 1 (8) 中国の叙事詩 2 (9) 娯楽としての悲哀 (10) 中国の小説 1 「小説」とは何か (11) 中国の小説 2 志怪小説と志人小説 (12) 士大夫と詩 1 阮籍 (13) 士大夫と詩 2 陶淵明 (14) 士大夫と詩 3 顧炎武「詩は必ずしも人々皆作るにあらず」 (15) 総まとめ | |
| 自学自習 | 事前学習 | ・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。 |
| | 事後学習 | 授業内容の復習。特に資料と結論との関係を再確認すること。 |
| 使用教材・参考文献 | 使用教材 | 教科書は特に指定しない。授業中に配布するプリントを用いる。 |
| | 参考文献 | 鈴木修次編『文学史』中国文化叢書5 大修館書店 1967年 鈴木修次編『文学概論』中国文化叢書4 大修館書店 1968年 近藤春雄『中国学芸大辞典』大修館書店 1987年 |
| 成績評価の基準と方法 | 基準 | 授業内容に応じた中国古典文学に関する知識と理解があれば合格とする。 |
| | 方法 | 筆記試験 60% 出席態度 40% |
| 備考 | | |

| 授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ） | | |
|-------------------------------------|-------------|-----|
| 教育課程の獲得目標 | レベルに応じた到達目標 | レベル |
| | | |
| | | |
| | | |

| | | |
|------------|--|--|
| 科目名 | 中国文学講読（詩）Ⅰ | |
| 担当者 | 宮野 直也 / MIYANO, Naoya | |
| 科目情報 | 人間文化<日本語日本文学> / 選択 / 前期 / 演習 / 2単位 / 2年次 | |
| | — | |
| 科目概要 | 授業内容 | 唐詩の演習。Ⅰでは『唐詩選』所収の初唐、盛唐の詩を採り上げる。担当者は一回につき絶句一篇を担当し、原文、書き下し文、語釈、通釈と、必要に応じて典故、事項、時代背景などの説明を含むレジュメを作成し、授業で説明して質問に応じる。 |
| | 到達目標 | 漢和辞典を活用できるようになる。 漢字と漢文訓読に習熟する。 詩を表現技巧と構成に基づいて解釈し、その内容を説明する方法を実践で学ぶ。 |
| 授業計画 | (1) オリエンテーションと演習担当日程の決定 (2) 演習の手本 (3) 演習 (4) 演習 (5) 演習 (6) 演習 (7) 演習 (8) 演習 (9) 演習 (10) 演習 (11) 演習 (12) 演習 (13) 演習 (14) 演習 (15) 総まとめ | |
| 自学自習 | 事前学習 | ・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。 |
| | 事後学習 | 授業内容の復習。特に、分からない文字、熟語を漢和辞典で確認すること。 |
| 使用教材・参考文献 | 使用教材 | 教科書は特に指定しない。講義中に配布するプリントを用いる。 |
| | 参考文献 | 小川環樹編 『唐代の詩人』 大修館書店 1975年 植木久行編 『唐詩の風土』 研文出版 1983年 野口一雄 『漢詩歳時記』 講談社 1995年 |
| 成績評価の基準と方法 | 基準 | 演習の準備と発表の努力と結果が到達目標に相応しいと認められれば合格とする。 |
| | 方法 | 演習 60% 出席態度 40% |
| 備考 | | |

| 授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ） | | |
|-------------------------------------|-------------|-----|
| 教育課程の獲得目標 | レベルに応じた到達目標 | レベル |
| | | |
| | | |
| | | |

| | | |
|------------|--|--|
| 科目名 | 中国文学講読（詩）Ⅱ | |
| 担当者 | 宮野 直也 / MIYANO, Naoya | |
| 科目情報 | 人間文化<日本語日本文学> / 選択 / 後期 / 演習 / 2単位 / 2年次 | |
| | — | |
| 科目概要 | 授業内容 | 唐詩の演習。Ⅱでは中唐、晩唐の詩を適宜採り上げる。担当者は一回につき絶句一篇を担当し、原文、書き下し文、語釈、通釈と、必要に応じて典故、事項、時代背景などの説明を含むレジュメを作成し、授業で説明して質問に応じる。 |
| | 到達目標 | 漢和辞典を活用できるようになる。 漢字と漢文訓読に習熟する。 詩を表現技巧と構成に基づいて解釈し、その内容を説明する方法を実践で学ぶ。 |
| 授業計画 | (1) オリエンテーションと演習担当日程の決定 (2) 演習の手本 (3) 演習 (4) 演習 (5) 演習 (6) 演習 (7) 演習 (8) 演習 (9) 演習 (10) 演習 (11) 演習 (12) 演習 (13) 演習 (14) 演習 (15) 総まとめ | |
| 自学自習 | 事前学習 | ・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。 |
| | 事後学習 | 授業内容の復習。特に、分からない文字、熟語を漢和辞典で確認すること。 |
| 使用教材・参考文献 | 使用教材 | 教科書は特に指定しない。講義中に配布するプリントを用いる。 |
| | 参考文献 | 小川環樹編 『唐代の詩人』 大修館書店 1975年 植木久行編 『唐詩の風土』 研文出版 1983年 野口一雄 『漢詩歳時記』 講談社 1995年 |
| 成績評価の基準と方法 | 基準 | 演習の準備と発表の努力と結果が到達目標に相応しいと認められれば合格とする。 |
| | 方法 | 演習 60% 出席態度 40% |
| 備考 | | |

| 授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ） | | |
|-------------------------------------|-------------|-----|
| 教育課程の獲得目標 | レベルに応じた到達目標 | レベル |
| | | |
| | | |
| | | |

| | | |
|------------|--|---|
| 科目名 | 中国文学講読（散文）Ⅱ | |
| 担当者 | 宮野 直也 / MIYANO, Naoya | |
| 科目情報 | 人間文化<日本語日本文学> / 選択 / 前期 / 演習 / 2単位 / 3年次 | |
| | — | |
| 科目概要 | 授業内容 | 唐代伝奇小説の演習。担当者は指定された範囲の原文、書き下し文、語釈、通釈と、必要に応じて典故、事項、時代背景などの説明を含むレジюмеを作成し、授業で説明して質問に応じる。 |
| | 到達目標 | 漢和辞典を活用できるようになる。 漢字と漢文訓読に習熟する。 古典を読解し、その内容を説明する方法を実践で学ぶ。 |
| 授業計画 | (1) オリエンテーションと演習担当日程の決定 (2) 演習の見本 (3) 演習 (4) 演習 (5) 演習 (6) 演習 (7) 演習 (8) 演習 (9) 演習 (10) 演習 (11) 演習 (12) 演習 (13) 演習 (14) 演習 (15) 総まとめ | |
| 自学自習 | 事前学習 | ・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。 |
| | 事後学習 | 授業内容の復習。特に、分からない文字、熟語を漢和辞典で確認すること。 |
| 使用教材・参考文献 | 使用教材 | 教科書は特に指定しない。授業中に配布するプリントを用いる。 |
| | 参考文献 | 月刊 『しにか 97/3 中国古典小説入門Ⅰ』 大修館書店 1997年 月刊 『しにか 97/10 中国古典小説入門Ⅰ』 大修館書店 1997年 『幻想文学 44 中国幻想小説必携』 アトリエ OCTA 1995年 |
| 成績評価の基準と方法 | 基準 | 演習の準備と発表の努力と結果が到達目標に相応しいと認められれば合格とする。 |
| | 方法 | 演習 60% 出席 40% |
| 備考 | | |

| 授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ） | | |
|-------------------------------------|-------------|-----|
| 教育課程の獲得目標 | レベルに応じた到達目標 | レベル |
| | | |
| | | |
| | | |

| | | |
|------------|---|---|
| 科目名 | 中世文学特講 | |
| 担当者 | 山崎 桂子 / YAMASAKI, Keiko | |
| 科目情報 | 人間文化<日本語日本文学> / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 3年次 | |
| | — | |
| 科目概要 | 授業内容 | 『平家物語』を取り上げる。12世紀後半の歴史的背景と軍記物語としての『平家物語』の特色を講義する。その後、著名な段を取り上げて演習形式で読んでいく。 |
| | 到達目標 | 1) 軍記独特の口調を理解して、力強く読める。 2) 古語辞書を用いて古語の意味を調べ、現代語訳ができる。 3) 参考文献を用いて内容を理解し、説明できる。 4) 史実と文学の関係について自分なりの見解を出せる。 |
| 授業計画 | (1) 概説（軍記物語・保元の乱・平治の乱） (2) 〃（源平の争乱） (3) 〃（成立・作者・異本・読み本・語り本） (4) 〃（内容と構成・文体・主題） (5) ビデオ視聴、参考文献紹介、担当段と日程の調整 (6) 祇園精舎（演習モデル）、平家琵琶を聞く (7) 殿上の闊討（以下、受講者が担当し発表、質疑応答） (8) 忠度都落 (9) 木曾最期 (10) 敦盛最期 (11) 那須与一 (12) 先帝身投 (13) 能登殿最期 (14) 補遺・演習予備日 (15) 総まとめ | |
| 自学自習 | 事前学習 | ・取り上げる段を声に出して読めるようにしておくこと。 ・意味のわからない言葉は辞書等で事前に調べておくこと。 ・疑問点を整理して質問できるようにしておくこと。 |
| | 事後学習 | ・演習で指摘された不備、問題点を解決する。 ・作品に関連した知識や情報を調べて更に理解を深める。 |
| 使用教材・参考文献 | 使用教材 | プリントを配布する。 |
| | 参考文献 | 新編日本古典文学全集『平家物語上・下』小学館 1994年 ISBN409658045.6 板坂燿子『平家物語あらすじで読む源平の戦い』中公新書 2005年 ISBN4121017870 |
| 成績評価の基準と方法 | 基準 | 演習資料の作成、発表、質疑応答が出来、その成果をレポートとして提出すれば合格とする。 |
| | 方法 | レポート（50点）、演習（40点）、受講態度（10点） |
| 備考 | 毎回、古語辞書を持ってくること。 | |

| 授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ） | | |
|-------------------------------------|-------------|-----|
| 教育課程の獲得目標 | レベルに応じた到達目標 | レベル |
| | | |
| | | |
| | | |

| | | |
|------------|---|---|
| 科目名 | 近世文学特講 | |
| 担当者 | 丹羽 謙治 / NIWA, Ken'ji | |
| 科目情報 | 人間文化<日本語日本文学> / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 3年次 | |
| | - | |
| 科目概要 | 授業内容 | 江戸時代には大量の庶民向けの絵本、草双紙（赤本、黒本、青本、黄表紙）が作られた。本講義ではその中から数点を選び、註釈を施しながら講読し、江戸時代の庶民文化の多様性について考える。 |
| | 到達目標 | 近世庶民文化の特質を理解できる。近世の絵本の中に使われている趣向や描き方の特色を理解する。 |
| 授業計画 | (1) 導入 江戸時代の庶民文芸と書物の概説 (2) 赤本『桃太郎昔語』を読む（1） (3) 赤本『桃太郎昔語』を読む（2） (4) 異類合戦物の草双紙を読む（1） (5) 異類合戦物の草双紙を読む（2） (6) 上方の絵本を読む（1） (7) 上方の絵本を読む（2） (8) 黄表紙『金々先生栄華夢』を読む（1） (9) 黄表紙『金々先生栄華夢』を読む（2） (10) 黄表紙『金々先生栄華夢』を読む（3） (11) 黄表紙『従夫以来記』（1） (12) 黄表紙『従夫以来記』（2） (13) 黄表紙『従夫以来記』（3） (14) 化け物と草双紙（1） (15) 化け物と草双紙（2） まとめ | |
| 自学自習 | 事前学習 | ・配布されたテキストを前もって読んでおくこと。 |
| | 事後学習 | ・テキストの絵や書き入れを再度ながめる。特殊な専門用語を辞書などで確認し記憶しておくこと。 |
| 使用教材・参考文献 | 使用教材 | 教科書は特に指定しない。講義中に配布するプリント（ハンドアウト）を用いる。 |
| | 参考文献 | 『日本古典文学大系 黄表紙洒落本』『新日本古典文学大系 草双紙集』（岩波書店） |
| 成績評価の基準と方法 | 基準 | 近世の書物の中の絵本や草双紙に関して正しい認識を身につけられたかどうか、江戸の表現の面白さに気づくことができているかどうかを判断して、合否を決定する。 |
| | 方法 | 小レポート（20%）、試験（80%）。 |
| 備考 | | |

| 授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ） | | |
|-------------------------------------|-------------|-----|
| 教育課程の獲得目標 | レベルに応じた到達目標 | レベル |
| | | |
| | | |
| | | |

| | | |
|------------|---|--|
| 科目名 | 近代文学特講 I | |
| 担当者 | 嶋田 直哉 / SHIMADA, Naoya | |
| 科目情報 | 人間文化<日本語日本文学> / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 3年次 | |
| | — | |
| 科目概要 | 授業内容 | 文学理論を応用し日本近代文学の作品を読む。 |
| | 到達目標 | 文学理論について学び、日本近代文学作品の分析方法について理解する。 |
| 授業計画 | (1) ガイダンス 文学理論とは何か？ (2) 作者 (3) 視点 (4) 描写 (5) ジェンダー (6) 読者 (7) 都市 (8) 記憶 (9) 同時代 (10) 語り (11) 本文 (12) 原稿 (13) テキスト (14) 挿絵 (15) 総まとめ | |
| 自学自習 | 事前学習 | ・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。 |
| | 事後学習 | ・各授業終了時にコメントシートを記入し、提出。 ・「トレーニングシート」に取り組むこと。 |
| 使用教材・参考文献 | 使用教材 | 河野龍也他編著『大学生のための文学トレーニング 近代編』 2012年 三省堂 ISBN978-4-385-36553-4 |
| | 参考文献 | 石原千秋他編『読むための理論』 1991年 世織書房 ISBN4-906388-01-9 |
| 成績評価の基準と方法 | 基準 | 文学理論を理解でき、それを作品の分析に応用することができれば合格とする。 |
| | 方法 | レポート 60%、受講態度 30%、コメントシート 10%。ただしそれぞれ合格点を満たしていること。 |
| 備考 | | |

| 授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ） | | |
|-------------------------------------|-------------|-----|
| 教育課程の獲得目標 | レベルに応じた到達目標 | レベル |
| | | |
| | | |
| | | |

| | | |
|------------|--|---|
| 科目名 | 近代文学特講Ⅱ | |
| 担当者 | 嶋田 直哉 / SHIMADA, Naoya | |
| 科目情報 | 人間文化<日本語日本文学> / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 3年次 | |
| | — | |
| 科目概要 | 授業内容 | 舞台映像を実際に観ながら「演劇」について多角的に検証する。 |
| | 到達目標 | 「演劇」を楽しむのはもちろんのこと、劇作家の思考＝試行を理解する。 |
| 授業計画 | (1) ガイダンス 「演劇」とは何か？ (2) 「パフォーマンス」と「演劇」 (3) ミュージカルの世界 その1 世界のミュージカル (4) ミュージカルの世界 その2 日本のミュージカル (5) ミュージカルの世界 その3 宝塚歌劇 (6) オペラの世界 その1 イタリア・オペラ (7) オペラの世界 その2 ドイツ・オペラ (8) プッチーニ「蝶々夫人」を考える その1 演出 (9) プッチーニ「蝶々夫人」を考える その2 翻訳 (10) バレエの世界 その1 「白鳥の湖」ほか (11) バレエの世界 その2 「ラ・バヤデール」ほか (12) 現代演劇を考える その1 野田秀樹 (13) 現代演劇を考える その2 現代演劇最前線 (14) 現代演劇を考える その3 三谷幸喜とコメディ (15) 総まとめ | |
| 自学自習 | 事前学習 | 受講までに実際に演劇作品を劇場や公共ホール、あるいは映像で観ておくことが望ましい。 |
| | 事後学習 | 各授業終了時にコメントシートを記入し提出。 |
| 使用教材・参考文献 | 使用教材 | 教科書は特に使用しない。授業中に配布するプリントを用いる。 |
| | 参考文献 | 扇田昭彦『日本の現代演劇』（岩波新書）ISBN-10: 4004303729 |
| 成績評価の基準と方法 | 基準 | 演劇に対する理解、関心が深められれば合格とする。 |
| | 方法 | 学期末レポート 60%、受講態度 30%、コメントシート 10%。ただしそれぞれ合格点を満たしていること。 |
| 備考 | | |

| 授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ） | | |
|-------------------------------------|-------------|-----|
| 教育課程の獲得目標 | レベルに応じた到達目標 | レベル |
| | | |
| | | |
| | | |

| | | |
|------------|---|---|
| 科目名 | 日本語教育の基礎 I | |
| 担当者 | 新内 康子 / SHIN' UCHI, Koko | |
| 科目情報 | 人間文化<日本語日本文学> / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 2年次 | |
| | - | |
| 科目概要 | 授業内容 | 日本語を第一言語としない人たちに日本語を指導するために日本語教師として必要な基礎知識を日本語教育の各領域に分けて概説する。 |
| | 到達目標 | 「母語の学習と外国語学習とを比較しながら、日本語教育の特色が理解できるようになる。」 「外国語教授法にはどのようなものがあるか具体的に知るとともに、各教授法の長所と短所が理解できるようになる。」 「17世紀から今日までの日本語教育史の概略が理解できる。」 「教科書分析の視点を理解し、それに基づき教科書分析ができるようになる。」 「日本語学習者の音声学習上の問題点とその指導法が理解できるようになる。」 |
| 授業計画 | (1) 日本語教育の現状と課題 (2) 日本語教育の特色 (3) 母語の学習と外国語学習 (4) 同上 (5) 外国語教授法のいろいろ (6) 同上 (7) 同上 (8) 日本語教育の歴史 (9) 同上 (10) 同上 (11) 日本語教育のレベル別目標 (12) 日本語教育用教科書について (13) 日本語の音声とその指導 (14) 同上 (15) 同上 | |
| 自学自習 | 事前学習 | ・「教科書」の指示された章を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。 |
| | 事後学習 | 講義内容を更に深めるために参考文献を読んだり、小テスト・期末試験で高得点が取れるよう十分に復習したりすること。 |
| 使用教材・参考文献 | 使用教材 | 石田敏子『改訂新版 日本語教授法』1995年 大修館書店 |
| | 参考文献 | 日本語教育学会編『日本語教育ハンドブック』1990年 大修館書店 日本語教育学会編『新版 日本語教育事典』2005年 大修館書店 |
| 成績評価の基準と方法 | 基準 | 日本語教育の特色、各教授法の長所と短所、日本語教育史の概略、音声学習上の問題点とその指導法が理解でき、教科書分析もできれば、合格とする。 |
| | 方法 | 音声小テスト (20点)、教科書分析レポート (30点)、前期末試験 (50点) |
| 備考 | 授業回数の3分の1以上欠席した場合、不合格とする。2回の遅刻・早退を1回の欠席とする。 | |

| 授業マトリクス上の位置づけ (科目が設置された学科、コースでの位置づけ) | | |
|--------------------------------------|-------------|-----|
| 教育課程の獲得目標 | レベルに応じた到達目標 | レベル |
| | | |
| | | |
| | | |

| | | |
|------------|--|--|
| 科目名 | 日本語教育の基礎Ⅱ | |
| 担当者 | 新内 康子 / SHIN' UCHI, Koko | |
| 科目情報 | 人間文化<日本語日本文学> / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 2年次 | |
| | — | |
| 科目概要 | 授業内容 | 「日本語教育の基礎Ⅰ」に引き続き、日本語を第一言語としない人たちに日本語を指導するために日本語教師として必要な基礎知識を日本語教育の各領域に分けて概説する。 |
| | 到達目標 | 「日本語の文字・語彙・文法に関する指導項目が把握でき、それらの指導法も理解できるようになる。」 「カリキュラムをたてる際の留意点が理解できるようになる。」 「四技能（聴く・話す・読む・書く）の学習上の問題点が把握でき、それらの効果的な指導法も理解できるようになる。」 「各視聴覚教材の特徴がわかり、それらの効果的な使用法も理解できるようになる。」 |
| 授業計画 | (1) 日本語の文字とその指導 (2) 日本語の語彙とその指導 (3) 同上 (4) 日本語の文法とその指導 (5) 同上 (6) 同上 (7) ドリルの種類とその練習法 (8) カリキュラムのたて方 (9) 聴解における学習者の問題点とその指導法 (10) 話すことにおける学習者の問題点とその指導法 (11) 読解における学習者の問題点とその指導法 (12) 書くことにおける学習者の問題点とその指導法 (13) 視聴覚教材の特徴とその使用法 (14) 同上 (15) 日本語教師の心構え | |
| 自学自習 | 事前学習 | ・「教科書」の該当章を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。 |
| | 事後学習 | 講義内容を更に深めるために参考文献を読んだり、小テスト・期末試験で高得点が取れるよう十分に復習したりすること。 |
| 使用教材・参考文献 | 使用教材 | 石田敏子『改訂新版 日本語教授法』1995年 大修館書店 |
| | 参考文献 | 日本語教育学会編『日本語教育ハンドブック』1990年 大修館書店 日本語教育学会編『新版 日本語教育事典』2005年 大修館書店 |
| 成績評価の基準と方法 | 基準 | 日本語教育文法とは何か、文字・表記や聴解・話す・読解・書くことにおける学習者の問題点とは何か、各視聴覚教材の長所と短所が理解できれば、合格とする。 |
| | 方法 | 日本語教育用文法用語小テスト（30点）、後期末試験（70点） |
| 備考 | 「日本語教育の基礎Ⅰ」の履修者を対象としている。授業回数の1/3以上欠席した場合、不合格とする。2回の遅刻・早退を1回の欠席とする。 | |

| 授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ） | | |
|-------------------------------------|-------------|-----|
| 教育課程の獲得目標 | レベルに応じた到達目標 | レベル |
| | | |
| | | |
| | | |

| | | |
|------------|---|--|
| 科目名 | 日本語教授法Ⅰ | |
| 担当者 | 新内 康子 / SHIN' UCHI, Koko | |
| 科目情報 | 人間文化<日本語日本文学> / 選択 / 前期 / 演習 / 2単位 / 3年次 | |
| | — | |
| 科目概要 | 授業内容 | コースデザインとは何か、日本語教授法に関する理論などを講義し、その後日本語初級レベル（日本語能力試験 N5～N3 相当）の指導法を実際に体験する。 |
| | 到達目標 | 「コースデザインの概要が理解できるようになる。」 「初級文型とは何かはわかり、文の特徴に合わせた文型練習が既習の日本語だけで手際よく行えるようになる。」 「初級学習者向けにフォリナートークができるようになる。」 「初級指導のために適切な教材教具が使用できるようになる。」 |
| 授業計画 | (1) コースデザインの概要（講義） (2) 同上（講義） (3) 同上（講義） (4) 導入のための教室活動（講義） (5) 文法練習の種類と具体的なやり方＝オーディオリンガル法・TPR・CLL＝（講義） (6) 初級文型の導入と文型練習の模擬授業（演習） (7) 同上（演習） (8) 同上（演習） (9) 新出語彙の教え方、本文（会話文）の教え方（講義） (10) コミュニカティブアプローチに基づく活動の教材の作り方および指導法（講義） (11) 新出語彙・文型練習・本文・コミュニケーション活動の模擬授業（演習） (12) 同上（演習） (13) 同上（演習） (14) 同上（演習） (15) 同上（演習） | |
| 自学自習 | 事前学習 | ・「使用教材と配付プリント」の該当箇所を事前に読んでおくこと。 ・事前個別指導を受けるための箇所を予習しておくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。 |
| | 事後学習 | ・演習・期末試験に備え、学習した内容を確実に理解しておくこと。 |
| 使用教材・参考文献 | 使用教材 | 『みんなの日本語初級Ⅰ第2版 本冊』『同左 翻訳・文法解説』『同左 教え方の手引き』スリーエーネットワーク 2012年 |
| | 参考文献 | 『日本語教授法ワークショップ』凡人社 1996年 田中望『日本語教育の方法＝コースデザインの実際＝』大修館 1988年 |
| 成績評価の基準と方法 | 基準 | コースデザインの概要、導入・文型練習・コミュニカティブアプローチにもとづく練習のやり方がわかり、文型練習については実際に行えれば合格とする。 |
| | 方法 | 発言等の積極性（5点）、ニーズ調査表作成（20点）、宿題（15点）、演習（30点）、前期末試験（30点） |
| 備考 | 「日本語教育の基礎Ⅰ」「日本語教育の基礎Ⅱ」を履修した者を対象とする。各人2回の演習のうち1回でも無断欠席をした者は、合格としない。 | |

| 授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ） | | |
|-------------------------------------|-------------|-----|
| 教育課程の獲得目標 | レベルに応じた到達目標 | レベル |
| | | |
| | | |
| | | |

| | | |
|------------|--|---|
| 科目名 | 日本語教授法Ⅱ | |
| 担当者 | 入佐 信宏 / IRISA, Nobuhiro | |
| 科目情報 | 人間文化<日本語日本文学> / 選択 / 後期 / 演習 / 2単位 / 3年次 | |
| | — | |
| 科目概要 | 授業内容 | (1) 中級レベルの日本語教育（講義）、(2) 中級レベルの教案の作り方と指導法（講義）、(3) 模擬授業（演習）とフィードバックを行う予定です。 |
| | 到達目標 | (1) 中級レベルの教授法、教材およびその内容について理解する。 (2) 中級レベルの文型と指導法について理解する。 (3) 中級レベルの教案の作り方を理解し、教案が作れるようになる。 (4) 中級レベルの模擬授業を適切に行えるようになる。 |
| 授業計画 | (1) 中上級レベルの日本語教育（講義） (2) 〃 (3) 〃 (4) 中級レベルの教案の作り方と指導法（講義） (5) 〃 (6) 模擬授業（演習）およびフィードバック (7) 〃 (8) 〃 (9) 〃 (10) 〃 (11) 〃 (12) 〃 (13) 〃 (14) 〃 (15) 〃 | |
| 自学自習 | 事前学習 | (1) 教材を熟読し、自分の担当箇所の指導法を考えておくこと。 (2) 担当する文型について複数の文型辞典で調べておくこと。 (3) 模擬授業の前に教案を作成し、必要に応じて事前指導（課外）を受けること。 |
| | 事後学習 | 自分が行った模擬授業の問題点を把握し、次回の授業で改善すること。 |
| 使用教材・参考文献 | 使用教材 | 『みんなの日本語中級Ⅰ 本冊』2008年 スリーエーネットワーク 『みんなの日本語中級Ⅰ 教え方の手引き』2010年 スリーエーネットワーク |
| | 参考文献 | 庵功雄ほか『中上級を教える人のための日本語文法ハンドブック』スリーエーネットワーク 2001年 グループ・ジャマシ『教師と学習者のための日本語文型辞典』くろしお出版 1998年 |
| 成績評価の基準と方法 | 基準 | 上記の到達目標を達成したものを合格とします。 |
| | 方法 | 授業での積極性(10点)、演習(50点)、期末試験(40点)で評価します。 |
| 備考 | ・今年度「日本語教育実習」（後期科目）を受講する者は必ず受講すること。・4回以上欠席したものは不合格とする。（遅刻2回を欠席1回とする） | |

| 授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ） | | |
|-------------------------------------|-------------|-----|
| 教育課程の獲得目標 | レベルに応じた到達目標 | レベル |
| | | |
| | | |
| | | |

| | | |
|------------|---|--|
| 科目名 | 対照言語学 | |
| 担当者 | ◎新内 康子 / 入佐 信宏 / 横山 政子 | |
| 科目情報 | 人間文化<日本語日本文学> / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 2年次 | |
| | — | |
| 科目概要 | 授業内容 | 日本語を第二言語とする人達に日本語を指導するのに不可欠な対照言語学的視点を指導者として持つために、対照言語学とは何か、を講義し、日本語と英語の対照、日本語と韓国語の対照、日本語と中国語の対照、をそれぞれ行う。 |
| | 到達目標 | 「対照言語学とは何かを学び、対照言語学と第二言語習得との関連性が理解できるようになる。」 「日本語と英語とを比較対照し、英語母語話者の誤用原因の一部が理解できるようになる。」 「日本語と韓国語とを比較対照し、韓国語母語話者の誤用原因の一部が理解できるようになる。」 「日本語と中国語とを比較対照し、中国語母語話者の誤用原因の一部が理解できるようになる。」 |
| 授業計画 | (1) 日本語教育と対照言語学、対照言語学とは (新内) (2) 対照言語学とアメリカ構造言語学・第二言語習得 (新内) (3) 同上 (新内) (4) 母語の語族等の違いによる学習者の日本語習得傾向 (新内) (5) 日本語と英語との比較対照 (新内) (6) 同上 (新内) (7) 同上 (新内) (8) 同上 (新内) (9) 日本語と韓国語との比較対照 (入佐) (10) 同上 (入佐) (11) 同上 (入佐) (12) 日本語と中国語との比較対照 (横山) (13) 同上 (横山) (14) 同上 (横山) (15) 総まとめ (新内) | |
| 自学自習 | 事前学習 | ・配布プリント・参考文献を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。 |
| | 事後学習 | 各回の授業内容が定着するよう復習すること。 |
| 使用教材・参考文献 | 使用教材 | 教科書は特に指定しない。講義中に配布するプリントを用いる。 |
| | 参考文献 | 迫田久美子『日本語教育に生かす第二言語習得研究』2002年 アルク 水谷信子『実例で学ぶ誤用分析の方法』1994年 アルク 張麟声『日本語教育のための誤用分析＝中国語母語話者の母語干渉20例＝』2001年 スリーエーネットワーク |
| 成績評価の基準と方法 | 基準 | 上記の到達目標に達した者を合格とする。 |
| | 方法 | 前期末試験(85点)、受講態度(15点)で評価する。 |
| 備考 | 2回の遅刻または早退で1回の欠席とする。授業回数数の3分の1以上欠席した場合、不合格とする。西暦奇数年開講。 | |

| 授業マトリクス上の位置づけ(科目が設置された学科、コースでの位置づけ) | | |
|-------------------------------------|-------------|-----|
| 教育課程の獲得目標 | レベルに応じた到達目標 | レベル |
| | | |
| | | |
| | | |

| | | |
|------------|---|--|
| 科目名 | 日本語教育実習 | |
| 担当者 | ◎新内 康子 / SHIN' UCHI, Koko 入佐 信宏 / IRISA, Nobuhiro | |
| 科目情報 | 人間文化<日本語日本文学> / 選択 / 後期 / 実習・演習 / 2単位 / 3年次 | |
| | — | |
| 科目概要 | 授業内容 | 日本語の初級と中級の教材研究、教案作成、授業観察、教育実習、振り返りを行う。 |
| | 到達目標 | 「日本語初級レベル用の教材研究の視点が持てるようになるとともに、教案を作成しそれに基づき効果的に教えられるようになる。」 「日本語中級レベル用の教材研究の視点が持てるようになるとともに、教案を作成しそれに基づき効果的に教えられるようになる。」 |
| 授業計画 | (1) 実習に関する全容説明 (新内・入佐) (2) 授業の実際 (新内・入佐) (3) 初級授業と初級教案作成法 (新内・入佐) (4) 中級授業と中級教案作成法 (入佐・新内) (5) 1回目実習指導: 初級 (新内) 中級 (入佐) (6) 2回目実習指導: 初級 (新内) 中級 (入佐) (7) 3回目実習指導: 初級 (新内) 中級 (入佐) (8) 4回目実習指導: 初級 (新内) 中級 (入佐) (9) 実習準備 (新内・入佐) (10) 実習準備 (新内・入佐) (11) 1回目初級・中級実習検討 (新内・入佐) (12) 2回目初級・中級実習検討 (新内・入佐) (13) 3回目初級・中級実習検討 (新内・入佐) (14) 4回目初級・中級実習検討 (新内・入佐) (15) 総まとめ (新内・入佐) | |
| 自学自習 | 事前学習 | ・教材研究を前もって十分行うこと。 ・教案作成を行う際には十分検討すること。 |
| | 事後学習 | ・録画された各実習生の授業DVDを観察して、授業のフィードバックを行い、次の授業改善に努めること。 |
| 使用教材・参考文献 | 使用教材 | 『みんなの日本語初級Ⅱ第2版 本冊』『同左 翻訳文法解説』『同左 教え方の手引き』2012年 スリーエーネットワーク 『みんなの日本語中級Ⅰ本冊』『同左 教え方の手引き』2008年 スリーエーネットワーク |
| | 参考文献 | 指導時に適宜紹介する。 |
| 成績評価の基準と方法 | 基準 | 教材研究の成果が反映された教案が作成でき、かつそれに基づいて日本語の初級ならびに中級授業が行えれば合格とする。 |
| | 方法 | 授業観察レポート (10点)、教育実習 (70点)、ふりかえり表 (10点)、最終レポート (10点) |
| 備考 | | |

| 授業マトリクス上の位置づけ (科目が設置された学科、コースでの位置づけ) | | |
|--------------------------------------|-------------|-----|
| 教育課程の獲得目標 | レベルに応じた到達目標 | レベル |
| | | |
| | | |
| | | |

| | | |
|------------|--|---|
| 科目名 | 書道（書写） | |
| 担当者 | 伊之口 芳至 / INOKUCHI, Yoshiyuki | |
| 科目情報 | 人間文化＜日本語日本文学＞ / 選択 / 前期 / 実習 / 2単位 / 2年次 | |
| | — | |
| 科目概要 | 授業内容 | 実技をとおして教育書道、実用書道、芸術書道の接点と相違点を探る。 |
| | 到達目標 | 書道は、学校生活及び社会生活に必要な基礎的な教養であり、文字を正しく整えて書くことに重点が置かれる。高校や一般の芸術書道となると学習方法並びに学習指導は、表現（書くこと）鑑賞（見ること）と理論（考えること）の三位一体でなされるが、この授業では学習者が教育・実用・芸術書道の接点と相違を理解することにより書写能力を高め表現のための感性を磨くことを目標にしたい。 |
| 授業計画 | (1) 漢字の学習 篆書を書く (2) 漢字の学習 隸書を書く (3) 漢字の学習 楷書を書く (4) 漢字の学習 行書を書く (5) 漢字の学習 草書を書く (6) 仮名の学習 平仮名の単体 (7) 仮名の学習 連綿の方法 (8) 仮名の学習 変体仮名の学習 (9) 仮名の学習 俳句を書く (10) 仮名の学習 短歌を書く (11) 落款と印 (12) 漢字仮名交じりの書 身近な言葉を書く (13) 漢字仮名交じりの書 近代詩文を書く (14) 手紙・年賀状・暑中見舞い・のし袋の書き方など (15) 総まとめ | |
| 自学自習 | 事前学習 | ・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。 |
| | 事後学習 | ・前回までの提出作品の確認と整理を行う。う。 ・前半に小レポートを課す。 |
| 使用教材・参考文献 | 使用教材 | 野口白汀ほか12名 『書Ⅰ』『書Ⅱ』教育図書2008年 |
| | 参考文献 | 魚住和晃・萩信雄編『書学挙要』藝文書院2001年 |
| 成績評価の基準と方法 | 基準 | 出席状況と提出作品、簡単なレポート、受講態度。提出作品がない場合は不合格とする。 |
| | 方法 | 作品70%、レポート10%、出席態度20% |
| 備考 | 適宜手本や資料プリントを配布する。 | |

| 授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ） | | |
|-------------------------------------|-------------|-----|
| 教育課程の獲得目標 | レベルに応じた到達目標 | レベル |
| | | |
| | | |
| | | |

| | | |
|------------|---|--|
| 科目名 | 書道史 | |
| 担当者 | 伊之口 芳至 / INOKUCHI, Yoshiyuki | |
| 科目情報 | 人間文化<日本語日本文学> / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 2年次 | |
| | — | |
| 科目概要 | 授業内容 | 書の歴史を時代別に区分し、古典を解説しながらその書道史の流れを捉える。 |
| | 到達目標 | 三千余年にわたる書の伝統と歴史は、書写文字の簡略化と美化の連続であったといえる。日本に伝わった漢字を受容し和様化と仮名を完成した日本人の感性など書の魅力は尽きない。中国と日本の書の歴史を豊富な古典の資料を解説しながら、時代区分を越えて展開されてきた大きな書道史の流れを学習者が把握できるように授業を進めたい。 |
| 授業計画 | (1) 中国書道史 文字の起源と甲骨文字 (2) 中国書道史 金文と周代の書法 (3) 中国書道史 秦代の文字の統一と隷書への変化へ (4) 中国書道史 漢代の隷書と用筆美 (5) 中国書道史 草書・行書・楷書の萌芽 (6) 中国書道史 六朝の書と書聖 (7) 中国書道史 隋・唐の楷書 (8) 中国書道史 個性と開放の宗代 (9) 中国書道史 元・明・清の書法とその流れ (10) 中国書道史 帖学と碑学 (11) 日本書道史 漢字の伝来 (12) 日本書道史 奈良時代の書法と写経 (13) 日本書道史 平安時代と仮名の完成 (14) 日本書道史 その後の書道史と今後の書道 (15) 総まとめ | |
| 自学自習 | 事前学習 | ・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと |
| | 事後学習 | ・授業の初めに前回の授業内容の確認を行う。 ・前半に小レポートを課す。 |
| 使用教材・参考文献 | 使用教材 | 鈴木翠軒・伊東参州共著『新設 和漢書道史』日本習字普及協会 1996年 |
| | 参考文献 | 藤原鶴来『和漢書道史』二玄社 1927年 |
| 成績評価の基準と方法 | 基準 | 出席状況、レポート、受講態度と到達目標に達した者を合格とします。 |
| | 方法 | レポート 70%、受講態度 30% |
| 備考 | 適宜補充プリントを配布する。読書レポートの内容も成績評価の対象とする。 | |

| 授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ） | | |
|-------------------------------------|-------------|-----|
| 教育課程の獲得目標 | レベルに応じた到達目標 | レベル |
| | | |
| | | |
| | | |

| | | |
|------------|--|---|
| 科目名 | 英語の音声 | |
| 担当者 | 蒲地 賢一郎 / KAMACHI, Kenichiro | |
| 科目情報 | 人間文化<日本語日本文学> / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 2年次 | |
| | — | |
| 科目概要 | 授業内容 | 日本人が発する英語の音を、ネイティブ・スピーカーの音に近づける練習をします。同時に、そのリスニングの練習をします。 |
| | 到達目標 | 英語の母音、子音を日本語の母音、子音と比較しながら相違点を認識し、自分で発音ができるようになる。 |
| 授業計画 | (1) 子音の発音 1 (2) 子音の発音 2 (3) 子音の発音 3 (4) 子音の発音 4 (5) 子音の発音 5 (6) 母音の発音 1 (7) 母音の発音 2 (8) 母音の発音 3 (9) 母音の発音 4 (10) 母音の発音 5 (11) 映像で音を確認 1 (12) 映像で音を確認 2 (13) 映像で音を確認 3 (14) 映像で音を確認 4 (15) 総まとめ | |
| 自学自習 | 事前学習 | ・「使用教材」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。 |
| | 事後学習 | 英語音に関する聴き取りの課題を毎週おこなう。 |
| 使用教材・参考文献 | 使用教材 | 教科書は特に指定しない。講義中に配布するプリント（ハンドアウト）を用いる。 |
| | 参考文献 | なし |
| 成績評価の基準と方法 | 基準 | 日・英語の微妙な音の違いを自分で音として出せることを合格とする。 |
| | 方法 | Class Participation 50%, Homework 25%, Final 25% |
| 備考 | 毎回の出席を心掛けてください。 | |

| 授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ） | | |
|-------------------------------------|-------------|-----|
| 教育課程の獲得目標 | レベルに応じた到達目標 | レベル |
| | | |
| | | |
| | | |

| | | |
|------------|--|---|
| 科目名 | 英語の文法 I | |
| 担当者 | 蒲地 賢一郎 / KAMACHI, Kenichiro | |
| 科目情報 | 人間文化<日本語日本文学> / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 2年次 | |
| | — | |
| 科目概要 | 授業内容 | 英語の 8 品詞、5 文型について学び、その機能、具体的な使い方を理解する。 |
| | 到達目標 | 8 品詞の具体例を列挙できること、そして、それらを使って、5 文型の中に相当する英文を要領よく作れるようになること。 |
| 授業計画 | (1) 文の構造 (2) 文の種類 (3) 動詞 (4) 時制 (5) 助動詞 (6) 動詞の態 (7) to-不定詞 (8) 原形不定詞 (9) 分詞 (10) 動名詞 (11) 関係代名詞 (12) 関係福詞 (13) 比較級 (14) 最上級 (15) 総まとめ | |
| 自学自習 | 事前学習 | ・「使用教材」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない単語は辞書等で事前に調べておくこと。 |
| | 事後学習 | 品詞、文型、句、節の使い分けについての確認を毎週行う。 |
| 使用教材・参考文献 | 使用教材 | 河上道生 監修, 丸井晃二郎 著 『ORBIT 総合英語』 山口書店 1996 年 ISBN4-8411-1387-8 |
| | 参考文献 | なし |
| 成績評価の基準と方法 | 基準 | 8 品詞、5 文型を具体的に使いこなせるものは合格とする。 |
| | 方法 | Class Participation 25%, Homework 25%, Final 50% |
| 備考 | 毎回の出席を心がけて下さい。 | |

| 授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ） | | |
|-------------------------------------|-------------|-----|
| 教育課程の獲得目標 | レベルに応じた到達目標 | レベル |
| | | |
| | | |
| | | |

| | | |
|------------|---|--|
| 科目名 | 英語の文法Ⅱ | |
| 担当者 | 蒲地 賢一郎 / KAMACHI, Kenichiro | |
| 科目情報 | 人間文化<日本語日本文学> / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 2年次 | |
| | — | |
| 科目概要 | 授業内容 | 英語の8品詞、5文型について学び、その機能、具体的な使い方を理解する。 |
| | 到達目標 | 8品詞の具体例を列挙できること、そして、それらを使って、5文型の中に相当する英文を要領よく作れるようになること。 |
| 授業計画 | (1) 不定詞 (2) 分詞 (3) 時制 (4) 進行形 (5) 完了形 (6) 態 (7) 仮定法 (8) 比較構文 (9) 否定 (10) 法助動詞 (11) 副詞 (12) 代名詞 (13) 関係詞 (14) 総まとめ (15) 総まとめ | |
| 自学自習 | 事前学習 | ・「使用教材」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない単語は辞書等で事前に調べておくこと。 |
| | 事後学習 | 品詞、文型、句、節の使い分けについての確認を毎週行う。 |
| 使用教材・参考文献 | 使用教材 | プリントを使用。 |
| | 参考文献 | なし |
| 成績評価の基準と方法 | 基準 | 8品詞、5文型を具体的に使いこなせるものは合格とする。 |
| | 方法 | Class Participation 25%, Homework 25%, Final 50% |
| 備考 | 毎回の出席を心がけて下さい。 | |

| 授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ） | | |
|-------------------------------------|-------------|-----|
| 教育課程の獲得目標 | レベルに応じた到達目標 | レベル |
| | | |
| | | |
| | | |

| | | |
|------------|--|--|
| 科目名 | 英語学概論 | |
| 担当者 | 蒲地 賢一郎 / KAMACHI, Kenichiro | |
| 科目情報 | 人間文化<日本語日本文学> / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 2年次 | |
| | — | |
| 科目概要 | 授業内容 | 言語学、そして英語学入門としての授業をおこなう。具体的に言語現象（語、語句、文）を観察、分析する。 |
| | 到達目標 | 英語学の中に存在する、各分野について学び、それらの区別ができるようになる。 |
| 授業計画 | (1) 統語論 1 (2) 統語論 2 (3) 統語論 3 (4) 形態論 1 (5) 形態論 2 (6) 形態論 3 (7) 音韻論 1 (8) 音韻論 2 (9) 音韻論 3 (10) 意味論 1 (11) 意味論 2 (12) 意味論 3 (13) 語用論 1 (14) 語用論 2 (15) 総まとめ | |
| 自学自習 | 事前学習 | ・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。 |
| | 事後学習 | 数種の言語データの分析を毎週課す。 |
| 使用教材・参考文献 | 使用教材 | 教科書は特に指定しない。講義中に配布するプリント（ハンドアウト）を用いる。 |
| | 参考文献 | An Introduction to Language. Victoria Fromkin and Robert Rodman. |
| 成績評価の基準と方法 | 基準 | 与えられた言語（の文）に対して、言語学的な観察、分析ができるようになったものは合格とする。 |
| | 方法 | Class Participation 50%, Final 50% |
| 備考 | 毎回の出席を心がけて下さい。 | |

| 授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ） | | |
|-------------------------------------|-------------|-----|
| 教育課程の獲得目標 | レベルに応じた到達目標 | レベル |
| | | |
| | | |
| | | |

| | | |
|------------|--|---|
| 科目名 | 英米文学概論 I | |
| 担当者 | 竹内 勝徳 / TAKEUCHI, Katsunori | |
| 科目情報 | 人間文化<日本語日本文学> / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 2年次 | |
| | — | |
| 科目概要 | 授業内容 | 19世紀前半のアメリカン・ルネッサンスを中心に、作家や文化的背景を紹介し、作品の抜粋をできる限り原文で読む。必要に応じて英検、TOEICの指導も行う。 |
| | 到達目標 | 19世紀のアメリカの資本主義の展開と大衆文化の広がり、それに対する作家たちの反応について学ぶと共に、小説作品や映画作品を鑑賞することで英語の読解力や聴取能力を向上させる。 |
| 授業計画 | (1) クール 1-1：アメリカ資本主義の起源と大衆文化—演劇とサーカス (2) クール 1-2：アメリカ資本主義の起源と大衆文化—ヒーローの登場 (3) クール 1-3：アメリカ資本主義の起源と大衆文化—『アラモ』を見る (4) クール 2-1：エドガー・アラン・ポーの小説と映画作品① (5) クール 2-2：エドガー・アラン・ポーの小説と映画作品② (6) クール 2-3：エドガー・アラン・ポーの小説と映画作品③—『アッシャー家の崩壊』を見る (7) クール 3-1：ナサニエル・ホーソンの文学① (8) クール 3-2：ナサニエル・ホーソンの文学② (9) クール 3-3：ナサニエル・ホーソンの文学③—『スカーレット・レター』を見る (10) クール 4-1：メルヴィルと『白鯨』① (11) クール 4-2：メルヴィルと『白鯨』② (12) クール 4-3：メルヴィルと『白鯨』③ (13) クール 4-4：メルヴィルと『白鯨』④—『白鯨』を見る (14) 質疑 (15) 総括 | |
| 自学自習 | 事前学習 | ・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。 |
| | 事後学習 | ・プリントの英文を読み返し、語句や表現を覚える。 |
| 使用教材・参考文献 | 使用教材 | プリント、ビデオ |
| | 参考文献 | プリント、ビデオ |
| 成績評価の基準と方法 | 基準 | 授業内容を理解し、作品中の英文を読み解けること。 |
| | 方法 | 筆記試験 80%、発言 20%。 |
| 備考 | | |

| 授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ） | | |
|-------------------------------------|-------------|-----|
| 教育課程の獲得目標 | レベルに応じた到達目標 | レベル |
| | | |
| | | |
| | | |

| | | |
|------------|---|--|
| 科目名 | 英米文学概論Ⅱ | |
| 担当者 | 竹内 勝徳 / TAKEUCHI, Katsunori | |
| 科目情報 | 人間文化<日本語日本文学> / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 2年次 | |
| | — | |
| 科目概要 | 授業内容 | ロスト・ジェネレーションのアメリカ文学作品と作家を概観すると共に、英語力を徹底強化する。必要に応じて英検、TOEIC の指導も行う。 |
| | 到達目標 | 20 世紀のアメリカの消費社会の展開と大衆文化の広がり、それに対する作家たちの反応について学ぶと共に、小説作品や映画作品を鑑賞することで英語の読解力や聴取能力を向上させる。 |
| 授業計画 | (1) クール 1-1: 世紀末から大戦期のアメリカ (2) クール 1-2: 戦後 (1920ー) のアメリカ社会 (3) クール 1-3: 『キングコング』を見る (4) クール 2-1: フィッツジェラルドの生い立ち (5) クール 2-2: 『グレート・ギャツビー』を見る (6) クール 2-3: 『グレート・ギャツビー』分析 (7) クール 3-1: アーネスト・ヘミングウェイの青少年時代 (8) クール 3-2: ヨーロッパでの生活と『武器よさらば』 (9) クール 3-3: スペイン内乱と『誰がために鐘は鳴る』 (10) クール 3-4: 『老人と海』を見る (11) クール 4-1: 1929 年の大恐慌とその後 (12) クール 4-2: スタインベックとカリフォルニア (13) クール 4-3: 『怒りの葡萄』を見る (14) 質疑 (15) 総括 | |
| 自学自習 | 事前学習 | ・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。 |
| | 事後学習 | ・プリントの英文を読み返し、語句や表現を覚える。 |
| 使用教材・参考文献 | 使用教材 | プリント、ビデオ |
| | 参考文献 | プリント、ビデオ |
| 成績評価の基準と方法 | 基準 | 授業内容を理解し、作品中の英文を読み解けること。 |
| | 方法 | 筆記試験 80%、発言 20%。 |
| 備考 | | |

| 授業マトリクス上の位置づけ (科目が設置された学科、コースでの位置づけ) | | |
|--------------------------------------|-------------|-----|
| 教育課程の獲得目標 | レベルに応じた到達目標 | レベル |
| | | |
| | | |
| | | |

| | | |
|------------|--|--------------------------------------|
| 科目名 | 日本史概説 | |
| 担当者 | 原口 泉 / HARAGUCHI, Izumi | |
| 科目情報 | 人間文化<日本語日本文学> / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 2年次 | |
| | — | |
| 科目概要 | 授業内容 | 古代から幕末・維新への日本史の流れを史料に基づきながらたどっていく。 |
| | 到達目標 | 自国の歴史について基本的な理解を得、国際社会の中で解説できるようになる。 |
| 授業計画 | (1) イントロ (2) 幕末にいたる江戸時代の史話 (3) // (4) // (5) // (6) 近代～ペリー来航から西南戦争まで (7) // (8) // (9) 日本資本主義の確立～五代友厚、松方正義を中心に～ (10) // (11) // (12) // (13) // (14) // (15) 総まとめ | |
| 自学自習 | 事前学習 | 配布プリントを前もって読んでおくこと。 |
| | 事後学習 | 配布プリントの精読。 |
| 使用教材・参考文献 | 使用教材 | プリントを配布する。 |
| | 参考文献 | 宮地正人編『日本史』世界各国史1 山川出版社 2008年 |
| 成績評価の基準と方法 | 基準 | 時代の流れ、大要が理解できているかを判断基準とする。 |
| | 方法 | レポート（80%）と受講態度（20%）で判断する。 |
| 備考 | 年表、歴史地図必携。社会人の聴講、歓迎。 | |

| 授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ） | | |
|-------------------------------------|-------------|-----|
| 教育課程の獲得目標 | レベルに応じた到達目標 | レベル |
| | | |
| | | |
| | | |

| | | |
|------------|--|--|
| 科目名 | 民俗学概説 | |
| 担当者 | 森田 清美 / MORITA, Kiyomi | |
| 科目情報 | 人間文化<日本語日本文学> / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 2年次 | |
| | 学芸員科目 / 選択 | |
| 科目概要 | 授業内容 | 人々の民俗伝承を比較して、それをダイナミックに分析することにより生活文化の変容を明らかにし、人々の生き方を問う。そのうえで、老人や幼児への虐待・老人への詐欺、隣人愛の喪失・パワーハラ・ブラック企業・医療・介護などの諸問題を解決していくことを目指す。 |
| | 到達目標 | 日本人の伝統文化・こころを理解する。そのことにより、現代社会の国内、国外の諸問題解決への対処・対応の仕方を知ることが出来る。そのうえで社会へ貢献する意欲と能力を身につける。 |
| 授業計画 | (1) 民俗学とは何か（現代社会における民俗学の視点と応用） (2) 環境民俗学（家と村・町における民俗学・境界の民俗学も含む） (3) 人びとの生業（農業・漁業・諸職、建築儀礼など。魅力ある農水産業とは何か、起業起業意欲への応援と促進） (4) 年中行事の意味（正月・盆・彼岸・講・入学式・学園祭など） (5) 誕生・成人式・結婚・厄年などの問題（人生儀礼Ⅰ） (6) 生と死の意味を医療民俗学などを通して考える。（人生儀礼Ⅱ） (7) 健康・病氣・医療を医療民俗学的に考える（病氣とは何か） (8) 修験道と呪術者から見る日本宗教（民間信仰・民俗宗教Ⅰ） (9) シャーマニズムと「隠れ念仏」（民俗宗教Ⅲ） (10) 民俗芸能の保存と魅力（太鼓踊などの伝統芸能と観光資源） (11) 今でも生きている昔話と伝説・ことわざ (12) 妖怪と幽霊の民俗学的魅力 (13) 過疎の民俗・都市の民俗（地方崩壊への対処） (14) 医療と介護の民俗（医療や介護を受ける側から） (15) 総まとめ（現代民俗学の行方と社会への貢献について） | |
| 自学自習 | 事前学習 | 毎回の授業を受けるにあたって、事前に予習しておくべき事項 ・「使用教材」・「参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味の分からない用語は、民俗学事典などで事前に調べておくこと。 |
| | 事後学習 | 授業後に課す課題の概要、および次回まで復習すべき事項 ・3回おきに、小レポートを課す。 ・授業の初めに、前回学んだことに対する質問を課す。 |
| 使用教材・参考文献 | 使用教材 | 授業ごとにプリント（小冊子）を次回の分まで配布する。 |
| | 参考文献 | ・福田アジオ・宮田登『日本民俗学概論』吉川弘文館 ・谷口貢・板橋春夫編『日本人の一生』八千代書房 ・西海賢二など編『日本の霊山読み解き事典』柏書房（南九州・沖縄は森田清美担当） |
| 成績評価の基準と方法 | 基準 | 総合的に、到達目標を踏まえて、民俗学の理解が深まり、民俗社会に貢献する心構えが出来た者を合格とする。 |
| | 方法 | 平常点（授業態度・出席 20点・レポート（20点）・期末試験（60点） |
| 備考 | 希望により民俗学巡検（民俗芸能・民俗行事見学・民俗調査調査）を実施。積極的に参加して欲しい（「まつり」を見に行こう）。 | |

| 授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ） | | |
|-------------------------------------|-------------|-----|
| 教育課程の獲得目標 | レベルに応じた到達目標 | レベル |
| | | |
| | | |
| | | |

| | | |
|------------|--|---|
| 科目名 | 地誌学 I | |
| 担当者 | 宗 建郎 / SOH, Tatsuroh | |
| 科目情報 | 人間文化<日本語日本文学> / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 2年次 | |
| | — | |
| 科目概要 | 授業内容 | 地域を総合的に捉える地誌学とはどのようなものかについて①基礎知識, ②地域調査の手法, ③具体的事例の三つのステップで解説します。 |
| | 到達目標 | 地誌学の基礎を理解し, 地域調査法の簡単な手法を利用することができるようになることを目標とします。 |
| 授業計画 | (1) イントロダクション (2) 地誌学の流れ (3) 地域あるいは風土 1 (4) 地域あるいは風土 2 (5) 地域調査法—統計 (6) 地域調査法—多変量解析 1 (7) 地域調査法—多変量解析 2 (8) 地域調査法—多変量解析 3 (9) 地域調査法—空中写真 (10) 地域調査法—主題図作成 1 (11) 地域調査法—主題図作成 2 (12) 地域調査法—主題図作成 3 (13) 地域を見る—日本と九州 (14) 地域を見る—鹿児島 (15) まとめ | |
| 自学自習 | 事前学習 | ・参考文献を事前に読んでおくこと。 ・意味のわからない用語については事前に調べておくこと。 |
| | 事後学習 | ・授業中に興味を持った内容について自ら調べてみること。 |
| 使用教材・参考文献 | 使用教材 | 教科書は特に使用しない。必要に応じて資料を配付します。 |
| | 参考文献 | 中村和郎・岩田修二編『地誌学を考える』古今書院, 1986年。 |
| 成績評価の基準と方法 | 基準 | 地誌学の用語と考え方について説明できることと地域調査法の利用法を理解していることを基準とします。 |
| | 方法 | 試験 50%, 授業内課題 30%, 受講態度 20%で評価します。 |
| 備考 | 授業内で簡単な作業を行います。詳細は必要に応じて指示します。授業の進展状況に応じて内容を修正しながら進めることがあります。 | |

| 授業マトリクス上の位置づけ (科目が設置された学科、コースでの位置づけ) | | |
|--------------------------------------|-------------|-----|
| 教育課程の獲得目標 | レベルに応じた到達目標 | レベル |
| | | |
| | | |
| | | |

| | | |
|------------|--|--|
| 科目名 | 地誌学Ⅱ | |
| 担当者 | 宗 建郎 / SOH, Tatsuroh | |
| 科目情報 | 人間文化<日本語日本文学> / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 2年次 | |
| | — | |
| 科目概要 | 授業内容 | 地域を総合的にとらえる視点について、①文献の活用、②地図の活用という観点から具体的な事例をふまえてお話しします。 |
| | 到達目標 | 地域について、文献や地図を活用して調査をする基礎的な方法を身につける。 |
| 授業計画 | (1) イントロダクション (2) 文献に見る地域の姿 1 (3) 文献に見る地域の姿 2 (4) 文献に見る地域の姿 3 (5) 統計に見る地域の姿 (6) GIS とは (7) 統計による主題図の作成 1 (8) 統計による主題図の作成 2 (9) 統計による主題図の作成 3 (10) 地図に見る地域の姿 (11) 地図をつくる 1 (12) 地図をつくる 2 (13) 地図をつくる 3 (14) 地図・図表を用いたプレゼンテーション (15) まとめ | |
| 自学自習 | 事前学習 | ・参考文献を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。 |
| | 事後学習 | 地域調査の手法について復習しておくこと。 |
| 使用教材・参考文献 | 使用教材 | 教科書は特に指定しない。必要に応じてプリントを配布します。 |
| | 参考文献 | 今村洋大編著『Quantum GIS 入門』古今書院, 2013. |
| 成績評価の基準と方法 | 基準 | 文献、地図を用いた地域調査法が身に付いている事を基準とします。 |
| | 方法 | 試験 50%, 授業内課題 30%, 受講態度 20%で評価します。 |
| 備考 | 授業の中で実際に作業を行います。 | |

| 授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ） | | |
|-------------------------------------|-------------|-----|
| 教育課程の獲得目標 | レベルに応じた到達目標 | レベル |
| | | |
| | | |
| | | |

| | | |
|------------|---|---|
| 科目名 | スピーキング・スキルズⅠ | |
| 担当者 | マーカス・シオボールド / Marcus Theobald | |
| 科目情報 | 人間文化<英語英米文化> / 必修 / 前期 / 演習 / 2単位 / 1年次 | |
| | — | |
| 科目概要 | 授業内容 | Reading English manga, group work, discussion, developing strategies of communication. 英語の漫画を読み、グループで話し合い、会話の方法を学ぶ。 |
| | 到達目標 | Help students improve their speaking skills and gain confidence in a relaxed atmosphere. Help students maintain a conversation, give opinions and descriptions. リラックスし環境の中で会話の能力を高めて自信を持てるようにする。学生が継続して意見を持ちその説明をできるようにする。 |
| 授業計画 | (1) Phonetics and phonemics. (2) Intonation. (3) Skit read through and performance. (4) Skit read through and performance. (5) New words and old words. (6) Eiken STEP test presentations. (7) Desert island group work (8) Tourist holiday planning (9) Restaurant scenario (10) Exchange verbal diaries (11) English songs (12) Interview twelve people (13) Battleships (14) Transcripts (15) Transcript performance | |
| 自学自習 | 事前学習 | ・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。 |
| | 事後学習 | 授業の内容を復習しておくこと。 |
| 使用教材・参考文献 | 使用教材 | 担当者作成資料 |
| | 参考文献 | Chatterbox - Widdows - Nan'un-do ほか |
| 成績評価の基準と方法 | 基準 | 授業時の活動への参加と、課題に合格することを単位取得の条件とする。 |
| | 方法 | 授業中の発表、コントリビューション 50% 面接試験 50% |
| 備考 | | |

| 授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ） | | |
|-------------------------------------|-------------|-----|
| 教育課程の獲得目標 | レベルに応じた到達目標 | レベル |
| | | |
| | | |
| | | |

| | | |
|------------|---|--|
| 科目名 | スピーキング・スキルズⅡ | |
| 担当者 | マーカス・シオボールド / Marcus Theobald | |
| 科目情報 | 人間文化<英語英米文化> / 必修 / 後期 / 演習 / 2単位 / 1年次 | |
| | — | |
| 科目概要 | 授業内容 | Reading English manga, group work, interactive speaking games, songs and video. 英語の漫画を読み、グループで話し合い、会話の方法を学ぶ、ビデオ、曲。 |
| | 到達目標 | Help students improve their speaking skills and gain confidence in a relaxed atmosphere. Help students maintain a conversation and give opinions and descriptions. リラックスし環境の中で会話の能力を高めて自信を持てるようにする。学生が継続して意見を持ちその説明をできるようにする。 |
| 授業計画 | (1) Chants. Singing and reading songs (2) Short speech preparations (3) Emotions quiz (4) Dream school timetable (5) Present timetable (6) Short speech presentations (7) Teach the world (8) Word associations (9) Air traffic controller (10) Tongue twisters and Dr Seuss (11) High street (12) Exchange new year stories (13) Restaurant scenario (14) Transcript practice (15) Transcript performances | |
| 自学自習 | 事前学習 | ・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。 |
| | 事後学習 | 授業の内容を復習しておくこと。 |
| 使用教材・参考文献 | 使用教材 | 担当者作成資料 |
| | 参考文献 | Topic talk, Issues - McLean - EFL Press ほか |
| 成績評価の基準と方法 | 基準 | 授業時の活動への参加と、課題に合格することを単位取得の条件とする。 |
| | 方法 | 授業中の発表、コントリビューション 50% 面接試験 50% |
| 備考 | | |

| 授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ） | | |
|-------------------------------------|-------------|-----|
| 教育課程の獲得目標 | レベルに応じた到達目標 | レベル |
| | | |
| | | |
| | | |

| | | |
|------------|--|--|
| 科目名 | リスニング・スキルズ I | |
| 担当者 | スコット・バーンズ / Scott Burns | |
| 科目情報 | 人間文化<英語英米文化> / 必修 / 前期 / 演習 / 2単位 / 1年次 | |
| | - | |
| 科目概要 | 授業内容 | 海外のテレビ番組やテーマ別に作成されたテキストの中から会話を聴き取る演習を行う |
| | 到達目標 | 海外の様々なテレビ番組中の会話の内容を理解できるように、リスニング力を高めることを目標とする |
| 授業計画 | (1) 自己紹介 (学生、講師) (2) 学生投票第1位の課の演習 “Ugly Betty” Episode 1 (3) 学生投票第2位の課の演習 “Ugly Betty” Episode 2 (4) 学生投票第3位の課の演習 “Ugly Betty” Episode 3 小テスト (5) 学生投票第4位の課の演習 “Ugly Betty” Episode 4 (6) 学生投票第5位の課の演習 “Ugly Betty” Episode 5 (7) 学生投票第6位の課の演習 “Ugly Betty” Episode 6 小テスト (8) 学生投票第7位の課の演習 “Ugly Betty” Episode 7 (9) 学生投票第8位の課の演習 “Ugly Betty” Episode 8 (10) 学生投票第9位の課の演習 “Ugly Betty” Episode 9 小テスト (11) 学生投票第10位の課の演習 “Ugly Betty” Episode 10 (12) 復習1 (13) 復習2 (14) 復習3 (15) 総まとめ | |
| 自学自習 | 事前学習 | ・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。 |
| | 事後学習 | ・課題をこなす ・TV、CD等、何でもいいので英語を聴くこと。 |
| 使用教材・参考文献 | 使用教材 | Tactics for Listening |
| | 参考文献 | なし |
| 成績評価の基準と方法 | 基準 | 出席率、授業への取り組み、試験 |
| | 方法 | なし |
| 備考 | テキストで履修する課は、学生の投票によって決められる。ミニ劇を行う予定ですので、一緒に英語を楽しみましょう。 | |

| 授業マトリクス上の位置づけ (科目が設置された学科、コースでの位置づけ) | | |
|--------------------------------------|-------------|-----|
| 教育課程の獲得目標 | レベルに応じた到達目標 | レベル |
| | | |
| | | |
| | | |

| | | |
|------------|---|--|
| 科目名 | リスニング・スキルズⅡ | |
| 担当者 | スコット・バーンズ / Scott Burns | |
| 科目情報 | 人間文化<英語英米文化> / 必修 / 後期 / 演習 / 2単位 / 1年次 | |
| | — | |
| 科目概要 | 授業内容 | 海外の映画やテーマ別に作成されたテキストの中から会話を聴き取る演習を行う |
| | 到達目標 | 海外の様々な映画の会話の内容を理解できるようにリスニング力を高めることを目標とする |
| 授業計画 | (1) 自己紹介 (学生、講師) (2) 学生投票第1位の課の演習 “Ugly Betty” Episode 11 (3) 学生投票第2位の課の演習 “Ugly Betty” Episode 12 (4) 学生投票第3位の課の演習 “小テスト” (5) 学生投票第4位の課の演習 “Ugly Betty” Episode 13 (6) 学生投票第5位の課の演習 “Ugly Betty” Episode 14 (7) 学生投票第6位の課の演習 “Ugly Betty” Episode 15 小テスト (8) 学生投票第7位の課の演習 “Ugly Betty” Episode 16 (9) 学生投票第8位の課の演習 “Ugly Betty” Episode 17 (10) 学生投票第9位の課の演習 “Ugly Betty” Episode 18 小テスト (11) 学生投票第10位の課の演習 “Ugly Betty” Episode 19 (12) 復習1 (13) 復習2 (14) 復習3 (15) 総まとめ | |
| 自学自習 | 事前学習 | ・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。 |
| | 事後学習 | ・課題をこなす ・TV、CD等、何でもいいので英語を聴くこと。 |
| 使用教材・参考文献 | 使用教材 | Impact Listening |
| | 参考文献 | なし |
| 成績評価の基準と方法 | 基準 | 出席率、授業への取り組み、試験 |
| | 方法 | なし |
| 備考 | テキストで履修する課は、学生の投票によって決められる | |

| 授業マトリクス上の位置づけ (科目が設置された学科、コースでの位置づけ) | | |
|--------------------------------------|-------------|-----|
| 教育課程の獲得目標 | レベルに応じた到達目標 | レベル |
| | | |
| | | |
| | | |

| | | |
|------------|---|---|
| 科目名 | リーディング・スキルズⅠ | |
| 担当者 | マーカス・シオボールド / Marcus Theobald | |
| 科目情報 | 人間文化<英語英米文化> / 選択 / 前期 / 演習 / 2単位 / 2年次 | |
| | — | |
| 科目概要 | 授業内容 | Reading selected books and texts. 配布する本および配布資料を読む。 |
| | 到達目標 | Improve the way students read and understand texts. Raise their confidence and ability when interacting with the English written word. テキストを読み理解する能力を高める。英文による情報に対する自信と能力を高めることを目標とする。 |
| 授業計画 | (1) Reading test and evaluation (2) Choosing book 1 and private reading (3) Reading comprehension (4) Group reading one book (5) Vocabulary building (6) Improve reading speed activity (7) Book report. Choose book 2 (8) Quizlet and reading passages (9) Quizlet and reading passages (10) Quizlet and reading passages (11) Quizlet and reading passages (12) Simple English Wikipedia (13) Word association (14) Book report preparation (15) 総まとめ | |
| 自学自習 | 事前学習 | ・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。 |
| | 事後学習 | 授業の内容を復習しておくこと。毎週選んだ本を読んでおくこと。 |
| 使用教材・参考文献 | 使用教材 | 担当者作成資料 |
| | 参考文献 | Reading Pass 1 - Bennett - Nan'un-do ほか |
| 成績評価の基準と方法 | 基準 | 授業時の活動への参加と、課題に合格することを単位取得の条件とする。 |
| | 方法 | 授業中の発表、コントリビューション 50% 試験 レポート 50% |
| 備考 | | |

| 授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ） | | |
|-------------------------------------|-------------|-----|
| 教育課程の獲得目標 | レベルに応じた到達目標 | レベル |
| | | |
| | | |
| | | |

| | | |
|------------|--|--|
| 科目名 | リーディング・スキルズⅡ | |
| 担当者 | マーカス・シオボールド / Marcus Theobald | |
| 科目情報 | 人間文化<英語英米文化> / 選択 / 後期 / 演習 / 2単位 / 2年次 | |
| | — | |
| 科目概要 | 授業内容 | Reading selected books and texts. 配布する本および配布資料を読む。 |
| | 到達目標 | Improve the way students read and understand texts. To raise their confidence and ability when interacting with the English written word. テキストを読み理解する能力を高める。英文による情報に対する自信と能力を高めることを目標とする。 |
| 授業計画 | (1) Reading test and evaluation (2) Choose book 1 and private reading (3) Halloween (4) Class read a set text (5) Class read a set text (6) Vocabulary test (7) Basic English 850 (8) Combining words (9) Reading comprehension (10) Gap-fill sentences (11) Book reports I, II (12) Reading comprehension (13) Book report III (14) Book report IV (15) Reading comprehension | |
| 自学自習 | 事前学習 | ・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。 |
| | 事後学習 | 授業の内容を復習しておくこと。毎週選んだ本を読んでおくこと。 |
| 使用教材・参考文献 | 使用教材 | 担当者作成資料 |
| | 参考文献 | Reading Advantage 1 - Malarcher - Thomson ほか |
| 成績評価の基準と方法 | 基準 | 授業時の活動への参加と、課題に合格することを単位取得の条件とする。 |
| | 方法 | 授業中の発表、コントリビューション 50% 試験 レポート 50% |
| 備考 | | |

| 授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ） | | |
|-------------------------------------|-------------|-----|
| 教育課程の獲得目標 | レベルに応じた到達目標 | レベル |
| | | |
| | | |
| | | |

| | | |
|------------|---|--|
| 科目名 | ライティング・スキルズⅠ | |
| 担当者 | マーカス・シオボールド / Marcus Theobald | |
| 科目情報 | 人間文化<英語英米文化> / 必修 / 前期 / 演習 / 2単位 / 2年次 | |
| | - | |
| 科目概要 | 授業内容 | Writing practice. 英文を書く練習をする。 |
| | 到達目標 | To improve students ability to communicate through writing whilst developing a personal writing style. 各自が自身の文章能力を高めることによって、コミュニケーション能力おも高めることを目的とする。 |
| 授業計画 | (1) Hiragana Times translation (2) Diary composing (3) Time, person, verb, place (4) Ink blot composition (5) Spidergram (6) Dialogue writing (7) Pair work research (8) About / during / while (9) Scaffold writing (10) Replacing words (11) Writing animation text (12) Writing animation text (13) Scaffold writing (14) The key story (15) Test practice | |
| 自学自習 | 事前学習 | ・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。 |
| | 事後学習 | 授業の内容を復習しておくこと。毎週日記を書いておくこと。 |
| 使用教材・参考文献 | 使用教材 | 担当者作成資料 |
| | 参考文献 | Composition Practice - Blanton - Thomson ほか |
| 成績評価の基準と方法 | 基準 | 授業時の活動への参加と、課題に合格することを単位取得の条件とする。 |
| | 方法 | 授業中の発表、コントリビューション 50% 試験 日記 50% |
| 備考 | | |

| 授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ） | | |
|-------------------------------------|-------------|-----|
| 教育課程の獲得目標 | レベルに応じた到達目標 | レベル |
| | | |
| | | |
| | | |

| | | |
|------------|--|---|
| 科目名 | ライティング・スキルズⅡ | |
| 担当者 | マーカス・シオボールド / Marcus Theobald | |
| 科目情報 | 人間文化<英語英米文化> / 必修 / 後期 / 演習 / 2単位 / 2年次 | |
| | - | |
| 科目概要 | 授業内容 | Writing practice. 英文を書く練習をする。 |
| | 到達目標 | To improve students ability to communicate through writing whilst developing a personal writing voice and style. 各自が自身の文章能力を高めることによって、コミュニケーション能力も高めることを目的とする。 |
| 授業計画 | (1) The key story (2) Haiku (3) Group story writing (4) Group story writing (5) Common expressions (6) 100 word research (7) Writing test (8) Word association (9) Scaffold writing (10) Manga writing (11) Picture stories (12) Gap-fill texts (13) Internet graded writing exercises (14) Internet graded writing exercises (15) Test practice | |
| 自学自習 | 事前学習 | ・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。 |
| | 事後学習 | 授業の内容を復習しておくこと。毎週日記を読んでおくこと。 |
| 使用教材・参考文献 | 使用教材 | 担当者作成資料 |
| | 参考文献 | Within your reach - Cliffe - Nan'un-do ほか |
| 成績評価の基準と方法 | 基準 | 授業時の活動への参加と、課題に合格することを単位取得の条件とする。 |
| | 方法 | 授業中の発表、コントリビューション 50% 試験 日記 50% |
| 備考 | | |

| 授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ） | | |
|-------------------------------------|-------------|-----|
| 教育課程の獲得目標 | レベルに応じた到達目標 | レベル |
| | | |
| | | |
| | | |

| | | |
|------------|---|---|
| 科目名 | カレント・イングリッシュ | |
| 担当者 | 酒瀬川 純行 / SAKASEGAWA, Sumiyuki | |
| 科目情報 | 人間文化<英語英米文化> / 選択 / 前期 / 演習 / 2単位 / 2年次 | |
| | — | |
| 科目概要 | 授業内容 | 毎時間国内外の情勢について質疑応答した後、1)BBC ニュースを聴き、空所補充後スクリプトを提出、2)時事英語関連語彙・文例を研究、3)英字新聞記事を読み、語彙構造を理解した上でサマリーを作成提出する。 |
| | 到達目標 | 国内外の時事問題に関する BBC 放送、新聞英語の語彙、構造に親しみ、時事問題等について英語で理解、表現できるようになる。 |
| 授業計画 | (1) What's going on in Japan and the world? BBC News & The Guardian Weekly (2) What's going on in Japan and the world? BBC News & The Guardian Weekly (3) What's going on in Japan and the world? BBC News & The Guardian Weekly (4) What's going on in Japan and the world? BBC News & The Guardian Weekly (5) What's going on in Japan and the world? BBC News & The Guardian Weekly (6) What's going on in Japan and the world? BBC News & The Guardian Weekly (7) What's going on in Japan and the world? BBC News & The Guardian Weekly (8) What's going on in Japan and the world? BBC News & The Guardian Weekly (9) What's going on in Japan and the world? BBC News & The Guardian Weekly (10) What's going on in Japan and the world? BBC News & The Guardian Weekly (11) What's going on in Japan and the world? (12) What's going on in Japan and the world? BBC News & The Guardian Weekly (13) What's going on in Japan and the world? BBC News & The Guardian Weekly (14) What's going on in Japan and the world? BBC News & The Guardian Weekly (15) 総まとめ | |
| 自学自習 | 事前学習 | ・発表するニュース記事を準備する。課題記事の英文サマリーを作成する。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。 |
| | 事後学習 | 授業で習った単語、表現を整理する。 |
| 使用教材・参考文献 | 使用教材 | プリント、BBC News、 The Guardian Weekly |
| | 参考文献 | S. Sakasegawa: A Companion to Practical English. 青山社 2000年 |
| 成績評価の基準と方法 | 基準 | BBC News 及び英字新聞記事が凡そ理解できるようになったものは合格とします。 |
| | 方法 | 毎時間毎のコンツリビューション、課題提出 50%、終了試験 50% |
| 備考 | | |

| 授業マトリクス上の位置づけ (科目が設置された学科、コースでの位置づけ) | | |
|--------------------------------------|-------------|-----|
| 教育課程の獲得目標 | レベルに応じた到達目標 | レベル |
| | | |
| | | |
| | | |

| | | |
|------------|--|--|
| 科目名 | オーラル・インタプリテーション | |
| 担当者 | 酒瀬川 純行 / SAKASEGAWA, Sumiyuki | |
| 科目情報 | 人間文化<英語英米文化> / 選択 / 後期 / 演習 / 2単位 / 3年次 | |
| | ディベートスキルズと隔年で開講 | |
| 科目概要 | 授業内容 | 通訳の形態、心得、テクニックを理解し、鹿児島の名所旧跡、文化、特産物等を英語でどう表現するか研究し、併せてスピーチ・会議英語等の基本を習得する。毎時間逐次通訳の練習を行う。 |
| | 到達目標 | 簡潔な表現、用語等を駆使し具体的状況（地元の歴史、観光案内、会議、講演等）に応じて基礎レベルの逐次通訳ができるようになる。 |
| 授業計画 | (1) What is oral interpretation? (2) Useful expressions and techniques. (3) Introduction of Kagoshima (4) Sakurajima and Ibusuki (5) Kirishima and Kirishima Shrine (6) Chiran (Samurai estates) and Kwanabe (Buddhist altars) (7) Yakushima and Ohshima Pongee Fabric (8) Ohara Festival and Hannyabushi (9) History of Kagoshima (10) History of Kagoshima (11) Special products of Kagoshima (12) Special products of Kagoshima (13) Speech and Conference English (14) Speech and Conference English (15) 総まとめ | |
| 自学自習 | 事前学習 | ・使用教材（配布プリント）・参考文献を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。 |
| | 事後学習 | 学んだ英文を復唱し、覚えること。 |
| 使用教材・参考文献 | 使用教材 | 教科書は特に指定しない。講義中に配布するプリント（ハンドアウト）を用いる。 |
| | 参考文献 | S. Sakasegawa: A Companion to Practical English. 青山社 2000年 |
| 成績評価の基準と方法 | 基準 | 鹿児島の名所旧跡、文化、特産物等を簡単な英語で表現できるようになったものは合格とします。 |
| | 方法 | 毎時間毎のプレゼンテーション 50%、終了試験 50% |
| 備考 | | |

| 授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ） | | |
|-------------------------------------|-------------|-----|
| 教育課程の獲得目標 | レベルに応じた到達目標 | レベル |
| | | |
| | | |
| | | |

| | | |
|------------|--|---|
| 科目名 | 英語の音声 | |
| 担当者 | 蒲地 賢一郎 / KAMACHI, Kenichiro | |
| 科目情報 | 人間文化<英語英米文化> / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 2年次 | |
| | — | |
| 科目概要 | 授業内容 | 日本人が発する英語の音を、ネイティブ・スピーカーの音に近づける練習をします。同時に、そのリスニングの練習をします。 |
| | 到達目標 | 英語の母音、子音を日本語の母音、子音と比較しながら相違点を認識し、自分で発音ができるようになる。 |
| 授業計画 | (1) 子音の発音 1 (2) 子音の発音 2 (3) 子音の発音 3 (4) 子音の発音 4 (5) 子音の発音 5 (6) 母音の発音 1 (7) 母音の発音 2 (8) 母音の発音 3 (9) 母音の発音 4 (10) 母音の発音 5 (11) 映像で音を確認 1 (12) 映像で音を確認 2 (13) 映像で音を確認 3 (14) 映像で音を確認 4 (15) 総まとめ | |
| 自学自習 | 事前学習 | ・「使用教材」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと |
| | 事後学習 | 英語音に関する聴き取りの課題を毎週おこなう。 |
| 使用教材・参考文献 | 使用教材 | 教科書は特に指定しない。講義中に配布するプリント（ハンドアウト）を用いる。 |
| | 参考文献 | なし |
| 成績評価の基準と方法 | 基準 | 日・英語の微妙な音の違いを自分で音として出せることを合格とする。 |
| | 方法 | Class Participation 50%, Homework 25%, Final 25% |
| 備考 | 毎回の出席を心掛けてください。 | |

| 授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ） | | |
|-------------------------------------|-------------|-----|
| 教育課程の獲得目標 | レベルに応じた到達目標 | レベル |
| | | |
| | | |
| | | |

| | | |
|------------|---|--|
| 科目名 | 英語の文法 I | |
| 担当者 | 蒲地 賢一郎 / KAMACHI, Kenichiro | |
| 科目情報 | 人間文化<英語英米文化> / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 2年次 | |
| | — | |
| 科目概要 | 授業内容 | 英語の8品詞、5文型について学び、その機能、具体的な使い方を理解する。 |
| | 到達目標 | 8品詞の具体例を列挙できること、そして、それらを使って、5文型の中に相当する英文を要領よく作れるようになること。 |
| 授業計画 | (1) 文の構造と要素 (2) 文の種類 (3) 動詞 (4) 時制 (5) 助動詞 (6) 動詞の態 (7) to-不定詞 (8) 原形不定詞 (9) 分詞 (10) 動名詞 (11) 関係代名詞 (12) 関係福詞 (13) 比較級 (14) 最上級 (15) 総まとめ | |
| 自学自習 | 事前学習 | ・「使用教材」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない単語は辞書等で事前に調べておくこと。 |
| | 事後学習 | 品詞、文型、句、節の使い分けについての確認を毎週行う。 |
| 使用教材・参考文献 | 使用教材 | 河上道生 監修, 丸井晃二郎 著 『ORBIT 総合英語』 山口書店 1996年 ISBN4-8411-1387-8 |
| | 参考文献 | なし |
| 成績評価の基準と方法 | 基準 | 8品詞、5文型を具体的に使いこなせるものは合格とする。 |
| | 方法 | Class Participation 25%, Homework 25%, Final 50% |
| 備考 | 毎回の出席を心がけて下さい。 | |

| 授業マトリクス上の位置づけ (科目が設置された学科、コースでの位置づけ) | | |
|--------------------------------------|-------------|-----|
| 教育課程の獲得目標 | レベルに応じた到達目標 | レベル |
| | | |
| | | |
| | | |

| | | |
|------------|---|---|
| 科目名 | 英語の文法Ⅱ | |
| 担当者 | 蒲地 賢一郎 / KAMACHI, Kenichiro | |
| 科目情報 | 人間文化＜英語英米文化＞ / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 2年次 | |
| | — | |
| 科目概要 | 授業内容 | 英語の8品詞、5文型について学び、その機能、具体的な使い方を理解する。 |
| | 到達目標 | 8品詞の具体例を列挙できること、そして、それらを使って、5文型の中に相当する英文を要領よく作れるようになること |
| 授業計画 | (1) 不定詞 (2) 分詞 (3) 時制 (4) 進行形 (5) 完了形 (6) 態 (7) 仮定法 (8) 比較構造 (9) 否定 (10) 法助動詞 (11) 副詞 (12) 代名詞 (13) 関係詞 (14) 総まとめ (15) 総まとめ | |
| 自学自習 | 事前学習 | ・「使用教材」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない単語は辞書等で事前に調べておくこと。 |
| | 事後学習 | 品詞、文型、句、節の使い分けについての確認を毎週行う。 |
| 使用教材・参考文献 | 使用教材 | プリントを使用 |
| | 参考文献 | なし |
| 成績評価の基準と方法 | 基準 | 8品詞、5文型を具体的に使いこなせるものは合格とする。 |
| | 方法 | Class Participation 25%, Homework 25%, Final 50% |
| 備考 | 毎回の出席を心がけて下さい。 | |

| 授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ） | | |
|-------------------------------------|-------------|-----|
| 教育課程の獲得目標 | レベルに応じた到達目標 | レベル |
| | | |
| | | |
| | | |

| | | |
|------------|--|--|
| 科目名 | 英語学概論 | |
| 担当者 | 蒲地 賢一郎 / KAMACHI, Kenichiro | |
| 科目情報 | 人間文化<英語英米文化> / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 2年次 | |
| | — | |
| 科目概要 | 授業内容 | 言語学、そして英語学入門としての授業をおこなう。具体的に言語現象（語、語句、文）を観察、分析する。 |
| | 到達目標 | 英語学の中に存在する、各分野について学び、それらの区別ができるようになる。 |
| 授業計画 | (1) 統語論 1 (2) 統語論 2 (3) 統語論 3 (4) 形態論 1 (5) 形態論 2 (6) 形態論 3 (7) 音韻論 1 (8) 音韻論 2 (9) 音韻論 3 (10) 意味論 1 (11) 意味論 2 (12) 意味論 3 (13) 語用論 1 (14) 語用論 2 (15) 総まとめ | |
| 自学自習 | 事前学習 | ・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。 |
| | 事後学習 | 数種の言語データの分析を毎週課す。 |
| 使用教材・参考文献 | 使用教材 | 教科書は特に指定しない。講義中に配布するプリント（ハンドアウト）を用いる。 |
| | 参考文献 | An Introduction to Language. Victoria Fromkin and Robert Rodman. |
| 成績評価の基準と方法 | 基準 | 与えられた言語（の文）に対して、言語学的な観察、分析ができるようになったものは合格とする。 |
| | 方法 | Class Participation 50%, Final 50% |
| 備考 | 毎回の出席を心がけて下さい。 | |

| 授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ） | | |
|-------------------------------------|-------------|-----|
| 教育課程の獲得目標 | レベルに応じた到達目標 | レベル |
| | | |
| | | |
| | | |

| | | |
|------------|--|--|
| 科目名 | 英語学演習 | |
| 担当者 | 蒲地 賢一郎 / KAMACHI, Kenichiro | |
| 科目情報 | 人間文化<英語英米文化> / 選択 / 後期 / 演習 / 2単位 / 2年次 | |
| | — | |
| 科目概要 | 授業内容 | 言語学、そして英語学入門としての授業をおこなう。具体的に言語学に関する文献を読んでいく。 |
| | 到達目標 | 英語学の中に存在する、各分野について学び、それらの区別ができるようになる。 |
| 授業計画 | (1) 自然言語とは 1 (2) 自然言語とは 2 (3) 自然言語とは 3 (4) 自然言語とは 4 (5) 言語直観 1 (6) 言語直観 2 (7) 言語直観 3 (8) 言語直観 4 (9) 文文法 1 (10) 文文法 2 (11) 文文法 3 (12) 文文法 4 (13) 個別言語 1 (14) 個別言語 2 (15) 総まとめ | |
| 自学自習 | 事前学習 | ・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。 |
| | 事後学習 | 数種の言語データの分析を毎週課す。 |
| 使用教材・参考文献 | 使用教材 | 教科書は特に指定しない。講義中に配布するプリント（ハンドアウト）を用いる。 |
| | 参考文献 | なし |
| 成績評価の基準と方法 | 基準 | 与えられた言語（の文）に対して、言語学的な観察、分析ができるようになったものは合格とする。 |
| | 方法 | Class Participation 50%, Final 50% |
| 備考 | 毎週の出席を心掛けてください。 | |

| 授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ） | | |
|-------------------------------------|-------------|-----|
| 教育課程の獲得目標 | レベルに応じた到達目標 | レベル |
| | | |
| | | |
| | | |

| | | |
|------------|---|--|
| 科目名 | 児童英語 | |
| 担当者 | マーカス・シオボールド / Marcus Theobald | |
| 科目情報 | 人間文化<英語英米文化> / 選択 / 後期 / 演習 / 2単位 / 3年次 | |
| | - | |
| 科目概要 | 授業内容 | Gain experience creating and practicing games and activities to enable learning through play. クラスでゲームを考え、そのゲームを実行し、そのゲームを通じて学ぶ。 |
| | 到達目標 | Provide children with the tools to make words themselves through spelling, reading, writing and speaking. 子供たちが、読み書きを自発的にする能力を提供できるようになることを目的とする。 |
| 授業計画 | (1) Compare children's textbooks (2) Using props (3) Music in the classroom (4) Compare children's textbooks (5) Using video (6) Using the internet (7) Five minute presentations (8) Teach a short class in a local nursery (9) Using games (10) More songs and props (11) Reading picture books (12) Making picture books (13) Preparing a ten minute class (14) Practice ten minute class (15) Teach ten minute class in a local nursery | |
| 自学自習 | 事前学習 | ・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。 |
| | 事後学習 | 授業の内容を復習しておくこと。 |
| 使用教材・参考文献 | 使用教材 | 担当者作成資料 |
| | 参考文献 | Up and Away - Crowther - Oxford University Press ほか |
| 成績評価の基準と方法 | 基準 | 授業時の活動への参加と、課題に合格することを単位取得の条件とする。 |
| | 方法 | 授業中の発表、コントリビューション 50% 試験 project 50% |
| 備考 | | |

| 授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ） | | |
|-------------------------------------|-------------|-----|
| 教育課程の獲得目標 | レベルに応じた到達目標 | レベル |
| | | |
| | | |
| | | |

| | | |
|------------|--|---|
| 科目名 | 英米文学概論 I | |
| 担当者 | 竹内 勝徳 / TAKEUCHI, Katsunori | |
| 科目情報 | 人間文化<英語英米文化> / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 2年次 | |
| | — | |
| 科目概要 | 授業内容 | 19世紀前半のアメリカン・ルネッサンスを中心に、作家や文化的背景を紹介し、作品の抜粋をできる限り原文で読む。必要に応じて英検、TOEICの指導も行う。 |
| | 到達目標 | 19世紀のアメリカの資本主義の展開と大衆文化の広がり、それに対する作家たちの反応について学ぶと共に、小説作品や映画作品を鑑賞することで英語の読解力や聴取能力を向上させる。 |
| 授業計画 | (1) クール 1-1：アメリカ資本主義の起源と大衆文化—演劇とサーカス (2) クール 1-2：アメリカ資本主義の起源と大衆文化—ヒーローの登場 (3) クール 1-3：アメリカ資本主義の起源と大衆文化—『アラモ』を見る (4) クール 2-1：エドガー・アラン・ポーの小説と映画作品① (5) クール 2-2：エドガー・アラン・ポーの小説と映画作品② (6) クール 2-3：エドガー・アラン・ポーの小説と映画作品③—『アッシャー家の崩壊』を見る (7) クール 3-1：ナサニエル・ホーソンの文学① (8) クール 3-2：ナサニエル・ホーソンの文学② (9) クール 3-3：ナサニエル・ホーソンの文学③—『スカーレット・レター』を見る (10) クール 4-1：メルヴィルと『白鯨』① (11) クール 4-2：メルヴィルと『白鯨』② (12) クール 4-3：メルヴィルと『白鯨』③ (13) クール 4-4：メルヴィルと『白鯨』④—『白鯨』を見る (14) 質疑 (15) 総括 | |
| 自学自習 | 事前学習 | ・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。 |
| | 事後学習 | ・プリントの英文を読み返し、語句や表現を覚える。 |
| 使用教材・参考文献 | 使用教材 | プリント、ビデオ |
| | 参考文献 | プリント、ビデオ |
| 成績評価の基準と方法 | 基準 | 授業内容を理解し、作品中の英文を読み解けること。 |
| | 方法 | 筆記試験 80%、発言 20%。 |
| 備考 | | |

| 授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ） | | |
|-------------------------------------|-------------|-----|
| 教育課程の獲得目標 | レベルに応じた到達目標 | レベル |
| | | |
| | | |
| | | |

| | | |
|------------|---|--|
| 科目名 | 英米文学概論Ⅱ | |
| 担当者 | 竹内 勝徳 / TAKEUCHI, Katsunori | |
| 科目情報 | 人間文化<英語英米文化> / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 2年次 | |
| | — | |
| 科目概要 | 授業内容 | ロスト・ジェネレーションのアメリカ文学作品と作家を概観すると共に、英語力を徹底強化する。必要に応じて英検、TOEIC の指導も行う。 |
| | 到達目標 | 20 世紀のアメリカの消費社会の展開と大衆文化の広がり、それに対する作家たちの反応について学ぶと共に、小説作品や映画作品を鑑賞することで英語の読解力や聴取能力を向上させる。 |
| 授業計画 | (1) クール 1-1: 世紀末から大戦期のアメリカ (2) クール 1-2: 戦後 (1920ー) のアメリカ社会 (3) クール 1-3: 『キングコング』を見る (4) クール 2-1: フィッツジェラルドの生い立ち (5) クール 2-2: 『グレート・ギャツビー』を見る (6) クール 2-3: 『グレート・ギャツビー』分析 (7) クール 3-1: アーネスト・ヘミングウェイの青少年時代 (8) クール 3-2: ヨーロッパでの生活と『武器よさらば』 (9) クール 3-3: スペイン内乱と『誰がために鐘は鳴る』 (10) クール 3-4: 『老人と海』を見る (11) クール 4-1: 1929 年の大恐慌とその後 (12) クール 4-2: スタインベックとカリフォルニア (13) クール 4-3: 『怒りの葡萄』を見る (14) 質疑 (15) 総括 | |
| 自学自習 | 事前学習 | ・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。 |
| | 事後学習 | ・プリントの英文を読み返し、語句や表現を覚える。 |
| 使用教材・参考文献 | 使用教材 | プリント、ビデオ |
| | 参考文献 | プリント、ビデオ |
| 成績評価の基準と方法 | 基準 | 授業内容を理解し、作品中の英文を読み解けること。 |
| | 方法 | 筆記試験 80%、発言 20%。 |
| 備考 | | |

| 授業マトリクス上の位置づけ (科目が設置された学科、コースでの位置づけ) | | |
|--------------------------------------|-------------|-----|
| 教育課程の獲得目標 | レベルに応じた到達目標 | レベル |
| | | |
| | | |
| | | |

| | | |
|------------|---|--|
| 科目名 | 英米文学講読 I | |
| 担当者 | 徳重 靖子 / TOKUSHIGE, Yasuko | |
| 科目情報 | 人間文化<英語英米文化> / 選択 / 前期 / 演習 / 2単位 / 2年次 | |
| | — | |
| 科目概要 | 授業内容 | DUBLINERS の中から短編を取り上げ精読する。 |
| | 到達目標 | 世界最高峰文学作品である Ulysses の作者 James Joyce の初期の作品 Dubliners を読み、いかに人間観察が鋭く、又その表現が適切かを学ぶ。又その底流に流れるケルト・キリスト教文化を学ぶ。 |
| 授業計画 | (1) James Joyce の時代と作品の説明 (2) The Sisters (3) " (4) " (5) " (6) " (7) " (8) The Painful Case (9) " (10) " (11) " (12) " (13) " (14) " (15) 質疑応答 | |
| 自学自習 | 事前学習 | 意味のわからない単語は辞書で事前に調べておくこと。 |
| | 事後学習 | その日理解できなかった文章や内容を明確にし、次回質問するように準備する。 |
| 使用教材・参考文献 | 使用教材 | Dubliners ダブリン市民1「死者たち」(南雲堂) |
| | 参考文献 | 適宜紹介する |
| 成績評価の基準と方法 | 基準 | 総合評価の結果6割以上の得点率を獲得した者は合格とする。 |
| | 方法 | 平常点20%、試験80% 総合的に評価します。 |
| 備考 | | |

| 授業マトリクス上の位置づけ (科目が設置された学科、コースでの位置づけ) | | |
|--------------------------------------|-------------|-----|
| 教育課程の獲得目標 | レベルに応じた到達目標 | レベル |
| | | |
| | | |
| | | |

| | | |
|------------|---|--|
| 科目名 | 英米文学講読Ⅱ | |
| 担当者 | 徳重 靖子 / TOKUSHIGE, Yasuko | |
| 科目情報 | 人間文化＜英語英米文化＞ / 選択 / 後期 / 演習 / 2単位 / 2年次 | |
| | — | |
| 科目概要 | 授業内容 | Dubliners 中の A Little Cloud を精読する。 |
| | 到達目標 | 一語一語大切に読み、ある言葉に導かれて、無意識の世界に入り込む。又音か何かで意識の世界に戻る。意識の流れに身を委ねて生きていくと人はこの世で孤立して生きているのではなく、古代の人々と共に生きていることに気が付く。独りの経験だけでなく、豊かな人生を送れるのである。その世界観を知ってもらいたい。 |
| 授業計画 | (1) A Little Cloud (2) 〃 (3) 〃 (4) 〃 (5) 〃 (6) 〃 (7) 〃 (8) 〃 (9) 〃 (10) 〃 (11) 〃 (12) 〃 (13) 〃 (14) 〃 (15) 試験のための質疑応答 | |
| 自学自習 | 事前学習 | 分からない単語は前もって調べておく。 |
| | 事後学習 | 理解できなかった表現又は文章、内容は次回質問できるように準備しておく。 |
| 使用教材・参考文献 | 使用教材 | 後期授業の前にプリントして配布いたします。 |
| | 参考文献 | 適宜紹介します。 |
| 成績評価の基準と方法 | 基準 | 総合評価の結果6割以上の得点率を獲得した者は合格とする。 |
| | 方法 | 平常20%、試験80%を総合して評価する |
| 備考 | | |

| 授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ） | | |
|-------------------------------------|-------------|-----|
| 教育課程の獲得目標 | レベルに応じた到達目標 | レベル |
| | | |
| | | |
| | | |

| | | |
|------------|--|---|
| 科目名 | 英米文学研究 I | |
| 担当者 | 徳重 靖子 / TOKUSHIGE, Yasuko | |
| 科目情報 | 人間文化<英語英米文化> / 選択 / 後期 / 演習 / 2単位 / 3年次 | |
| | — | |
| 科目概要 | 授業内容 | 19世紀のアメリカの女流詩人Emily Dickinson の「自然」の詩をゆっくりと読み、解説の楽しさを味わい、我々読者も「自然」からさまざまな力を享受する方法を学びましょう。 |
| | 到達目標 | 毎回1～2篇の詩を読み、暗唱する。 |
| 授業計画 | (1) Emily Dickinson の説明 The simple news that Nature told with tender Majesty(441) (2) So from the mould(66) (3) The Murmur of a Bee(155) (4) The Bee is not afraid of me. (111) (5) The Grass so little has to do-(333) (6) God made a little Gentian-(442) (7) “Nature” is what we see-(668) (8) I could bring you Jewels-had I a mind to-(697) (9) Sweet Mountains-ye tell me no lie-(722) (10) Struck, was I, nor yet by Lightning-(925) (11) These are the Signs to Nature’ s Inns-(1077) (12) We introduce ourselves(1214) (13) Of Nature I shall have enough(1220) (14) Were nature mortal lady(1762) (15) To make a prairie it takes a clover and one bee, (1755) | |
| 自学自習 | 事前学習 | ・意味のわからない単語は辞書で事前に調べておくこと。 |
| | 事後学習 | 理解できなかった行や内容を次回質問できるように、準備しておくこと。 |
| 使用教材・参考文献 | 使用教材 | The Poems of Emily Dickinson から抜粋し、プリントを配布します。 |
| | 参考文献 | 適宜紹介します。 |
| 成績評価の基準と方法 | 基準 | 総合評価の結果6割以上の得点率を獲得した者は合格とする。 |
| | 方法 | 平常点(暗唱点)40% 試験60% を総合して評価する |
| 備考 | | |

| 授業マトリクス上の位置づけ(科目が設置された学科、コースでの位置づけ) | | |
|-------------------------------------|-------------|-----|
| 教育課程の獲得目標 | レベルに応じた到達目標 | レベル |
| | | |
| | | |
| | | |

| | | |
|------------|---|---|
| 科目名 | 英国の歴史 I | |
| 担当者 | 酒瀬川 純行 / SAKASEGAWA, Sumiyuki | |
| 科目情報 | 人間文化<英語英米文化> / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 2年次 | |
| | — | |
| 科目概要 | 授業内容 | 古代ビーカー族からケルト族の定住、ローマ軍の支配を経て、アングロサクソン、バイキング、ノルマンの侵入と王朝樹立に至る過程を、王室並びに社会に焦点を当ててその変遷を考察する。又毎時間重用事象に関する受講生数名によるプレゼンテーションを課し、BBC ニュース、The Guardian Weekly の記事により最新の英国情報も提供する。 |
| | 到達目標 | 古代から 11 世紀のノルマン王朝成立までの歴史の流れについてその概要を学び、主立った国王、事件、事象について学び、理解する。 |
| 授業計画 | (1) What is history? What is the UK? (2) The Beakers and Stonehenge (3) The Celts (4) The Celts and Romans (5) The Celts and Romans (6) The Celts and Romans (7) The Anglo-Saxons (8) The Anglo-Saxons (9) The Anglo-Saxons (10) The Anglo-Saxons (11) The Vikings (12) The Vikings (13) The Normans (14) The Normans (15) 総まとめ | |
| 自学自習 | 事前学習 | ・使用教材（英文プリント）・参考文献を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。 |
| | 事後学習 | 学んだ内容を復習し、理解すること。 |
| 使用教材・参考文献 | 使用教材 | 担当者作成英文資料 |
| | 参考文献 | 酒瀬川純行著『エッセイと写真で綴る緑と石とゆとりの国イギリス』 現代図書 2008年 森 護 『英国王室史事典』 大修館書店 1994年。 |
| 成績評価の基準と方法 | 基準 | 各王朝の時代背景、主な事象等について理解したものは合格とする。 |
| | 方法 | プレゼンテーション 40%、終了試験 60%。 |
| 備考 | | |

| 授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ） | | |
|-------------------------------------|-------------|-----|
| 教育課程の獲得目標 | レベルに応じた到達目標 | レベル |
| | | |
| | | |
| | | |

| | | |
|------------|--|--|
| 科目名 | 英国の歴史Ⅱ | |
| 担当者 | 酒瀬川 純行 / SAKASEGAWA, Sumiyuki | |
| 科目情報 | 人間文化＜英語英米文化＞ / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 2年次 | |
| | — | |
| 科目概要 | 授業内容 | プランタジネット王朝から、チューダー、スチュアート、ハノーバーを経て現在のウィンザー王朝にいたるまでを王室並びに社会に焦点を当ててその変遷を考察する。又毎時間重用事象に関する受講生数名によるプレゼンテーションを課し、BBC ニュース、The Guardian Weekly の記事により最新の英国情報も提供する。 |
| | 到達目標 | プランタジネット王朝から現在のウィンザー王朝までの歴史の流れについてその概要を学び、主立った国王、マグナ・カルタ、宗教改革、名誉革命、農・産業革命等の重要な出来事について学び、理解する。 |
| 授業計画 | (1) The House of Plantagenet (2) The House of Plantagenet (3) The House of Plantagenet (4) The House of Plantagenet (5) The House of Tudor (6) The House of Tudor (7) The House of Tudor (8) The House of Tudor (9) The House of Stuart (10) The House of Stuart (11) The House of Hanover (12) The House of Hanover (13) The House of Hanover (14) The House of Windsor (15) 総まとめ | |
| 自学自習 | 事前学習 | ・使用教材（英文プリント）・参考文献を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。” |
| | 事後学習 | 学んだ内容を復習し、理解すること。 |
| 使用教材・参考文献 | 使用教材 | 担当者作成英文資料 |
| | 参考文献 | 酒瀬川純行著『エッセイと写真で綴る緑と石とゆとりの国イギリス』現代図書 2008年 森 護 『英国王室史事典』大修館書店 1994年。 |
| 成績評価の基準と方法 | 基準 | 各王朝の時代背景、主な事象等について理解したものは合格とする。 |
| | 方法 | プレゼンテーション 40%、終了試験 60%。 |
| 備考 | | |

| 授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ） | | |
|-------------------------------------|-------------|-----|
| 教育課程の獲得目標 | レベルに応じた到達目標 | レベル |
| | | |
| | | |
| | | |

| | | |
|------------|---|---|
| 科目名 | 米国の歴史と文化 I | |
| 担当者 | 竹内 勝徳 / TAKEUCHI, Katsunori | |
| 科目情報 | 人間文化<英語英米文化> / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 2年次 | |
| | — | |
| 科目概要 | 授業内容 | 『パイレーツ・オブ・カリビアン』とメルヴィルの『白鯨』を比較することで、英語の読解力を向上させると共に、作家の考え方やその背景となる社会状況について学ぶ。また、音声教材や映像作品も交えて、作品について深く学ぶ。必要に応じて英検、TOEIC の指導も行う。 |
| | 到達目標 | 現代英語の文法、語法や口語体を生きた英文の中で読み解くことで、実践的な英語読解力を身につける。また、作品の背景となった社会状況を理解する。 |
| 授業計画 | (1) 『白鯨』(1956年版)鑑賞 (2) Pirates of the Caribbean-Curse of the Black Pearl 精読 (3) Pirates of the Caribbean-Curse of the Black Pearl 精読 (4) Pirates of the Caribbean-Curse of the Black Pearl 精読 (5) Pirates of the Caribbean-Curse of the Black Pearl 精読 (6) Pirates of the Caribbean-Curse of the Black Pearl 精読 (7) 『パイレーツ・オブ・カリビアン—ブラックパールのかい』鑑賞 (8) ディスカッション (9) Pirates of the Caribbean-Curse of the Black Pearl 精読 (10) Pirates of the Caribbean-Curse of the Black Pearl 精読 (11) Pirates of the Caribbean-Curse of the Black Pearl 精読 (12) Pirates of the Caribbean-Curse of the Black Pearl 精読 (13) Pirates of the Caribbean-Curse of the Black Pearl 精読 (14) 『パイレーツ・オブ・カリビアン』との比較 (15) 総まとめ | |
| 自学自習 | 事前学習 | ・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。 |
| | 事後学習 | ・学習箇所を繰り返し、読み、語句や表現法を覚える。 ・会話練習を継続する。 |
| 使用教材・参考文献 | 使用教材 | Pirates of the Caribbean-Curse of the Black Pearl (ペンギン) |
| | 参考文献 | 適宜指示する |
| 成績評価の基準と方法 | 基準 | 教科書の英文を読み解き、授業中に質問する。 |
| | 方法 | 筆記試験 60%、会話テスト 20%、発言 20%。 |
| 備考 | | |

| 授業マトリクス上の位置づけ (科目が設置された学科、コースでの位置づけ) | | |
|--------------------------------------|-------------|-----|
| 教育課程の獲得目標 | レベルに応じた到達目標 | レベル |
| | | |
| | | |
| | | |

| | | |
|------------|---|---|
| 科目名 | 米国の歴史と文化Ⅱ | |
| 担当者 | 竹内 勝徳 / TAKEUCHI, Katsunori | |
| 科目情報 | 人間文化<英語英米文化> / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 2年次 | |
| 科目概要 | 授業内容 | 『パイレーツ・オブ・カリビアン』とメルヴィルの『白鯨』を精読、比較することで、英語の読解力を向上させると共に、作家の考え方やその背景となる社会状況について学ぶ。また、音声教材や映像作品も交えて、作品について深く学ぶ。必要に応じて英検、TOEICの指導も行う。 |
| | 到達目標 | 現代英語の文法、語法や口語体を生きた英文の中で読み解くことで、実践的な英語読解力を身につける。また、作品の背景となった社会状況を理解する。 |
| 授業計画 | (1) 『パイレーツ・オブ・カリビアン―デッドマンズ・チェスト』鑑賞 (2) 『白鯨』の原文名場面精読 (1) (3) 『白鯨』の原文名場面精読 (2) (4) Pirates of the Caribbean-Dead Man's Chest 精読 (5) Pirates of the Caribbean-Dead Man's Chest 精読 (6) Pirates of the Caribbean-Dead Man's Chest 精読 (7) 『白鯨』(1998年版) 鑑賞 (8) 前期の『白鯨』の授業についてディスカッション (9) Pirates of the Caribbean-Dead Man's Chest 精読 (10) Pirates of the Caribbean-Dead Man's Chest 精読 (11) Pirates of the Caribbean-Dead Man's Chest 精読 (12) Pirates of the Caribbean-Dead Man's Chest 精読 (13) Pirates of the Caribbean-Dead Man's Chest 精読 (14) 『白鯨』との比較 (15) 総まとめ | |
| 自学自習 | 事前学習 | ・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。 |
| | 事後学習 | ・学習箇所を繰り返し、読み、語句や表現法を覚える。 ・会話練習を継続する。 |
| 使用教材・参考文献 | 使用教材 | Pirates of the Caribbean Dead Man's Chest (ペンギン) |
| | 参考文献 | 適宜指示する |
| 成績評価の基準と方法 | 基準 | 教科書の英文を読み解き、授業中に質問する。 |
| | 方法 | 筆記試験 60%、会話テスト 20%、発言 20%。 |
| 備考 | | |

| 授業マトリクス上の位置づけ (科目が設置された学科、コースでの位置づけ) | | |
|--------------------------------------|-------------|-----|
| 教育課程の獲得目標 | レベルに応じた到達目標 | レベル |
| | | |
| | | |
| | | |

| | | |
|------------|---|---|
| 科目名 | 海外語学研修 | |
| 担当者 | ◎酒瀬川 純行 / 入江 公啓 / マーカス・シオボード / 蒲地 賢一郎 | |
| 科目情報 | 人間文化＜英語英米文化＞ / 選択 / 後期 / 演習 / 6単位 / 1年次 | |
| | — | |
| 科目概要 | 授業内容 | 英国の歴史、文化、生活及び関連英語表現に関する事前講義。現地での 45 時間の英語研修、並びに週末研修旅行。研修に関するレポート。 |
| | 到達目標 | コミュニケーション手段としての英語を習得し、国際感覚を涵養する。 |
| 授業計画 | (1) 事前研修 (英国の概要) (2) 事前研修 (英国の歴史と文化) (3) 事前研修 (英国の歴史と文化) (4) 事前研修 (日常会話表現) (5) 語学研修、文化施設等視察 (6) 語学研修、文化施設等視察 (7) 語学研修、文化施設等視察 (8) 語学研修と週末研修旅行 (9) 語学研修、文化施設等視察 (10) 語学研修、文化施設等視察 (11) 語学研修と週末研修旅行 (12) 語学研修、文化施設等視察 (13) 語学研修、文化施設等視察 (14) 語学研修と週末研修旅行 (15) 総まとめ (レポート作成) | |
| 自学自習 | 事前学習 | 配布されたプリント等を熟読しておくこと。 |
| | 事後学習 | 習った事柄を整理し、マスターする。 |
| 使用教材・参考文献 | 使用教材 | 引率指導者作成プリント、語学研修先配布教科書・プリント |
| | 参考文献 | 小池滋監修、『読んで旅する世界の歴史と文化 イギリス』新潮社 1994 年 酒瀬川純行著『エッセイと写真で綴る緑と石とゆとりの国イギリス』現代図書 2008 年 |
| 成績評価の基準と方法 | 基準 | コミュニケーション手段としての英語を習得し、国際感覚を身につけた者は合格とする。 |
| | 方法 | 事前講義・現地語学研修終了 (90%)、研修終了レポート (10%) |
| 備考 | | |

| 授業マトリクス上の位置づけ (科目が設置された学科、コースでの位置づけ) | | |
|--------------------------------------|-------------|-----|
| 教育課程の獲得目標 | レベルに応じた到達目標 | レベル |
| | | |
| | | |
| | | |

| | | |
|------------|--|--|
| 科目名 | 日本語の音声 | |
| 担当者 | 平塚 雄亮 / HIRATSUKA, Yusuke | |
| 科目情報 | 人間文化<英語英米文化> / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 2年次 | |
| | — | |
| 科目概要 | 授業内容 | この授業では、日本語の音声について、どのように発音がなされているのかといったことについての概説を行う。なお、適宜英語など日本語以外の言語の音声にも触れながら音声学の基礎について学ぶ。 |
| | 到達目標 | この授業をとおして、発声や発音のしくみについて理解し、重要事項が説明できるようになる。また、現代日本語の音声における母音・子音・アクセントなどの特徴を理解し、それを適切な音声学の用語・概念で説明できるようになることを目指す。 |
| 授業計画 | (1) オリエンテーション (2) 音声器官 (3) 子音 (1) (4) 子音 (2) (5) 子音 (3) (6) 母音 (1) (7) 小テスト (1) (8) 母音 (2) (9) 母音 (3) (10) 音節とモーラ (11)アクセント (1) (12)アクセント (2) (13)イントネーション (14)鹿児島方言の音声 (15)小テスト (2) | |
| 自学自習 | 事前学習 | テキストの当該の箇所を読んでくること。 |
| | 事後学習 | 小テストと期末試験に向けて復習を欠かさないこと。 |
| 使用教材・参考文献 | 使用教材 | 斎藤純男 (2006) 『日本語音声学入門 改訂版』三省堂. (ISBN 4385345880) |
| | 参考文献 | 授業時に適宜指示する。 |
| 成績評価の基準と方法 | 基準 | 日本語の音声について、基礎的なことに加え応用的なことも理解できているものは合格とする。 |
| | 方法 | 期末試験 50%、小テスト 20%、授業時の提出物・態度 30% |
| 備考 | 予習・復習の欠かせない授業であることをよく理解して受講してください。 | |

| 授業マトリクス上の位置づけ (科目が設置された学科、コースでの位置づけ) | | |
|--------------------------------------|-------------|-----|
| 教育課程の獲得目標 | レベルに応じた到達目標 | レベル |
| | | |
| | | |
| | | |

| | | |
|------------|--|--|
| 科目名 | 日本語の文法 | |
| 担当者 | 平塚 雄亮 / HIRATSUKA, Yusuke | |
| 科目情報 | 人間文化<英語英米文化> / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 2年次 | |
| | — | |
| 科目概要 | 授業内容 | この授業では、日本語の文法について取り上げ、そこに潜んでいるルールについて学ぶ。基本的には講義形式で進めるが、自分のことばだどどのように言うか考える「内省」などの作業を含むので、積極的な授業参加が求められる。 |
| | 到達目標 | この授業をとおして、日本語の文法の基礎について理解し、重要事項について適切な言語学・日本語学の用語・概念で説明できるようになることを目指す。 |
| 授業計画 | (1) オリエンテーション (2) 文と単語 (3) 品詞 (4) 名詞と助詞 (1) (5) 名詞と助詞 (2) (6) 動詞 (1) (7) 小テスト (1) (8) 動詞 (2) (9) 動詞 (3) (10) 動詞 (4) (11) 動詞 (5) (12) 形容詞 (13) 複文 (14) 待遇表現 (15) 小テスト (2) | |
| 自学自習 | 事前学習 | ふだんからことばづかい、友だちや家族との会話、テレビ、新聞、インターネットなど、日常生活にある言語を注意深く観察しておくこと。 |
| | 事後学習 | 小テストと期末試験に向けて復習を欠かさないこと。 |
| 使用教材・参考文献 | 使用教材 | なし。授業時にハンドアウトを配布する。 |
| | 参考文献 | 授業時に適宜指示する。 |
| 成績評価の基準と方法 | 基準 | 日本語の文法について、基礎的なことに加え応用的なことも理解できているものは合格とする。 |
| | 方法 | 期末試験 50%、小テスト 20%、授業時の提出物・態度 30% |
| 備考 | ことばに興味がある学生の受講を歓迎します。何か質問があれば気軽に声をかけてください。 | |

| 授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ） | | |
|-------------------------------------|-------------|-----|
| 教育課程の獲得目標 | レベルに応じた到達目標 | レベル |
| | | |
| | | |
| | | |

| | | |
|------------|---|--|
| 科目名 | 対照言語学 | |
| 担当者 | ◎新内 康子 / 入佐 信宏 / 横山 政子 | |
| 科目情報 | 人間文化<英語英米文化> / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 2年次 | |
| | — | |
| 科目概要 | 授業内容 | 日本語を第二言語とする人達に日本語を指導するのに不可欠な対照言語学的視点を指導者として持つために、対照言語学とは何か、を講義し、日本語と英語の対照、日本語と韓国語の対照、日本語と中国語の対照、をそれぞれ行う。 |
| | 到達目標 | 「対照言語学とは何かを学び、対照言語学と第二言語習得との関連性が理解できるようになる。」 「日本語と英語とを比較対照し、英語母語話者の誤用原因の一部が理解できるようになる。」 「日本語と韓国語とを比較対照し、韓国語母語話者の誤用原因の一部が理解できるようになる。」 「日本語と中国語とを比較対照し、中国語母語話者の誤用原因の一部が理解できるようになる。」 |
| 授業計画 | (1) 日本語教育と対照言語学、対照言語学とは (新内) (2) 対照言語学とアメリカ構造言語学・第二言語習得 (新内) (3) 同上 (新内) (4) 母語の語族等の違いによる学習者の日本語習得傾向 (新内) (5) 日本語と英語との比較対照 (新内) (6) 同上 (新内) (7) 同上 (新内) (8) 同上 (新内) (9) 日本語と韓国語との比較対照 (入佐) (10) 同上 (入佐) (11) 同上 (入佐) (12) 日本語と中国語との比較対照 (横山) (13) 同上 (横山) (14) 同上 (横山) (15) 総まとめ (新内) | |
| 自学自習 | 事前学習 | ・配布プリント・参考文献を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。 |
| | 事後学習 | 各回の授業内容が定着するよう復習すること。 |
| 使用教材・参考文献 | 使用教材 | 教科書は特に指定しない。講義中に配布するプリントを用いる。 |
| | 参考文献 | 迫田久美子『日本語教育に生かす第二言語習得研究』2002年 アルク 水谷信子『実例で学ぶ誤用分析の方法』1994年 アルク 張麟声『日本語教育のための誤用分析＝中国語母語話者の母語干渉20例＝』2001年 スリーエーネットワーク |
| 成績評価の基準と方法 | 基準 | 上記の到達目標に達した者を合格とする。 |
| | 方法 | 前期末試験(85点)、受講態度(15点)で評価する。 |
| 備考 | 2回の遅刻または早退で1回の欠席とする。授業回数数の3分の1以上欠席した場合、不合格とする。西暦奇数年開講。 | |

| 授業マトリクス上の位置づけ(科目が設置された学科、コースでの位置づけ) | | |
|-------------------------------------|-------------|-----|
| 教育課程の獲得目標 | レベルに応じた到達目標 | レベル |
| | | |
| | | |
| | | |

| | | |
|------------|--|---|
| 科目名 | 外国史概説 | |
| 担当者 | 溝上 宏美 / MIZOKAMI, Hiromi | |
| 科目情報 | 人間文化<英語英米文化> / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 2年次 | |
| | - | |
| 科目概要 | 授業内容 | 世界で最初に工業化を経験し、19世紀にはイギリス帝国として世界の諸地域に大きな影響を与えたイギリスの歴史を通じて、近現代世界史を概観する。 |
| | 到達目標 | イギリス帝国の歴史を概観することを通じて、国境を越えた歴史的関係を理解することができるようになる。帝国の歴史が現代世界に残した影響を踏まえたうえで、現代社会について考えることができるようになる。 |
| 授業計画 | (1) 「イギリス」とは何か? - 4つの地域と帝国の「遺産」 (2) 近代イギリスの起点 (1) - 宗教改革と二つの「革命」 (3) 近代イギリスの起点 (2) - 帝国の形成 (4) 連合王国の成立と「イギリス国民」の誕生 (5) アメリカの独立と帝国の再編 (6) 産業革命の近代社会 (7) パクス・ブリタニカーヴィクトリア朝期のイギリス (8) イギリス帝国とアジア-アヘン戦争とインド (9) 世紀転換期のイギリス帝国 (1) - アイルランド自治問題 (10) 世紀転換期のイギリス帝国 (2) - 南アフリカ戦争と帝国主義 (11) 第一次世界大戦とイギリス連邦の成立 (12) 第二次世界大戦とイギリス帝国 (13) 脱植民地化とイギリス (14) 帝国からヨーロッパへ? - ヨーロッパ統合とイギリス (15) 総まとめ - 帝国支配が遺したもの | |
| 自学自習 | 事前学習 | ・イギリスに関係するかどうかにかかわらず、国際ニュースに目を通しておくこと。 ・前回配布されたプリントや資料を見直し、流れを理解しておくこと。 |
| | 事後学習 | ・配布されたプリントを見直して理解しておくこと。わからないことがあれば、辞書や参考文献で調べるか、教員に聞きにくること。 |
| 使用教材・参考文献 | 使用教材 | 教科書は特に使用しない。授業中にプリントと資料を配布する。 |
| | 参考文献 | 川北稔/木畑洋一編『イギリスの歴史：帝国＝コモンウェルスの歩み』（有斐閣、2000年）他、授業中に適宜紹介する。 |
| 成績評価の基準と方法 | 基準 | 近現代イギリス帝国史の基本的な事項が理解できており、文章で説明できていれば合格とする。 |
| | 方法 | 期末に実施する試験 60%、受講態度を 40%とし、受講態度は時折実施する小テストの結果、およびアンケートや感想文の提出状況で評価する。 |
| 備考 | | |

| 授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ） | | |
|-------------------------------------|-------------|-----|
| 教育課程の獲得目標 | レベルに応じた到達目標 | レベル |
| | | |
| | | |
| | | |

| | | |
|------------|--|--|
| 科目名 | 文化史概説 I | |
| 担当者 | 横山 政子 / YOKOYAMA, Masako | |
| 科目情報 | 人間文化<英語英米文化> / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 2年次 | |
| | — | |
| 科目概要 | 授業内容 | 中国社会の特質に触れ、社会のあり方とその根底に流れる文化との関わりを考える。人口や民族、中国独特の制度の背景にある文化の歴史を学ぶ。 |
| | 到達目標 | 中国社会の特質について学び、社会を形作っている文化との関係を理解することが目標である。 |
| 授業計画 | (1) (1) 人口動態——人口の推移 (2) (1) 人口動態——出生率、高齢化社会 (3) (1) 人口動態——日本との比較 (4) (2) 多民族国家——漢民族と 55 の少数民族、民族政策 (5) (2) 多民族国家——現行紙幣にみる中国社会と言語 (6) (2) 多民族国家——多様な文化、消えゆく言語 (7) (3) 農村と都市——二元的戸籍制度 (8) (3) 農村と都市——戸籍制度と社会変容 (9) (4) 漢民族の伝統的家族制度——輩行、結婚 (10) (4) 漢民族の伝統的家族制度——養育、相続 (11) (5) 切手・紙幣にみる中国社会 1 (12) (5) 切手・紙幣にみる中国社会 2 (13) (6) 華僑と華人 1 (14) (6) 華僑と華人 2 (15) 総復習 | |
| 自学自習 | 事前学習 | 意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。 |
| | 事後学習 | 授業の内容を整理してプリントを完成させる。 |
| 使用教材・参考文献 | 使用教材 | 教科書は特に指定しない。講義中に配布するプリントを用いる。 |
| | 参考文献 | 必要に応じて講義中に紹介する。 |
| 成績評価の基準と方法 | 基準 | 中国社会の特質について理解し、自分の言葉でわかりやすく解説できれば合格とする。 |
| | 方法 | 受講態度 (50%)、期末試験 (50%)。受講態度には授業中に実施する小テストを含む。 |
| 備考 | | |

| 授業マトリクス上の位置づけ (科目が設置された学科、コースでの位置づけ) | | |
|--------------------------------------|-------------|-----|
| 教育課程の獲得目標 | レベルに応じた到達目標 | レベル |
| | | |
| | | |
| | | |

| | | |
|------------|--|--|
| 科目名 | 文化史概説Ⅱ | |
| 担当者 | 溝上 宏美 / MIZOKAMI, Hiromi | |
| 科目情報 | 人間文化<英語英米文化> / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 2年次 | |
| | — | |
| 科目概要 | 授業内容 | 近現代イギリス史、イギリス帝国史を題材に、近代化や都市化と文化との関係、宗教、階級、ジェンダー、エスニシティと文化との関係を歴史的に概観し、文化とは何かについて検討する。 |
| | 到達目標 | イギリスを事例に近代社会が形成されていく過程を知ることで、社会の諸制度や異文化を深く理解できるようになるとともに、現代社会や自文化を客観的にとらえる視点を身につける。多様性や可変性、越境性を踏まえて文化を理解することができるようになる。 |
| 授業計画 | (1) 導入－文化とは何か？ (2) 文化史とは何か？（1） (3) 文化史とは何か？（2） (4) イギリス文化とは何か？－多様性と流動性 (5) 宗教とイギリス社会 (6) 「われら失いし世界」－工業化以前のイングランド社会と歴史人口学 (7) ジェントルマンであること－ヴィクトリア朝期の規範 (8) チャリティと近代イギリス (9) 帝国と食文化－紅茶と砂糖からみるイギリス史 (10) 余暇の成立と大衆娯楽－旅行と博覧会 (11) ジェンダーからみるイギリス近代（1） (12) ジェンダーからみるイギリス近代（2） (13) 帝国主義と「子ども」 (14) 帝国支配が遺したもの－多文化社会と歴史認識 (15) 総まとめ | |
| 自学自習 | 事前学習 | ・前回配布したプリントを見直して、流れを確認しておくこと。 |
| | 事後学習 | ・授業中に配布されたプリント、資料を見直し、わからない言葉を辞書や参考文献で調べるか、教員に聞くかして理解しておくこと。 |
| 使用教材・参考文献 | 使用教材 | 教科書は使用しない。授業中にプリントと資料を配布する。 |
| | 参考文献 | 指昭博編『はじめて学ぶイギリスの歴史と文化』（ミネルヴァ書房、2012年）他、適宜授業中に紹介する。 |
| 成績評価の基準と方法 | 基準 | 文化とは何かという問題、近代社会の特質、階級、ジェンダー、エスニシティの問題について理解できており、説明ができていれば合格とする。 |
| | 方法 | 期末に実施する試験が60%、受講態度を40%とする。受講態度は、時折実施する小テストの結果とアンケートや感想文の提出で評価する。 |
| 備考 | | |

| 授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ） | | |
|-------------------------------------|-------------|-----|
| 教育課程の獲得目標 | レベルに応じた到達目標 | レベル |
| | | |
| | | |
| | | |

| | | |
|------------|--|---|
| 科目名 | 地誌学 I | |
| 担当者 | 宗 建郎 / SOH, Tatsuroh | |
| 科目情報 | 人間文化<英語英米文化> / 選択 / 前期 / 講義 / 2 単位 / 2 年次 | |
| | — | |
| 科目概要 | 授業内容 | 地域を総合的に捉える地誌学とはどのようなものかについて①基礎知識, ②地域調査の手法, ③具体的事例の三つのステップで解説します。 |
| | 到達目標 | 地誌学の基礎を理解し, 地域調査法の簡単な手法を利用することができるようになることを目標とします。 |
| 授業計画 | (1) イントロダクション (2) 地誌学の流れ (3) 地域あるいは風土 1 (4) 地域あるいは風土 2 (5) 地域調査法—統計 (6) 地域調査法—多変量解析 1 (7) 地域調査法—多変量解析 2 (8) 地域調査法—多変量解析 3 (9) 地域調査法—空中写真 (10) 地域調査法—主題図作成 1 (11) 地域調査法—主題図作成 2 (12) 地域調査法—主題図作成 3 (13) 地域を見る—日本と九州 (14) 地域を見る—鹿児島 (15) まとめ | |
| 自学自習 | 事前学習 | ・参考文献を事前に読んでおくこと。 ・意味のわからない用語については事前に調べておくこと。 |
| | 事後学習 | ・授業中に興味を持った内容について自ら調べてみること。 |
| 使用教材・参考文献 | 使用教材 | 教科書は特に使用しない。必要に応じて資料を配付します。 |
| | 参考文献 | 中村和郎・岩田修二編『地誌学を考える』古今書院, 1986 年。 |
| 成績評価の基準と方法 | 基準 | 地誌学の用語と考え方について説明できることと地域調査法の利用法を理解していることを基準とします。 |
| | 方法 | 試験 50%, 授業内課題 30%, 受講態度 20%で評価します。 |
| 備考 | 授業内で簡単な作業を行います。詳細は必要に応じて指示します。授業の進展状況に応じて内容を修正しながら進めることがあります。 | |

| 授業マトリクス上の位置づけ (科目が設置された学科、コースでの位置づけ) | | |
|--------------------------------------|-------------|-----|
| 教育課程の獲得目標 | レベルに応じた到達目標 | レベル |
| | | |
| | | |
| | | |

| | | |
|------------|--|--|
| 科目名 | 地誌学Ⅱ | |
| 担当者 | 宗 建郎 / SOH, Tatsuroh | |
| 科目情報 | 人間文化<英語英米文化> / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 2年次 | |
| | — | |
| 科目概要 | 授業内容 | 地域を総合的にとらえる視点について、①文献の活用、②地図の活用という観点から具体的な事例をふまえてお話しします。 |
| | 到達目標 | 地域について、文献や地図を活用して調査をする基礎的な方法を身につける。 |
| 授業計画 | (1) イントロダクション (2) 文献に見る地域の姿 1 (3) 文献に見る地域の姿 2 (4) 文献に見る地域の姿 3 (5) 統計に見る地域の姿 (6) GIS とは (7) 統計による主題図の作成 1 (8) 統計による主題図の作成 2 (9) 統計による主題図の作成 3 (10) 地図に見る地域の姿 (11) 地図をつくる 1 (12) 地図をつくる 2 (13) 地図をつくる 3 (14) 地図・図表を用いたプレゼンテーション (15) まとめ | |
| 自学自習 | 事前学習 | ・参考文献を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。 |
| | 事後学習 | 地域調査の手法について復習しておくこと。 |
| 使用教材・参考文献 | 使用教材 | 教科書は特に指定しない。必要に応じてプリントを配布します。 |
| | 参考文献 | 今村洋大編著『Quantum GIS 入門』古今書院, 2013. |
| 成績評価の基準と方法 | 基準 | 文献、地図を用いた地域調査法が身に付いている事を基準とします。 |
| | 方法 | 試験 50%, 授業内課題 30%, 受講態度 20%で評価します。 |
| 備考 | 授業の中で実際に作業を行います。 | |

| 授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ） | | |
|-------------------------------------|-------------|-----|
| 教育課程の獲得目標 | レベルに応じた到達目標 | レベル |
| | | |
| | | |
| | | |

| | | |
|------------|--|--------------------------------------|
| 科目名 | 日本史概説 | |
| 担当者 | 原口 泉 / HARAGUCHI, Izumi | |
| 科目情報 | 人間文化<歴史地理> / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 2年次 | |
| | - | |
| 科目概要 | 授業内容 | 古代から幕末・維新への日本史の流れを史料に基づきながらたどっていく。 |
| | 到達目標 | 自国の歴史について基本的な理解を得、国際社会の中で解説できるようになる。 |
| 授業計画 | (1) イントロ (2) 幕末にいたる江戸時代の史話 (3) " (4) " (5) " (6) 近代～ペリー来航から西南戦争まで (7) " (8) " (9) 日本資本主義の確立～五代友厚、松方正義を中心に～ (10) " (11) " (12) " (13) " (14) " (15) 総まとめ | |
| 自学自習 | 事前学習 | 配布プリントを前もって読んでおくこと。 |
| | 事後学習 | 配布プリントの精読。 |
| 使用教材・参考文献 | 使用教材 | プリントを配布する |
| | 参考文献 | 宮地正人編『日本史』世界各国史1 山川出版社 2008年 |
| 成績評価の基準と方法 | 基準 | 時代の流れ、大要が理解できているかを判断基準とする。 |
| | 方法 | レポート（80%）と受講態度（20%）で判断する。 |
| 備考 | 年表、歴史地図必携。社会人の聴講、歓迎。 | |

| 授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ） | | |
|-------------------------------------|-------------|-----|
| 教育課程の獲得目標 | レベルに応じた到達目標 | レベル |
| | | |
| | | |
| | | |

| | | |
|------------|--|---|
| 科目名 | 外国史概説 | |
| 担当者 | 溝上 宏美 / MIZOKAMI, Hiromi | |
| 科目情報 | 人間文化<歴史地理> / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 2年次 | |
| | — | |
| 科目概要 | 授業内容 | 世界で最初に工業化を経験し、19世紀にはイギリス帝国として世界の諸地域に大きな影響を与えたイギリスの歴史を通じて、近現代世界史を概観する。 |
| | 到達目標 | イギリス帝国の歴史を概観することを通じて、国境を越えた歴史的関係を理解することができるようになる。帝国の歴史が現代世界に残した影響を踏まえたうえで、現代社会について考えることができるようになる。 |
| 授業計画 | (1) 「イギリス」とは何か？－4つの地域と帝国の「遺産」 (2) 近代イギリスの起点（1）－宗教改革と二つの「革命」 (3) 近代イギリスの起点（2）－帝国の形成 (4) 連合王国の成立と「イギリス国民」の誕生 (5) アメリカの独立と帝国の再編 (6) 産業革命の近代社会 (7) パクス・ブリタニカーヴィクトリア朝期のイギリス (8) イギリス帝国とアジア－アヘン戦争とインド (9) 世紀転換期のイギリス帝国（1）－アイルランド自治問題 (10) 世紀転換期のイギリス帝国（2）－南アフリカ戦争と帝国主義 (11) 第一次世界大戦とイギリス連邦の成立 (12) 第二次世界大戦とイギリス帝国 (13) 脱植民地化とイギリス (14) 帝国からヨーロッパへ？－ヨーロッパ統合とイギリス (15) 総まとめ－帝国支配が遺したもの | |
| 自学自習 | 事前学習 | ・イギリスに関係するかどうかにかかわらず、国際ニュースに目を通しておくこと。 ・前回配布されたプリントや資料を見直し、流れを理解しておくこと。 |
| | 事後学習 | ・配布されたプリントを見直して理解しておくこと。わからないことがあれば、辞書や参考文献で調べるか、教員に聞きにくること。 |
| 使用教材・参考文献 | 使用教材 | 教科書は特に使用しない。授業中にプリントと資料を配布する。 |
| | 参考文献 | 川北稔／木畑洋一編『イギリスの歴史：帝国＝コモンウェルスの歩み』（有斐閣、2000年）他、授業中に適宜紹介する。 |
| 成績評価の基準と方法 | 基準 | 近現代イギリス帝国史の基本的な事項が理解できており、文章で説明できていれば合格とする。 |
| | 方法 | 期末に実施する試験 60%、受講態度を 40%とし、受講態度は時折実施する小テストの結果、およびアンケートや感想文の提出状況で評価する。 |
| 備考 | | |

| 授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ） | | |
|-------------------------------------|-------------|-----|
| 教育課程の獲得目標 | レベルに応じた到達目標 | レベル |
| | | |
| | | |
| | | |

| | | |
|------------|--|--|
| 科目名 | 文化史概説 I | |
| 担当者 | 横山 政子 / YOKOYAMA, Masako | |
| 科目情報 | 人間文化<歴史地理> / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 2年次 | |
| | — | |
| 科目概要 | 授業内容 | 中国社会の特質に触れ、社会のあり方とその根底に流れる文化との関わりを考える。人口や民族、中国独特の制度の背景にある文化の歴史を学ぶ。 |
| | 到達目標 | 中国社会の特質について学び、社会を形作っている文化との関係を理解することが目標である。 |
| 授業計画 | (1) (1) 人口動態——人口の推移 (2) (1) 人口動態——出生率、高齢化社会 (3) (1) 人口動態——日本との比較 (4) (2) 多民族国家——漢民族と 55 の少数民族、民族政策 (5) (2) 多民族国家——現行紙幣にみる中国社会と言語 (6) (2) 多民族国家——多様な文化、消えゆく言語 (7) (3) 農村と都市——二元的戸籍制度 (8) (3) 農村と都市——戸籍制度と社会変容 (9) (4) 漢民族の伝統的家族制度——輩行、結婚 (10) (4) 漢民族の伝統的家族制度——養育、相続 (11) (5) 切手・紙幣にみる中国社会 1 (12) (5) 切手・紙幣にみる中国社会 2 (13) (6) 華僑と華人 1 (14) (6) 華僑と華人 2 (15) 総復習 | |
| 自学自習 | 事前学習 | 意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。 |
| | 事後学習 | 授業の内容を整理してプリントを完成させる。 |
| 使用教材・参考文献 | 使用教材 | 教科書は特に指定しない。講義中に配布するプリントを用いる。 |
| | 参考文献 | 必要に応じて講義中に紹介する。 |
| 成績評価の基準と方法 | 基準 | 中国社会の特質について理解し、自分の言葉でわかりやすく解説できれば合格とする。 |
| | 方法 | 受講態度 (50%)、期末試験 (50%)。受講態度には授業中に実施する小テストを含む。 |
| 備考 | | |

| 授業マトリクス上の位置づけ (科目が設置された学科、コースでの位置づけ) | | |
|--------------------------------------|-------------|-----|
| 教育課程の獲得目標 | レベルに応じた到達目標 | レベル |
| | | |
| | | |
| | | |

| | | |
|------------|--|--|
| 科目名 | 文化史概説Ⅱ | |
| 担当者 | 溝上 宏美 / MIZOKAMI, Hiromi | |
| 科目情報 | 人間文化<歴史地理> / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 2年次 | |
| | — | |
| 科目概要 | 授業内容 | 近現代イギリス史、イギリス帝国史を題材に、近代化や都市化と文化との関係、宗教、階級、ジェンダー、エスニシティと文化との関係を歴史的に概観し、文化とは何かについて検討する。 |
| | 到達目標 | イギリスを事例に近代社会が形成されていく過程を知ることで、社会の諸制度や異文化を深く理解できるようになるとともに、現代社会や自文化を客観的にとらえる視点を身につける。多様性や可変性、越境性を踏まえて文化を理解することができるようになる。 |
| 授業計画 | (1) 導入－文化とは何か？ (2) 文化史とは何か？（1） (3) 文化史とは何か？（2） (4) イギリス文化とは何か？－多様性と流動性 (5) 宗教とイギリス社会 (6) 「われら失いし世界」－工業化以前のイングランド社会と歴史人口学 (7) ジェントルマンであること－ヴィクトリア朝期の規範 (8) チャリティと近代イギリス (9) 帝国と食文化－紅茶と砂糖からみるイギリス史 (10) 余暇の成立と大衆娯楽－旅行と博覧会 (11) ジェンダーからみるイギリス近代（1） (12) ジェンダーからみるイギリス近代（2） (13) 帝国主義と「子ども」 (14) 帝国支配が遺したもの－多文化社会と歴史認識 (15) 総まとめ | |
| 自学自習 | 事前学習 | ・前回配布したプリントを見直して、流れを確認しておくこと。 |
| | 事後学習 | ・授業中に配布されたプリント、資料を見直し、わからない言葉を辞書や参考文献で調べるか、教員に聞くかして理解しておくこと。 |
| 使用教材・参考文献 | 使用教材 | 教科書は使用しない。授業中にプリントと資料を配布する。 |
| | 参考文献 | 指昭博編『はじめて学ぶイギリスの歴史と文化』（ミネルヴァ書房、2012年）他、適宜授業中に紹介する。 |
| 成績評価の基準と方法 | 基準 | 文化とは何かという問題、近代社会の特質、階級、ジェンダー、エスニシティの問題について理解できており、説明ができていれば合格とする。 |
| | 方法 | 期末に実施する試験が60%、受講態度を40%とする。受講態度は、時折実施する小テストの結果とアンケートや感想文の提出で評価する。 |
| 備考 | | |

| 授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ） | | |
|-------------------------------------|-------------|-----|
| 教育課程の獲得目標 | レベルに応じた到達目標 | レベル |
| | | |
| | | |
| | | |

| | | |
|------------|---|--|
| 科目名 | 社会史概説 I | |
| 担当者 | 鯨島 俊秀 / SAMEISHIMA, Toshihide | |
| 科目情報 | 人間文化<歴史地理> / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 2年次 | |
| | — | |
| 科目概要 | 授業内容 | 我々の生きている現代は人類の様々な営みの上に築かれたものである。毎回切り口となるテーマを変えて、生命の誕生から現代までの人類の軌跡を辿っていく。 |
| | 到達目標 | 過去から現在までの人類の軌跡を学ぶことにより、将来良き市民として、社会及び人類の未来に貢献できるに足る歴史的思考力及び判断力を養う。 |
| 授業計画 | (1) ガイダンス、人類と社会の誕生① (2) 人類と社会の誕生② (3) 日本人はどこから来たか① (4) 日本人はどこから来たか② (5) 日本人はどこから来たか③ (6) 文字・言葉・恋の「うた」 (7) 芸能を通して世の中を観る① (8) 芸能を通して世の中を観る② (9) 日本の「はじっこ」から観た幕末 (10) 宗教を通して世の中を観る (11) 朝鮮半島の話 (12) あるスポーツの誕生と伝播 (13) 「事実」と「真実」について① (14) 「事実」と「真実」について② (15) 「事実」と「真実」について② | |
| 自学自習 | 事前学習 | 日々発行される新聞を読む事を勧める |
| | 事後学習 | 講義を聴き、興味があった事項について各人のやり方で知識を深めることが望ましい |
| 使用教材・参考文献 | 使用教材 | 教科書は特に指定しない。講義時に配布するプリントを用いる。 |
| | 参考文献 | 参考文献は特に指定しない。 |
| 成績評価の基準と方法 | 基準 | 単なる知識の暗記ではなく、歴史的思考力及び歴史的判断力がそれぞれのレベルで身についたと認められる者は合格とする。 |
| | 方法 | テスト 60%、受講態度 20%、毎講義ごとのミニレポート 20% |
| 備考 | | |

| 授業マトリクス上の位置づけ (科目が設置された学科、コースでの位置づけ) | | |
|--------------------------------------|-------------|-----|
| 教育課程の獲得目標 | レベルに応じた到達目標 | レベル |
| | | |
| | | |
| | | |

| | | |
|------------|---|--|
| 科目名 | 社会史概説Ⅱ | |
| 担当者 | 田村 省三 / TAMURA, Shozo | |
| 科目情報 | 人間文化<歴史地理> / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 2年次 | |
| | — | |
| 科目概要 | 授業内容 | 南九州を長年統治してきた島津氏の歴史をたどることにより、南九州の歴史・文化を学ぶ。中世から近世に至るまでひとつのまとまった地域を統治し続けた大名家は稀であり、それだけに南九州は内政面・対外面・文化面のいずれにおいても他と異なった特色を持っている。また、南九州の地理的な環境もこれを促進した。日本史のみならず、世界史の視点からも概説する。 |
| | 到達目標 | 南九州の歴史・文化を学び、中世から近代までの通史やその特色を理解する。 |
| 授業計画 | (1) 序論・海洋史観とみなみ九州 (2) 島津氏の発祥と薩摩入り (3) 南北朝と島津氏 (4) 総州家・奥州家の対立と冬の時代 (5) 薩摩の文化興隆－薩南学派－ (6) 南九州の統一 (7) 豊臣秀吉と島津氏－文禄検地の意味－ (8) 島津義久と義弘－関が原合戦をとおして－ (9) 島津氏と海外交渉史 (10) 近世大名としての島津氏 (11) 大名家の文化と規式 (12) 徳川家と島津家の関係 (13) 島津重豪の開化政策 (14) 島津斉彬の近代化事業 (15) 総まとめ | |
| 自学自習 | 事前学習 | ・日本史の流れを前もって学習しておくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。 |
| | 事後学習 | ・教科書を読み返して理解を深めること。 |
| 使用教材・参考文献 | 使用教材 | 田村省三「尚古集成館－島津氏 800 年の収蔵－」尚古集成館 平成 18 年 |
| | 参考文献 | 川勝平太「文明の海洋史観」中公叢書 1997 年 ISBN4120027155 ほか |
| 成績評価の基準と方法 | 基準 | 南九州の歴史・文化の概要が理解できたものは合格とします。 |
| | 方法 | 受講態度と終了試験（レポート）によります。（受講態度 40%、終了試験 60%） |
| 備考 | | |

| 授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ） | | |
|-------------------------------------|-------------|-----|
| 教育課程の獲得目標 | レベルに応じた到達目標 | レベル |
| | | |
| | | |
| | | |

| | | |
|------------|---|--|
| 科目名 | 思想史概説 | |
| 担当者 | 新名 隆志 / NIINA, Takashi | |
| 科目情報 | 人間文化<歴史地理> / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 2年次 | |
| | — | |
| 科目概要 | 授業内容 | 現代の具体的な社会問題を倫理的観点から考察することにより、自由、平等、責任といった倫理的な価値思想の伝統を学ぶ。またそのような価値思想を再検討・再構成することにより、社会問題に対する新しい見方を開く。 |
| | 到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・現代の社会問題に対する倫理的アプローチを学ぶ。 ・自由、平等、責任などの倫理的価値思想の伝統を学ぶ。 ・価値思想や社会問題について自ら検討する力を身につける。 |
| 授業計画 | (1) 講義のガイダンス (2) 平等と差別 1 (3) 平等と差別 2 (4) 平等と差別 3 (5) 平等と差別 4 (6) 平等と差別 5 (7) 平等と差別 6 (8) 感情の倫理学 1 (9) 感情の倫理学 2 (10)感情の倫理学 3 (11)自由をめぐる諸問題 1 (12)自由をめぐる諸問題 2 (13)自由をめぐる諸問題 3 (14)自由をめぐる諸問題 4 (15)まとめ | |
| 自学自習 | 事前学習 | 講義中に指示する通りに前もって教科書を読んでおくこと。 |
| | 事後学習 | 講義内容に関する教科書の部分や参考書を読み、自分で考察を深めること。 |
| 使用教材・参考文献 | 使用教材 | 新名隆志・林大悟編『エシックス・センス——倫理学の目を開け』 ナカニシヤ出版 2013年 |
| | 参考文献 | 講義中に適宜紹介する。 |
| 成績評価の基準と方法 | 基準 | 講義内容をふまえた上で、倫理的価値の問題について自ら批判的検討を行い、主張を展開できること。 |
| | 方法 | テストあるいはレポート 70%、受講態度 30%。詳しくは講義中に説明する。 |
| 備考 | | |

| 授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ） | | |
|-------------------------------------|-------------|-----|
| 教育課程の獲得目標 | レベルに応じた到達目標 | レベル |
| | | |
| | | |
| | | |

| | | |
|------------|---|--|
| 科目名 | 日本史特論 | |
| 担当者 | 原口 泉 / HARAGUCHI, Izumi | |
| 科目情報 | 人間文化<歴史地理> / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 2年次 | |
| | — | |
| 科目概要 | 授業内容 | 東アジア諸国との関連を重視しながら雄藩の歴史を講義する。 |
| | 到達目標 | 近世・近代の諸論文の論点を理解できるようになる。 |
| 授業計画 | (1) はじめに (2) 史料に見る幕末・維新の雄藩と日本 (3) // (4) // (5) // (6) // (7) // (8) // (9) // (10) // (11) // (12) // (13) // (14) // (15)おわりに | |
| 自学自習 | 事前学習 | ・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。 |
| | 事後学習 | 配布資料の精読。 |
| 使用教材・参考文献 | 使用教材 | プリントを配布する。 |
| | 参考文献 | 原口泉ほか『鹿児島県の歴史』山川出版社 1999年 『鹿児島県の百年』山川出版社 2015年 |
| 成績評価の基準と方法 | 基準 | 講義および拙著の内容（論点）が理解された場合を合格とする。 |
| | 方法 | レポート（80%）および受講態度（20%）で判断する。 |
| 備考 | 年表や歴史地図持参。社会人の聴講、歓迎。 | |

| 授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ） | | |
|-------------------------------------|-------------|-----|
| 教育課程の獲得目標 | レベルに応じた到達目標 | レベル |
| | | |
| | | |
| | | |

| | | |
|------------|---|--|
| 科目名 | 歴史学特講 I | |
| 担当者 | 田村 省三 / TAMURA, Shozo | |
| 科目情報 | 人間文化<歴史地理> / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 2年次 | |
| | — | |
| 科目概要 | 授業内容 | 近代日本は、どのようにして始まったのか。近代とはどのような時代であったのか。現在数多くの研究者が多角的にこのテーマに取り組んでいる。一方、幕末の薩摩藩ではいち早く西欧の科学技術を受容し、製鉄・造船・紡績を中心とする「集成館事業」を推進し、日本の近代化のさきがけとなった。本講では「集成館事業」とその歴史的・文化的な背景や意味について学び、今日にのこされた近代化遺産についても学習する。 |
| | 到達目標 | 「集成館事業」の歴史的・文化的背景や内容、その意味を学び、日本の近代化に果たした役割を理解する。 |
| 授業計画 | (1) 序論・世界と薩摩 (2) 植民地主義とアジア (3) 薩摩藩の蘭学受容 (4) 島津重豪と天保の財政改革 (5) 島津斉彬の近代化政策 (6) 鋳砲事業と砲台の建設 (7) 「昇平丸」と蒸気船「雲行丸」の建造 (8) 写真・ガラス・紡績事業 (9) 木村嘉平と近代活字 (10) 集成館事業を支えた人々－蘭学者の系譜－ (11) 島津斉彬の死と薩英戦争 (12) 薩摩藩英国留学生とその後 (13) 薩摩の医学－高木兼寛を中心として－ (14) 集成館と西南戦争 (15) 総まとめ | |
| 自学自習 | 事前学習 | ・日本の近代史の流れを前もって学習しておくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。 |
| | 事後学習 | ・教科書を読み返して理解を深めること。 |
| 使用教材・参考文献 | 使用教材 | 松尾千歳「島津斉彬の集成館事業」尚古集成館 平成 15 年 |
| | 参考文献 | 尚古集成館編「島津斉彬の挑戦」尚古集成館 平成 15 年ほか |
| 成績評価の基準と方法 | 基準 | 「集成館事業」の概要と日本の近代史上の意義を理解したものは合格とします。 |
| | 方法 | 受講態度と終了試験（レポート）によります。（受講態度 40%、終了試験 60%） |
| 備考 | | |

| 授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ） | | |
|-------------------------------------|-------------|-----|
| 教育課程の獲得目標 | レベルに応じた到達目標 | レベル |
| | | |
| | | |
| | | |

| | | |
|------------|--|--|
| 科目名 | 歴史学特講Ⅲ | |
| 担当者 | 溝上 宏美 / MIZOKAMI, Hiromi | |
| 科目情報 | 人間文化<歴史地理> / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 2年次 | |
| | — | |
| 科目概要 | 授業内容 | イギリス帝国を題材に、移民や外国人といった「周縁」から国家や国民、市民権といった事柄を歴史的に検討する。 |
| | 到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・特定の歴史的事象について、専門的な知識に基づいて考えることができるようになる。 ・国境を越えたグローバルな観点から歴史をとらえることができるようになる。 ・近代という時代が現代社会に残した影響について理解し、現代社会を客観的にとらえることができるようになる。 |
| 授業計画 | (1) 導入ー「日本人であること」とは？ (1) (2) 導入ー「日本人であること」とは？ (2) (3) 移民大陸ヨーロッパの現状 (4) 近代国家と国民ー国籍法と市民権 (1) (5) 近代国家と国民ー国籍法と市民権 (2) (6) 「イギリス人」とは誰のこと？ー帝国と国籍法 (7) 19世紀までの「他者」ー帰化法と外国人の処遇 (8) 自治領と1914年イギリス国籍法 (9) 第二次世界大戦とイギリス帝国 (10)1948年イギリス国籍法の成立 (11)ウィンドラッシュ号来航の衝撃ー戦後移民の始まり (12)1962年英連邦移民法の成立 (13)'Keep Britain White!'ーさらなる規制へ (14)1981年イギリス国籍法の成立 (15)「イギリスらしさ」のゆくえ | |
| 自学自習 | 事前学習 | ・前回の授業で配布したプリント、資料に目を通して流れを確認しておくこと。 |
| | 事後学習 | <ul style="list-style-type: none"> ・授業中に配布したプリント、資料を読んで復習をしておくこと。 ・わからない言葉については、辞書や参考文献で調べておくこと。 ・紹介された参考文献に目を通しておくこと。 |
| 使用教材・参考文献 | 使用教材 | 教科書は使用しない。授業中にレジュメと資料を配布する。 |
| | 参考文献 | 授業中に適宜紹介する。 |
| 成績評価の基準と方法 | 基準 | 近代における帝国と国籍法との関係が理解できていること、移民や難民、人種摩擦、多文化社会の問題について、知識に基づいて自ら考えを述べられることを基準とする。 |
| | 方法 | 期末に提出するレポートが60%、受講態度を40%とする。受講態度については授業中に実施する小テストの結果や感想文の提出状況で評価する。 |
| 備考 | レポートについては、一度教員が添削をし、修正して再提出という形をとる。 | |

| 授業マトリクス上の位置づけ (科目が設置された学科、コースでの位置づけ) | | |
|--------------------------------------|-------------|-----|
| 教育課程の獲得目標 | レベルに応じた到達目標 | レベル |
| | | |
| | | |
| | | |

| | | |
|------------|--|---|
| 科目名 | 歴史学特講Ⅳ | |
| 担当者 | 藤内 哲也 / TONAI, Tetsuya | |
| 科目情報 | 人間文化<歴史地理> / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 2年次 | |
| | — | |
| 科目概要 | 授業内容 | 中近世ヨーロッパの日常生活：食と健康 日常生活の基本をなす食のあり方は、社会のしくみや文化のかたちと密接に関わるものであり、また食への関心は健康や長寿への願いにもつながっていきます。そこでこの講義では、とくにイタリアの都市社会の事例を中心として、食生活の特色や食料の生産・加工と流通・販売、あるいは食をめぐる規範やマナー、さらには健康や医療などに関わる諸問題を広くとりあげ、中近世ヨーロッパの日常生活の様子を再構成するとともに、その社会や文化の特質について考えていきます。 |
| | 到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・中近世ヨーロッパの食文化について理解する ・食という身近な視座から、ヨーロッパ・地中海世界の歴史や地域間交流のあり方について理解することができる ・歴史的な視点から、現代社会のさまざまな問題について考えることができる |
| 授業計画 | (1) 中近世ヨーロッパの食文化を問う視点 (2) ヨーロッパの風土と食文化 (3) パンとワイン (4) 中世ヨーロッパの食生活 (5) 食と社会階級 (6) 都市の食糧供給政策 (7) 食にかかわる職業 (8) 食をめぐる規範と文化 (9) 「コロンブスの交換」と近世ヨーロッパの食生活 (10) イタリアの食文化 (11) 『健康全書』の世界 (12) 飢餓と疫病 (13) 医師の養成と医学教育 (14) 医療の実践 (15) まとめと展望 | |
| 自学自習 | 事前学習 | <ul style="list-style-type: none"> ・参考文献を前もって読んでおくこと ・概説書などによって、ヨーロッパ史の知識を得ておくこと |
| | 事後学習 | <ul style="list-style-type: none"> ・講義内容を復習し、分からない事項については調べておくこと ・講義中に紹介する文献を読み、授業内容の理解を深めておくこと |
| 使用教材・参考文献 | 使用教材 | 講義中にレジュメ・資料を配布する |
| | 参考文献 | 授業中に紹介する |
| 成績評価の基準と方法 | 基準 | 到達目標および講義内容をふまえ、以下の2点について達成できたものを合格とします①講義に関するキーワードについて正しく説明できる②講義の主要なテーマについて論述することができる |
| | 方法 | 試験（100%） |
| 備考 | | |

| 授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ） | | |
|-------------------------------------|-------------|-----|
| 教育課程の獲得目標 | レベルに応じた到達目標 | レベル |
| | | |
| | | |
| | | |

| | | |
|------------|--|--|
| 科目名 | 歴史学特講Ⅴ | |
| 担当者 | 三浦 壮 / MIURA, So | |
| 科目情報 | 人間文化<歴史地理> / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 2年次 | |
| | — | |
| 科目概要 | 授業内容 | 1941年から1990年までの現代史について、主として経済の側面に焦点を当て講義する。 |
| | 到達目標 | 現代日本経済の構造について、歴史的背景をおさえながら理解すること。 |
| 授業計画 | (1) 日本現代史・イントロダクション (2) 戦時経済 1 (3) 戦時経済 2 (4) 占領・復興期の日本経済 1 (5) 占領・復興期の日本経済 2 (6) 占領・復興期の日本経済 3 (7) 高度成長 1 (8) 高度成長 2 (9) 高度成長 3 (10) 石油危機と高度成長の終焉 1 (11) 石油危機と高度成長の終焉 2 (12) 繁栄の 1980 年代 1 (13) 繁栄の 1980 年代 2 (14) バブル経済とその崩壊 1 (15) バブル経済とその崩壊 2 | |
| 自学自習 | 事前学習 | ・使用教材を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。 |
| | 事後学習 | 橋本寿朗他『現代日本経済』（有斐閣，2011年）〔図書館蔵〕 |
| 使用教材・参考文献 | 使用教材 | 教科書は特に指定しない。講義中に配布するプリント（ハンドアウト）を用いる。 |
| | 参考文献 | 時々小レポートの形で宿題を課す。 |
| 成績評価の基準と方法 | 基準 | 現代日本経済の概要がつかみとれた者は合格とします。授業の3分の1（5回以上）を欠席した者は自動的に不可となるので気をつけること。 |
| | 方法 | 試験 80 点＋小レポート 20 点，合計 100 点で評価する |
| 備考 | | |

| 授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ） | | |
|-------------------------------------|-------------|-----|
| 教育課程の獲得目標 | レベルに応じた到達目標 | レベル |
| | | |
| | | |
| | | |

| | | |
|------------|--|--|
| 科目名 | 法制史 | |
| 担当者 | 長谷川 史明 / HASEGAWA, Fumiaki | |
| 科目情報 | 人間文化<歴史地理> / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 2年次 | |
| | - | |
| 科目概要 | 授業内容 | 西洋法制史を扱う。特に古代ローマ法の歴史的発展について説明する。 |
| | 到達目標 | (1) 西洋法制史の概略に関する基礎的知識を習得する。 (2) 古代ローマ法の特質について、基本的な事項を理解する。 |
| 授業計画 | (1) この講義の概要説明 (2) 法制史とはなにか (3) 西洋法のながれ① (古代～中世) (4) 西洋法のながれ② (中世～近代) (5) 西洋法のながれ③ (近代～現代) (6) 大陸法とコモン・ロー① (7) 大陸法とコモン・ロー② (8) 古代ローマ法① (古代ローマの法観念) (9) 古代ローマ法② (十二表法) (10) 古代ローマ法③ (法務官法) (11) 古代ローマ法④ (市民法と万民法) (12) 古代ローマ法⑤ (法学者達の活動) (13) 古代ローマ法⑥ (ユースティニアヌスによる法典編纂事業) (14) 中世における《ローマ法の再発見》 (15) 総まとめ | |
| 自学自習 | 事前学習 | 【事前学習】 ・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。 【自学自習について】 自学自習（事前学習及び事後学習）とは、1回の講義につき、約4時間自分で学習する（予習復習する）ということです。15回講義があるので、合計約60時間となります。 60時間の学習を、たとえばすべて読書に置き換えると、1冊読むのに6時間かかる本を10冊読むということになります。 自学自習についての詳細は講義時間に説明します。 |
| | 事後学習 | 「事前学習」の箇所に記載した通りです。詳細は講義時間に説明します。 |
| 使用教材・参考文献 | 使用教材 | 講義時間に説明する。 |
| | 参考文献 | 講義時間に説明する。 |
| 成績評価の基準と方法 | 基準 | 西洋法制史の基本的な流れ及び古代ローマ法の特質について理解できたものは合格とする。 |
| | 方法 | 講義の内容理解に関する確認 20%、試験結果 80% |
| 備考 | 世界史（西洋史）の基礎知識を必要とする。関連する専門科目として、法思想史、法哲学、政治史、外国史概説などがある。 | |

| 授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ） | | |
|-------------------------------------|-------------|-----|
| 教育課程の獲得目標 | レベルに応じた到達目標 | レベル |
| | | |
| | | |
| | | |

| | | |
|------------|---|---|
| 科目名 | 政治史 | |
| 担当者 | 原 清一 / HARA, Seiichi | |
| 科目情報 | 人間文化<歴史地理> / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 2年次 | |
| | - | |
| 科目概要 | 授業内容 | この講義では、第二次世界大戦後の政治史を概観します。まず米国とソ連の冷戦について概説し、その後、冷戦下のアジアについて確認していきます。 |
| | 到達目標 | 講義では、米ソの冷戦や、朝鮮戦争、ベトナム戦争などの経緯や背景を説明していきます。戦後政治史の全体をつかみ、日本との関係を考え、これからの国際政治を理解するための素地を作ることが、この講義の目的です。 |
| 授業計画 | (1) オリエンテーション (2) 冷戦とは何か (3) 米ソ冷戦① (冷戦体制の確立) (4) 米ソ冷戦② (ベルリン危機) (5) 米ソ冷戦③ (キューバ危機とデタント) (6) 米ソ冷戦④ (核軍縮の動き) (7) 米ソ冷戦⑤ (キッシンジャー外交) (8) 米ソ冷戦⑥ (冷戦の終結とソ連崩壊) (9) アジアの冷戦① (冷戦下のアジア) (10) アジアの冷戦② (中華人民共和国の成立) (11) アジアの冷戦③ (朝鮮戦争) (12) アジアの冷戦④ (ベトナム戦争) (13) その他の地域紛争 (14) 冷戦後の世界 (15) 結論 | |
| 自学自習 | 事前学習 | 教科書や参考文献等の該当箇所を事前に読んだうえで、講義に出席してください。 |
| | 事後学習 | 教科書や参考文献、講義ノート等の該当箇所を読み返して、講義内容を確認してください。 |
| 使用教材・参考文献 | 使用教材 | 初回の講義で指示します。 |
| | 参考文献 | 佐々木卓也編『戦後アメリカ外交史 (新版)』有斐閣、2009年 佐々木卓也著『冷戦』有斐閣、2011年 村田晃嗣ほか著『国際政治学をつかむ』有斐閣、2009年 高坂正堯『現代の国際政治』講談社学術文庫、1989年 中西寛ほか著『国際政治学』有斐閣、2013年 田中明彦、中西寛編『新・国際政治経済の基礎知識 (新版)』有斐閣、2010年 |
| 成績評価の基準と方法 | 基準 | 講義内容がおおむね理解できていると判断されれば、単位が認定されます。 |
| | 方法 | 試験により評価します。教科書や参考文献からの長文引用、インターネットからの丸写しなど不誠実な答案是評価の対象外となり、単位は認定されません。 |
| 備考 | 講義中に私語をする学生の受講は認めません。学期を通じて注意を2回受けた学生については、試験を受けることができません。単位は認定されません。 | |

| 授業マトリクス上の位置づけ (科目が設置された学科、コースでの位置づけ) | | |
|--------------------------------------|-------------|-----|
| 教育課程の獲得目標 | レベルに応じた到達目標 | レベル |
| | | |
| | | |
| | | |

| | | |
|------------|--|---|
| 科目名 | 地理学概論 I | |
| 担当者 | 宗 建郎 / SOH, Tatsuroh | |
| 科目情報 | 人間文化<歴史地理> / 必修 / 前期 / 講義 / 2単位 / 2年次 | |
| | — | |
| 科目概要 | 授業内容 | ①地理学の基礎理論である立地論と②現代的問題への地理学的アプローチの二つのテーマについて、具体的な事例を交えながら解説します。 |
| | 到達目標 | ①立地論の考え方を理解し、②地理学の問題を理解することで、社会に対する地理学的視点を身につけることを目標とします。 |
| 授業計画 | (1) イントロダクション (2) 新しい地理学 (3) 農業立地論 (1) —チューネンの「孤立国」 (4) 農業立地論 (2) —農業立地論の応用 (5) 工業立地論 (1) —ウェーバーの工業立地論 (6) 工業立地論 (2) —工業立地の変化 (7) 商業立地論 (1) —クリスターラーの中心地理論 (8) 商業立地論 (2) —定期市の立地論 (9) 立地論のまとめ (10)多様な理論 (11)人口地理学 (12)農業地理学 (13)工業地理学 (14)歴史地理学 (15)総まとめ | |
| 自学自習 | 事前学習 | ・参考文献を事前に読んでおくこと。 ・意味のわからない用語については事前に調べておくこと。 |
| | 事後学習 | ・授業中に興味を持った内容について自ら調べてみること。 |
| 使用教材・参考文献 | 使用教材 | 教科書は特に使用しない。必要に応じて資料を配付します。 |
| | 参考文献 | 坂本英夫・浜谷正人編著『最近の地理学』大明堂，1985年。 |
| 成績評価の基準と方法 | 基準 | 立地論を説明できることと地理的問題を説明できることを基準とします。 |
| | 方法 | 試験 80%，受講態度 20%で評価します。 |
| 備考 | | |

| 授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ） | | |
|-------------------------------------|-------------|-----|
| 教育課程の獲得目標 | レベルに応じた到達目標 | レベル |
| | | |
| | | |
| | | |

| | | |
|------------|--|---|
| 科目名 | 地理学概論Ⅱ | |
| 担当者 | 宗 建郎 / SOH, Tatsuroh | |
| 科目情報 | 人間文化<歴史地理> / 必修 / 後期 / 講義 / 2単位 / 2年次 | |
| | — | |
| 科目概要 | 授業内容 | 都市の内部構造について既存の研究と具体的な事例の両面からお話しします。近代から現代の都市がどのように形成されるのかをとらえるための考え方についてお話しします。 |
| | 到達目標 | 都市形成の理論を理解することで、都市の形態と社会の変化の関係について考えることができるようになることを目標とします。 |
| 授業計画 | (1) イントロダクション (2) 都市の内部構造 (3) 社会地区分析 (4) 因子生態分析 (5) 居住分化の理論—トレード・オフ (6) 居住分化の理論—バージェスとホイット (7) 居住分化の理論—D. ハーヴェイ 1 (8) 居住分化の理論—D. ハーヴェイ 2 (9) 都市形成の力学 (10) マルクス主義地理学と都市 1 (11) マルクス主義地理学と都市 2 (12) 人文主義地理学と都市 (13) インナーシティ問題 (14) ジェントリフィケーション (15) まとめ | |
| 自学自習 | 事前学習 | ・参考文献を事前に読んでおくこと。 ・意味のわからない用語については事前に調べておくこと。 |
| | 事後学習 | ・授業中に興味を持った内容について自ら調べてみること。 |
| 使用教材・参考文献 | 使用教材 | 教科書は特に使用しない。必要に応じて資料を配付します。 |
| | 参考文献 | P. ノックス・S. ピンチ『新版 都市社会地理学』古今書院, 2005年. |
| 成績評価の基準と方法 | 基準 | 都市形成の理論と用語を説明できることを基準とします。 |
| | 方法 | 試験 80%, 受講態度 20%で評価します。 |
| 備考 | | |

| 授業マトリクス上の位置づけ (科目が設置された学科、コースでの位置づけ) | | |
|--------------------------------------|-------------|-----|
| 教育課程の獲得目標 | レベルに応じた到達目標 | レベル |
| | | |
| | | |
| | | |

| | | |
|------------|--|---|
| 科目名 | 地誌学 I | |
| 担当者 | 宗 建郎 / SOH, Tatsuroh | |
| 科目情報 | 人間文化<歴史地理> / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 2年次 | |
| | — | |
| 科目概要 | 授業内容 | 地域を総合的に捉える地誌学とはどのようなものかについて①基礎知識, ②地域調査の手法, ③具体的事例の三つのステップで解説します。 |
| | 到達目標 | 地誌学の基礎を理解し, 地域調査法の簡単な手法を利用することができるようになることを目標とします。 |
| 授業計画 | (1) イントロダクション (2) 地誌学の流れ (3) 地域あるいは風土 1 (4) 地域あるいは風土 2 (5) 地域調査法—統計 (6) 地域調査法—多変量解析 1 (7) 地域調査法—多変量解析 2 (8) 地域調査法—多変量解析 3 (9) 地域調査法—空中写真 (10) 地域調査法—主題図作成 1 (11) 地域調査法—主題図作成 2 (12) 地域調査法—主題図作成 3 (13) 地域を見る—日本と九州 (14) 地域を見る—鹿児島 (15) まとめ | |
| 自学自習 | 事前学習 | ・参考文献を事前に読んでおくこと。 ・意味のわからない用語については事前に調べておくこと。 |
| | 事後学習 | ・授業中に興味を持った内容について自ら調べてみること。 |
| 使用教材・参考文献 | 使用教材 | 教科書は特に使用しない。必要に応じて資料を配付します。 |
| | 参考文献 | 中村和郎・岩田修二編『地誌学を考える』古今書院, 1986年。 |
| 成績評価の基準と方法 | 基準 | 地誌学の用語と考え方について説明できることと地域調査法の利用法を理解していることを基準とします。 |
| | 方法 | 試験 50%, 授業内課題 30%, 受講態度 20%で評価します。 |
| 備考 | 授業内で簡単な作業を行います。詳細は必要に応じて指示します。授業の進展状況に応じて内容を修正しながら進めることがあります。 | |

| 授業マトリクス上の位置づけ (科目が設置された学科、コースでの位置づけ) | | |
|--------------------------------------|-------------|-----|
| 教育課程の獲得目標 | レベルに応じた到達目標 | レベル |
| | | |
| | | |
| | | |

| | | |
|------------|--|--|
| 科目名 | 地誌学Ⅱ | |
| 担当者 | 宗 建郎 / SOH, Tatsuroh | |
| 科目情報 | 人間文化<歴史地理> / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 2年次 | |
| | — | |
| 科目概要 | 授業内容 | 地域を総合的にとらえる視点について、①文献の活用、②地図の活用という観点から具体的な事例をふまえてお話しします。 |
| | 到達目標 | 地域について、文献や地図を活用して調査をする基礎的な方法を身につける。 |
| 授業計画 | (1) イントロダクション (2) 文献に見る地域の姿 1 (3) 文献に見る地域の姿 2 (4) 文献に見る地域の姿 3 (5) 統計に見る地域の姿 (6) GIS とは (7) 統計による主題図の作成 1 (8) 統計による主題図の作成 2 (9) 統計による主題図の作成 3 (10) 地図に見る地域の姿 (11) 地図をつくる 1 (12) 地図をつくる 2 (13) 地図をつくる 3 (14) 地図・図表を用いたプレゼンテーション (15) まとめ | |
| 自学自習 | 事前学習 | ・参考文献を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。 |
| | 事後学習 | 地域調査の手法について復習しておくこと。 |
| 使用教材・参考文献 | 使用教材 | 教科書は特に指定しない。必要に応じてプリントを配布します。 |
| | 参考文献 | 今村洋大編著『Quantum GIS 入門』古今書院, 2013. |
| 成績評価の基準と方法 | 基準 | 文献、地図を用いた地域調査法が身に付いている事を基準とします。 |
| | 方法 | レポート 50%、授業内課題 30%、受講態度 20% |
| 備考 | 授業の中で実際に作業を行います。 | |

| 授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ） | | |
|-------------------------------------|-------------|-----|
| 教育課程の獲得目標 | レベルに応じた到達目標 | レベル |
| | | |
| | | |
| | | |

| | | |
|------------|---|---|
| 科目名 | 都市と自然環境 | |
| 担当者 | 宗 建郎 / SOH, Tatsuroh | |
| 科目情報 | 人間文化<歴史地理> / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 2年次 | |
| | — | |
| 科目概要 | 授業内容 | この講義は都市の成立，発達，都市生活と自然環境の関係についてお話しします。都市の立地や都市システムから都市の歴史，地域性，環境変化と災害などについて解説します。 |
| | 到達目標 | ①都市の歴史や地域性を学ぶことで，その自然的特徴との関係を論述できることと， ②都市の環境変化と都市生活についての関係について論述できることを目標とします。 |
| 授業計画 | (1) イントロダクション (2) 都市とは (3) 都市の立地 (4) 都市システム (5) 九州の都市システム (6) 都市の成立—古代・中世の都市 (7) 都市の成立—近世城下町 (8) 近代化と都市（1） (9) 近代化と都市（2） (10)近代化と都市（3） (11)自然条件と都市 (12)都市と災害（1） (13)都市と災害（2） (14)都市と災害（3） (15)まとめ | |
| 自学自習 | 事前学習 | ・参考文献を事前に読んでおくこと。 ・意味のわからない用語については事前に調べておくこと。 |
| | 事後学習 | ・授業中に興味を持った内容について自ら調べてみること。 |
| 使用教材・参考文献 | 使用教材 | 教科書は特に使用しない。必要に応じて資料を配付します。 |
| | 参考文献 | 参考文献は授業中に適宜紹介します。 |
| 成績評価の基準と方法 | 基準 | 都市の立地と発達について自然環境をふまえて説明できることと都市の環境変化の持つ問題点を理解していることを基準とします。 |
| | 方法 | 試験 80%，受講態度 20%で評価します。 |
| 備考 | | |

| 授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ） | | |
|-------------------------------------|-------------|-----|
| 教育課程の獲得目標 | レベルに応じた到達目標 | レベル |
| | | |
| | | |
| | | |

| | | |
|------------|--|--|
| 科目名 | 考古学概説 | |
| 担当者 | 竹中 正巳 / TAKENAKA, Masami | |
| 科目情報 | 人間文化<歴史地理> / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 2年次 | |
| | 学芸員科目 / 選択 | |
| 科目概要 | 授業内容 | 考古学の学問的な特徴、研究方法について述べた後、人類誕生から近代までを時代ごとに考古学の面から解説する。実際の発掘調査の事例や古人骨から復元した当時の人々の顔かたちや体つき、生業、社会、文化、習慣なども紹介していく。 |
| | 到達目標 | 過去に暮らした人々が残した遺構・遺物から人々の生活、文化、社会を学び、考古学の概要を広く理解する。 |
| 授業計画 | (1) 考古学の特徴 (2) 考古学の研究方法 (3) 人類誕生から旧石器時代まで (4) 人類誕生から旧石器時代まで (5) 縄文時代 (6) 縄文時代 (7) 弥生時代 (8) 弥生時代 (9) 古墳時代 (10) 古墳時代 (11) 歴史時代 (12) 歴史時代 (13) 古人骨研究に基づく日本人の成り立ち (14) 発掘調査の実際 (15) 総まとめ | |
| 自学自習 | 事前学習 | ・授業で紹介する「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。 |
| | 事後学習 | ・授業で紹介した「参考文献・参考図書」を再度読むこと。 |
| 使用教材・参考文献 | 使用教材 | 教科書は特に指定しない。 |
| | 参考文献 | 適宜紹介する。 |
| 成績評価の基準と方法 | 基準 | 到達目標を踏まえて、考古学の概要ができたと確認できた場合、合格とする。 |
| | 方法 | レポート（80点）、受講態度（20点）。 |
| 備考 | | |

| 授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ） | | |
|-------------------------------------|-------------|-----|
| 教育課程の獲得目標 | レベルに応じた到達目標 | レベル |
| | | |
| | | |
| | | |

| | | |
|------------|--|--|
| 科目名 | 民俗学概説 | |
| 担当者 | 森田 清美 / MORITA, Kiyomi | |
| 科目情報 | 人間文化<歴史地理> / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 2年次 | |
| | 学芸員科目 / 選択 | |
| 科目概要 | 授業内容 | 人々の民俗伝承を比較して、それをダイナミックに分析することにより生活文化の変容を明らかにし、人々の生き方を問う。そのうえで、老人や幼児への虐待・老人への詐欺、隣人愛の喪失・パワーハラ・ブラック企業・医療・介護などの諸問題を解決していくことを目指す。 |
| | 到達目標 | 日本人の伝統文化・こころを理解する。そのことにより、現代社会の国内、国外の諸問題解決への対処・対応の仕方を知ることが出来る。そのうえで社会へ貢献する意欲と能力を身につける。 |
| 授業計画 | (1) 民俗学とは何か（現代社会における民俗学の視点と応用） (2) 環境民俗学（家と村・町における民俗学・境界の民俗学も含む） (3) 人びとの生業（農業・漁業・諸職、建築儀礼など。魅力ある農水産業とは何か、起業起業意欲への応援と促進） (4) 年中行事の意味（正月・盆・彼岸・講・入学式・学園祭など） (5) 誕生・成人式・結婚・厄年などの問題（人生儀礼Ⅰ） (6) 生と死の意味を医療民俗学などを通して考える。（人生儀礼Ⅱ） (7) 健康・病気・医療を医療民俗学的に考える（病気とは何か） (8) 修験道と呪術者から見る日本宗教（民間信仰・民俗宗教Ⅰ） (9) シャーマニズムと「隠れ念仏」（民俗宗教Ⅲ） (10) 民俗芸能の保存と魅力（太鼓踊などの伝統芸能と観光資源） (11) 今でも生きている昔話と伝説・ことわざ (12) 妖怪と幽霊の民俗学的魅力 (13) 過疎の民俗・都市の民俗（地方崩壊への対処） (14) 医療と介護の民俗（医療や介護を受ける側から） (15) 総まとめ（現代民俗学の行方と社会への貢献について） | |
| 自学自習 | 事前学習 | 毎回の授業を受けるにあたって、事前に予習しておくべき事項 ・「使用教材」・「参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味の分からない用語は、民俗学事典などで事前に調べておくこと。 |
| | 事後学習 | 授業後に課す課題の概要、および次回まで復習すべき事項 ・3回おきに、小レポートを課す。 ・授業の初めに、前回学んだことに対する質問を課す。 |
| 使用教材・参考文献 | 使用教材 | 授業ごとにプリント（小冊子）を次回の分まで配布する。 |
| | 参考文献 | ・福田アジオ・宮田登『日本民俗学概論』吉川弘文館 ・谷口貢・板橋春夫編『日本人の一生』八千代書房 ・西海賢二など編『日本の霊山読み解き事典』柏書房（南九州・沖縄は森田清美担当） |
| 成績評価の基準と方法 | 基準 | 総合的に、到達目標を踏まえて、民俗学の理解が深まり、民俗社会に貢献する心構えが出来た者を合格とする。 |
| | 方法 | 平常点（授業態度・出席 20点・レポート（20点）・期末試験（60点） |
| 備考 | 希望により民俗学巡検（民俗芸能・民俗行事見学・民俗調査調査）を実施。積極的に参加して欲しい（「まつり」を見に行こう）。 | |

| 授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ） | | |
|-------------------------------------|-------------|-----|
| 教育課程の獲得目標 | レベルに応じた到達目標 | レベル |
| | | |
| | | |
| | | |

| | | |
|------------|--|--|
| 科目名 | 歴史学演習 I | |
| 担当者 | 原口 泉 / HARAGUCHI, Izumi | |
| 科目情報 | 人間文化<歴史地理> / 選択 / 前期 / 演習 / 2単位 / 2年次 | |
| | — | |
| 科目概要 | 授業内容 | 日本近代政治・経済に関する史料を読み、国際社会の中での日本の歴史の理解を深める。 |
| | 到達目標 | 基本史料を読み、古文書の読解力を養うと共に、テーマにそくして発表できる能力を身につけることを目指す。 |
| 授業計画 | (1) はじめに (2) 近代史料 (3) // (4) // (5) // (6) // (7) // (8) // (9) // (10) // (11) // (12) // (13) // (14) // (15)まとめ～明治維新と産業革命～ | |
| 自学自習 | 事前学習 | ・配布プリントを前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で調べておくこと。 |
| | 事後学習 | 配布プリントの精読。 |
| 使用教材・参考文献 | 使用教材 | プリントを配布する。 |
| | 参考文献 | 『日本史史料』〔4〕近代 歴史学研究会編 岩波書店 |
| 成績評価の基準と方法 | 基準 | 演習への取組、発表、レポート作成等による。 |
| | 方法 | レポート（80%）および受講態度（20%）で判断する。 |
| 備考 | 年表、歴史地図必携。社会人、歓迎。 | |

| 授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ） | | |
|-------------------------------------|-------------|-----|
| 教育課程の獲得目標 | レベルに応じた到達目標 | レベル |
| | | |
| | | |
| | | |

| | | |
|------------|--|--|
| 科目名 | 歴史学演習Ⅱ | |
| 担当者 | 溝上 宏美 / MIZOKAMI, Hiromi | |
| 科目情報 | 人間文化<歴史地理> / 選択 / 前期 / 演習 / 2単位 / 3年次 | |
| | — | |
| 科目概要 | 授業内容 | 小グループにわかれて、特定の歴史的イベントについて調査、報告し、議論する。その分野に関する先行研究を探し、参考文献や論文の議論の枠組みを紹介する。 |
| | 到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> 他の学生と協力して、調査、報告ができるようになる。 特定の事柄に関する文献や資料を探ることができるようになる。 入手した文献や資料を整理し、その内容を分かりやすく報告できるようになる。 レジュメやパワーポイントを用いて、報告資料を適切に作成できるようになる。 他の人の報告を聞いて、質問やコメントをし、議論できるようになる。 |
| 授業計画 | (1) オリエンテーションとグループ分け (2) 参考文献を探すために (3) 課題の決定 (4) グループ調査 (1) (5) グループ調査 (2) (6) 概要の報告と討論 (7) 参考文献リストの作成 (8) グループ調査 (3) (9) グループ調査 (4) (10) 参考文献の議論の報告と討論 (11) 論文の探し方と読み方について (12) グループ調査 (5) (13) グループ調査 (6) (14) 論文の概要報告と討論 (15) 論文の概要報告と討論 | |
| 自学自習 | 事前学習 | <ul style="list-style-type: none"> 報告に向けて、参考文献を収集し、読んで整理しておくこと。 報告に向けて、レジュメやパワーポイントを作成すること。 |
| | 事後学習 | <ul style="list-style-type: none"> 報告の際に指摘された課題や問題点を解決しておくこと。 他の人の報告で理解できなかったところがあった場合は、辞書、参考文献などで調べておくこと。 |
| 使用教材・参考文献 | 使用教材 | 教科書は使用しない。レジュメや資料は報告者が準備する。 |
| | 参考文献 | 参考文献は自ら探すこと。 |
| 成績評価の基準と方法 | 基準 | 適切な文献や資料が収集できており、その内容を整理して報告できていること、他の人の報告の際に積極的に参加できていることを評価の基準とする。 |
| | 方法 | 受講態度 60%、期末に提出するレポートを 40%とする。受講態度は、報告への取り組み方、報告の出来、議論への参加状況で評価する。 |
| 備考 | | |

| 授業マトリクス上の位置づけ (科目が設置された学科、コースでの位置づけ) | | |
|--------------------------------------|-------------|-----|
| 教育課程の獲得目標 | レベルに応じた到達目標 | レベル |
| | | |
| | | |
| | | |

| | | |
|------------|---|--|
| 科目名 | 歴史学演習Ⅲ | |
| 担当者 | 原口 泉 / HARAGUCHI, Izumi | |
| 科目情報 | 人間文化<歴史地理> / 選択 / 後期 / 演習 / 2単位 / 2年次 | |
| | — | |
| 科目概要 | 授業内容 | 日本史研究の基本となる古文書や古記録等の基礎史料を読み、日本や郷土の理解を深める。 |
| | 到達目標 | 基礎史料を読むことで、歴史の理解や楽しさを知ると共に、各自が研究テーマを設定し、発表できる能力を身につけることを目指す。 |
| 授業計画 | (1) はじめに (2) 近世史料論読 (3) // (4) // (5) // (6) // (7) // (8) // (9) // (10) // (11) // (12) // (13) // (14) // (15)まとめ ～近世社会の特質～ | |
| 自学自習 | 事前学習 | 配布プリントを前もって読んでおくこと。 |
| | 事後学習 | 配布プリントの復讐。 |
| 使用教材・参考文献 | 使用教材 | プリントを配布する。 |
| | 参考文献 | 『日本史史料』〔3〕近世 歴史学研究会編 岩波書店 |
| 成績評価の基準と方法 | 基準 | 演習への取組、口頭発表、レポート作成等による。 |
| | 方法 | レポート（80%）および受講態度（20%）で判断する。 |
| 備考 | 年表・歴史地図必携。社会人、歓迎。 | |

| 授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ） | | |
|-------------------------------------|-------------|-----|
| 教育課程の獲得目標 | レベルに応じた到達目標 | レベル |
| | | |
| | | |
| | | |

| | | |
|------------|---|---|
| 科目名 | 歴史学演習Ⅳ | |
| 担当者 | 溝上 宏美 / MIZOKAMI, Hiromi | |
| 科目情報 | 人間文化<歴史地理> / 選択 / 後期 / 演習 / 2単位 / 3年次 | |
| | — | |
| 科目概要 | 授業内容 | 戦争や領土争いなど過去をめぐって複数の国や地域が対立している事柄を選び、その問題についてバランスのとれた歴史記述（共通教科書）を作成する。 |
| | 到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・他の学生と協力し、最終成果物を作成できる。 ・特定の事柄について、参考文献や資料を収集し、整理して、口頭で報告できるようになる。 ・報告や最終成果物の作成に必要な資料を作成できるようになる。 ・異なる歴史認識が存在することを踏まえて、それぞれの主張や意見が対立している点を客観的に説明できるようになる。 |
| 授業計画 | (1) オリエンテーション「共通教科書とは」 (2) グループ分けと課題決定に向けた話し合い (3) 課題決定及び参考文献の探し方について (4) グループ調査（1） (5) グループ調査（2） (6) 現状報告 (7) グループ調査（3） (8) グループ調査（4） (9) 現状報告 (10) グループ調査（5） (11) グループ調査（6） (12) 現状報告 (13) 「共通教科書」の作成 (14) 「共通教科書」の作成 (15) 最終報告 | |
| 自学自習 | 事前学習 | <ul style="list-style-type: none"> ・成果物の作成に向けて、参考文献を収集、整理しておく。 ・成果物の作成、報告に必要な資料を作成する。 |
| | 事後学習 | ・報告の際に指摘された問題点を解決しておく。 |
| 使用教材・参考文献 | 使用教材 | 教科書は使用しない。レジュメ、資料は報告者が準備すること。 |
| | 参考文献 | 教員の助言の下、参考文献は自ら探すこと。 |
| 成績評価の基準と方法 | 基準 | 成果物の完成に向けて協力して必要な作業ができているか、歴史認識の対立するところについて、客観的に整理し、わかりやすく説明できているかを基準とする。 |
| | 方法 | 授業中の報告、作業への参加状況など受講態度 60%、最終成果物 40%で評価する。 |
| 備考 | | |

| 授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ） | | |
|-------------------------------------|-------------|-----|
| 教育課程の獲得目標 | レベルに応じた到達目標 | レベル |
| | | |
| | | |
| | | |

| | | |
|------------|--|--|
| 科目名 | 歴史学演習V | |
| 担当者 | 横山 政子 / YOKOYAMA, Masako | |
| 科目情報 | 人間文化<歴史地理> / 選択 / 前期 / 演習 / 2単位 / 3年次 | |
| | — | |
| 科目概要 | 授業内容 | 卒業論文の作成に向けて、レポートと論文の違いを理解したうえで、テーマを決めて論文作成の練習を行う。 |
| | 到達目標 | 論文の書き方（作法）を習得する。自らの興味関心からテーマを決めて考察し、発表することができ、また発表者に意見やアドバイスをするなど、互いに学び合いながらレベルアップできることが目標である。 |
| 授業計画 | (1) 導入 (2) 論文の書き方（作法）について (3) 発表と質疑応答、意見交換① (4) 発表と質疑応答、意見交換② (5) 発表と質疑応答、意見交換③ (6) 発表と質疑応答、意見交換④ (7) 発表と質疑応答、意見交換⑤ (8) 発表と質疑応答、意見交換⑥ (9) 発表と質疑応答、意見交換⑦ (10) 発表と質疑応答、意見交換⑧ (11) 発表と質疑応答、意見交換⑨ (12) 発表と質疑応答、意見交換⑩ (13) 発表と質疑応答、意見交換⑪ (14) 発表と質疑応答、意見交換⑫ (15) 総括 | |
| 自学自習 | 事前学習 | レジュメ作成、口頭発表の練習などの準備をする。 |
| | 事後学習 | 質問・意見を参考に、レジュメを修正して考察を深める。 |
| 使用教材・参考文献 | 使用教材 | 教科書は特に指定しない。講義中に配布するプリントを用いる。 |
| | 参考文献 | 必要に応じて講義中に紹介する。 |
| 成績評価の基準と方法 | 基準 | 見やすいレジュメを作成し、わかりやすく順序立てて発表することができる。また発表を聞いて質問・意見を述べるなど、考察を深めることができたものは合格とする。 |
| | 方法 | 発表（40%）、受講態度（20%）、レポート（40%）。 |
| 備考 | | |

| 授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ） | | |
|-------------------------------------|-------------|-----|
| 教育課程の獲得目標 | レベルに応じた到達目標 | レベル |
| | | |
| | | |
| | | |

| | | |
|------------|---|--|
| 科目名 | 歴史学演習VI | |
| 担当者 | 横山 政子 / YOKOYAMA, Masako | |
| 科目情報 | 人間文化<歴史地理> / 選択 / 後期 / 演習 / 2単位 / 3年次 | |
| | — | |
| 科目概要 | 授業内容 | 卒業論文にむけて、先行研究の整理（テーマの設定と参考文献の収集）について理解を深め、レジюмеを作成する。各自のテーマと考察を発表し、互いに批評しあう。 |
| | 到達目標 | 自らのテーマを設定して、先行研究の整理ができる。そして資料を提示して考察し発表することを通して論文作成の基本を習得し、卒業論文へとつなげていくことが目標である。 |
| 授業計画 | (1) 導入 (2) 先行研究の整理（テーマの設定と参考文献の収集）について (3) 発表と相互批評、意見交換① (4) 発表と相互批評、意見交換② (5) 発表と相互批評、意見交換③ (6) 発表と相互批評、意見交換④ (7) 発表と相互批評、意見交換⑤ (8) 発表と相互批評、意見交換⑥ (9) 発表と相互批評、意見交換⑦ (10) 発表と相互批評、意見交換⑧ (11) 発表と相互批評、意見交換⑨ (12) 発表と相互批評、意見交換⑩ (13) 発表と相互批評、意見交換⑪ (14) 発表と相互批評、意見交換⑫ (15) 総括 | |
| 自学自習 | 事前学習 | レジюме作成、口頭発表の練習などの準備をする。 |
| | 事後学習 | 質問・意見を参考に、レジюмеを修正して考察を深める。 |
| 使用教材・参考文献 | 使用教材 | 教科書は特に指定しない。講義中に配布するプリントを用いる。 |
| | 参考文献 | 必要に応じて講義中に紹介する。 |
| 成績評価の基準と方法 | 基準 | テーマを決めて先行研究を整理し、資料を分析して発表することができる。また発表を聞いて質問・意見を述べるなど、考察を深めることができたものは合格とする。 |
| | 方法 | 発表（40%）、受講態度（20%）、レポート（40%）。 |
| 備考 | | |

| 授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ） | | |
|-------------------------------------|-------------|-----|
| 教育課程の獲得目標 | レベルに応じた到達目標 | レベル |
| | | |
| | | |
| | | |

| | | |
|------------|--|---|
| 科目名 | 野外環境演習 | |
| 担当者 | 宗 建郎 / SOH, Tatsuroh | |
| 科目情報 | 人間文化<歴史地理> / 選択 / 後期 / 演習 / 2単位 / 3年次 | |
| | — | |
| 科目概要 | 授業内容 | 本演習は野外に赴き，自然環境と人間社会の関係を实地に学ぶことを目的としています。受講者は論文を読み，課題を設定し，事前調査を行った上で巡検当日に現地で発表と調査を行い，それをまとめます。 |
| | 到達目標 | ①野外巡検で精力的に活動できること，②文献調査を行いまとめることができるようになること，③現地調査を行い，口頭発表できるようになることを目標とします。 |
| 授業計画 | (1) ガイダンス (2) 受講者による論文紹介① (3) 受講者による論文紹介② (4) 事前調査① (5) 事前調査② (6) 事前調査③ (7) 調査資料作成 (8) 巡検① (9) 巡検② (10)巡検③ (11)巡検④ (12)巡検⑤ (13)受講者による口頭発表① (14)受講者による口頭発表② (15)まとめ | |
| 自学自習 | 事前学習 | ・参考文献を事前に読んでおくこと。 ・意味のわからない用語については事前に調べておくこと。 |
| | 事後学習 | ・必要な作業，調査を行うこと。 |
| 使用教材・参考文献 | 使用教材 | 教科書は特に使用しない。必要に応じて資料を配付します。 |
| | 参考文献 | 参考文献は授業中に適宜紹介します。 |
| 成績評価の基準と方法 | 基準 | 内容よりも事前調査や野外調査において積極的に活動できるかを重視して評価します。 |
| | 方法 | 論文発表 20%，事前調査 20%，巡見参加 20%，口頭発表 40%を目安とします。 |
| 備考 | 授業の進展に応じて内容を修正しながら進めていきます。 | |

| 授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ） | | |
|-------------------------------------|-------------|-----|
| 教育課程の獲得目標 | レベルに応じた到達目標 | レベル |
| | | |
| | | |
| | | |

| | | |
|------------|--|---|
| 科目名 | 地誌学演習 I | |
| 担当者 | 宗 建郎 / SOH, Tatsuroh | |
| 科目情報 | 人間文化<歴史地理> / 選択 / 前期 / 演習 / 2単位 / 3年次 | |
| | — | |
| 科目概要 | 授業内容 | 本演習は地域調査の実践を通じて地域を理解する能力を向上する事を目的とします。そのため受講者は論文を読み、課題を設定し、事前調査を行った上で巡検当日に現地で発表と調査を行い、それをまとめます。 |
| | 到達目標 | ①巡検で積極的に活動できること、②文献調査を行いまとめることができるようになること、③現地調査を行い、口頭発表できるようになることを目標とします。 |
| 授業計画 | (1) ガイダンス (2) 受講者による論文紹介① (3) 受講者による論文紹介② (4) 事前調査① (5) 事前調査② (6) 事前調査③ (7) 調査資料作成 (8) 巡検① (9) 巡検② (10)巡検③ (11)巡検④ (12)巡検⑤ (13)受講者による口頭発表① (14)受講者による口頭発表② (15)まとめ | |
| 自学自習 | 事前学習 | ・参考文献を事前に読んでおくこと。 ・意味のわからない用語については事前に調べておくこと。 |
| | 事後学習 | ・必要な作業，調査を行うこと。 |
| 使用教材・参考文献 | 使用教材 | 教科書は特に使用しない。必要に応じて資料を配付します。 |
| | 参考文献 | 参考文献は授業中に適宜紹介します。 |
| 成績評価の基準と方法 | 基準 | 内容よりも事前調査や野外調査において積極的に活動できるかを重視して評価します。 |
| | 方法 | 論文発表 20%，事前調査 20%，巡見参加 20%，口頭発表 40%を目安とします。 |
| 備考 | 授業の進展に応じて内容を修正しながら進めていきます。 | |

| 授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ） | | |
|-------------------------------------|-------------|-----|
| 教育課程の獲得目標 | レベルに応じた到達目標 | レベル |
| | | |
| | | |
| | | |

| | | |
|------------|---|---|
| 科目名 | 民俗学演習 | |
| 担当者 | 町 泰樹 / MACHI, Taiki | |
| 科目情報 | 人間文化<歴史地理> / 選択 / 後期 / 演習 / 2単位 / 2年次 | |
| | — | |
| 科目概要 | 授業内容 | 本演習では、学生が主体的に民俗事象の調査・研究を行えるようになることを目的とする。そのために、学生には、民俗調査に必要な「読む・見る・聞く」、そして「書く」という4つの能力を、文献の購読や観察実習を通して体系的に修得し、実際に民俗行事の巡検において、それらの力を実地で活用することを求める。同時に、学生は、関心のある民俗事象について調べ物学習を行い、その成果を授業中に発表する。これにより、主体的に学習する力を獲得させる。 |
| | 到達目標 | 学習者は、文献検索および引用方法について学び、学術的な記述ができるようになる。学習者は、観察実習を通して民俗調査における観察の重要性を理解するとともに、実際の民俗行事の巡検を通して、それに関する観察にもとづく記述ができるようになる。学習者は、自らが設定したテーマに沿って調べ物学習を行うことで、主体的に学習し、課題を解決する方法を習得できるようになる。 |
| 授業計画 | (1) オリエンテーション (2) 文献検索・ネット利用に関する講習と実習 (3) 文献のまとめ方に関する講習と実習 (4) 黎明館見学 (5) 個別テーマの学習計画発表会 (1) (6) 個別テーマの学習計画発表会 (2) (7) 観察実習 (1) ～日常の一コマを切り取る～ (8) 観察実習 (2) ～フィールドノート発表会～ (9) グループ・ワーク (1) (調べ物学習経過報告) (10) グループ・ワーク (2) (調べ物学習経過報告) (11) 民俗行事の巡検 (12) 演習発表 (1) (13) 演習発表 (2) (14) 演習発表 (3) (15) 教員による統括 | |
| 自学自習 | 事前学習 | ・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・専門用語については民俗辞典、意味の分からない用語については辞書等で事前に調べておくこと。 |
| | 事後学習 | ・見学や実習、巡検を行うたびにレポートを課す。課題の意味を理解し、期限内に必ず提出すること。 ・文献購読に際しては、活発なディスカッションのために、指定された文献を必ず一度は読んでおくこと。 |
| 使用教材・参考文献 | 使用教材 | 教科書は特に指定しない。講義中に配布するプリント（ハンドアウト）を利用する。 |
| | 参考文献 | ・八木透・政岡伸洋（編著）『図解雑学こんなに面白い民俗学』ナツメ社、2004年（ISBN：978-4-8163-3678-2）。 ・小野重朗『南九州の民俗文化』法政大学出版局、1990年（ISBN：4-588-00312-7）。その他の文献も適宜授業中に紹介する。 |
| 成績評価の基準と方法 | 基準 | ・受講態度：5回授業を欠席した場合は不合格とします。・レポート課題：適切な文献の検索および引用の方法、ならびに民俗事象の基礎的な記述の仕方を習得していれば合格とします。 |
| | 方法 | 受講態度 20%（事前連絡のない欠席は減点します）、レポート課題の評価 60%、演習発表 20%。 |
| 備考 | 民俗学そのものに関する基礎的な知識がなくとも、自ら学ぶ意欲を持ち、その方法を習得したいと考えている学生は歓迎する。その場合、調べ物学習のテーマについては、受講生の関心を優先できるように配慮する。教員が指示する「読書」課題の遂行を受講生の成績評価に加味する。詳細は、初回の授業で説明する。 | |

| 授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ） | | |
|-------------------------------------|-------------|-----|
| 教育課程の獲得目標 | レベルに応じた到達目標 | レベル |
| | | |
| | | |
| | | |

| | | |
|------------|--|--|
| 科目名 | 日本語と社会 | |
| 担当者 | 平塚 雄亮 / HIRATSUKA, Yusuke | |
| 科目情報 | 人間文化<歴史地理> / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 3年次 | |
| | - | |
| 科目概要 | 授業内容 | この授業は「社会言語学」について学ぶ。社会言語学は、その名のとおり社会と言語の関係について学ぶ分野である。この授業では、特に日本語を取り巻く社会的な状況について、地域、年齢、性別などといった社会的属性に注目しながらことばのバリエーションを観察していく。 |
| | 到達目標 | 社会のなかでことば、特に日本語のバリエーションがどのような役割をはたしているのかを分析できるようになることを目標とする。また、私たちが過ごす鹿児島方言が社会とどのように関係しているのかについても理解できるようになる。 |
| 授業計画 | (1) オリエンテーション (2) ことばのバリエーション (1) (3) ことばのバリエーション (2) (4) 日本語のバリエーション (5) 言語接触 (1) : ピジン・クレオール (6) 言語接触 (2) : 海外の日本語変種 (7) 小テスト (1) (8) ことばの切換え (9) 言語習得 (1) (10) 言語習得 (2) (11) ことばのイメージ・言語景観 (12) 言語の死と危機言語 (13) 鹿児島方言と社会 (1) (14) 鹿児島方言と社会 (2) (15) 小テスト (2) | |
| 自学自習 | 事前学習 | ふだんからことばづかい、友だちや家族との会話、テレビ、新聞、インターネットなど、日常生活にある言語を注意深く観察しておくこと。 |
| | 事後学習 | 小テストと期末レポートに向けて復習を欠かさないこと。 |
| 使用教材・参考文献 | 使用教材 | なし。授業時にハンドアウトを配布する。 |
| | 参考文献 | 授業時に適宜指示する。 |
| 成績評価の基準と方法 | 基準 | 社会言語学の意義、内容が理解できていれば、合格とする。 |
| | 方法 | 期末レポート 50%、小テスト 20%、授業時の提出物・態度 30% |
| 備考 | ことばに興味がある学生の受講を歓迎します。何か質問があれば気軽に声をかけてください。 | |

| 授業マトリクス上の位置づけ (科目が設置された学科、コースでの位置づけ) | | |
|--------------------------------------|-------------|-----|
| 教育課程の獲得目標 | レベルに応じた到達目標 | レベル |
| | | |
| | | |
| | | |

| | | |
|------------|--|--|
| 科目名 | 日本文学史 I | |
| 担当者 | 山崎 桂子 / YAMASAKI, Keiko | |
| 科目情報 | 人間文化<歴史地理> / 必修 / 前期 / 講義 / 2単位 / 1年次 | |
| | — | |
| 科目概要 | 授業内容 | 日本の古代から中世までの文学（古典）の流れを概観する。各時代の主要な作品を1つずつ取り上げて解説し、原文の一部を書写、音読、鑑賞しながら、文学の特質やジャンルについて理解を深める。 |
| | 到達目標 | 1) 上代・中古・中世・近世・近代という時代区分を知る。 2) 主要な作品の成立時期・作者・内容を理解する。 3) 主要な作品の原文を正しく読み、書ける。 |
| 授業計画 | (1) 時代区分とジャンルについて (2) 古事記 (3) 万葉集 (4) 竹取物語 (5) 古今和歌集 (6) 蜻蛉日記 (7) 枕草子 (8) 源氏物語 (9) 和泉式部日記 (10) 今昔物語集 (11) 大鏡 (12) 新古今和歌集 (13) 平家物語 (14) ビデオ「平安貴族の生活」視聴 (15) 総まとめ | |
| 自学自習 | 事前学習 | ・参考文献を前もって読み、授業で取り上げられる作品の概略を理解しておくこと。 |
| | 事後学習 | ・授業で出た原文の音読をし、暗唱できるようになる。 ・授業で出た作品の感想をまとめる。 |
| 使用教材・参考文献 | 使用教材 | プリントを配布する |
| | 参考文献 | 小山弘志編『日本文学新史』至文堂 1990年 岩波講座『日本文学史』岩波書店 1995年 |
| 成績評価の基準と方法 | 基準 | 主要な作品の時代区分・作者・内容を理解し、原文を正しく音読、書写出来れば合格とする。 |
| | 方法 | テスト（70%）、提出物（20%）、受講態度（10%） |
| 備考 | | |

| 授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ） | | |
|-------------------------------------|-------------|-----|
| 教育課程の獲得目標 | レベルに応じた到達目標 | レベル |
| | | |
| | | |
| | | |

| | | |
|------------|---|--|
| 科目名 | 日本文学史Ⅱ | |
| 担当者 | 嶋田 直哉 / SHIMADA, Naoya | |
| 科目情報 | 人間文化<歴史地理> / 必修 / 後期 / 講義 / 2単位 / 2年次 | |
| | — | |
| 科目概要 | 授業内容 | テキストを参照しながら近代日本文学史を概説する。各時代の代表的な作家、作品、思潮を解説する。 |
| | 到達目標 | 近代日本文学史の流れを理解し、代表的な作家、作品を知る。 |
| 授業計画 | (1) ガイダンス 「近代／日本／文学／史」を考える (2) 近世文学と近代文学 (3) 硯友社の文学 (4) 日清戦争と文学 (5) 自然主義の文学 (6) 反自然主義の文学 (7) 耽美派の文学 (8) 白樺派の文学 (9) 私小説と心境小説 (10) 詩歌の近代 (11) プロレタリア文学 (12) モダニズム文学と文芸復興 (13) 戦時下の文学 (14) 戦後の文学 (15) 総まとめ | |
| 自学自習 | 事前学習 | ・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。 |
| | 事後学習 | 各授業終了時にコメントシートを記入し、提出。 |
| 使用教材・参考文献 | 使用教材 | 年表の会編『近代文学年表』双文社出版 1993 ISBN4-88164-031-3 |
| | 参考文献 | 三好行雄編『近代日本文学史』有斐閣 1975 ISBN4-641-09795-X |
| 成績評価の基準と方法 | 基準 | 近代日本文学史に対する理解、関心が深められれば合格とする。 |
| | 方法 | レポート 60%、受講態度 30%、コメントシート 10%。ただしそれぞれ合格点を満たしていること。 |
| 備考 | | |

| 授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ） | | |
|-------------------------------------|-------------|-----|
| 教育課程の獲得目標 | レベルに応じた到達目標 | レベル |
| | | |
| | | |
| | | |

| | | |
|------------|--|--|
| 科目名 | 中国文学概説 I | |
| 担当者 | 宮野 直也 / MIYANO, Naoya | |
| 科目情報 | 人間文化<歴史地理> / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 2年次 | |
| | — | |
| 科目概要 | 授業内容 | 古代から六朝時代までの中国文学史。但し中国の伝統的な意味での「文学」を、その担い手「士大夫」の活動という視点で講じる。 |
| | 到達目標 | 中国古典文学の主要なジャンルに親しみ基本知識を得る。 中国古典文学の社会的位置づけを理解する。 |
| 授業計画 | (1) 授業のオリエンテーションと中国古典を理解するための基礎知識 (2) 「文学」とは何か (3) 士大夫と中国の伝統的書籍分類体系 (4) 『詩経』について (5) 儒家思想と文学との関係 1 (6) 漢代の賦 1 司馬相如「上林賦」を読む (7) 漢代の賦 2 嵇康 (8) 漢代の詩と五言詩の起源 (9) 三国時代の詩 1 (10) 三国時代の詩 2 (11) 「三国時代における文学の独立」 (12) 儒家思想と文学との関係 2 (13) 『文選』と「文」 (14) 『詩品』と『文心雕龍』 (15) 総まとめ | |
| 自学自習 | 事前学習 | ・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。 |
| | 事後学習 | 授業内容の復習。特に資料と結論との関係を再確認すること。 |
| 使用教材・参考文献 | 使用教材 | 教科書は特に指定しない。授業中に配布するプリントを用いる。 |
| | 参考文献 | 鈴木修次編『文学史』中国文化叢書 5 大修館書店 1967 年 鈴木修次編『文学概論』中国文化叢書 4 大修館書店 1968 年 近藤春雄『中国学芸大辞典』大修館書店 1987 年 |
| 成績評価の基準と方法 | 基準 | 授業内容に応じた中国古典文学に関する知識と理解があれば合格とする。 |
| | 方法 | 筆記試験 60% 出席態度 40% |
| 備考 | | |

| 授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ） | | |
|-------------------------------------|-------------|-----|
| 教育課程の獲得目標 | レベルに応じた到達目標 | レベル |
| | | |
| | | |
| | | |

| | | |
|----------------|---|--|
| 科目名 | 中国文学概説Ⅱ | |
| 担当者 | 宮野 直也 / MIYANO, Naoya | |
| 科目情報 | 人間文化<歴史地理> / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 2年次 | |
| | — | |
| 科目概要 | 授業内容 | 中国文学概説Ⅰで採りあげられなかった中国古典の重要なジャンルについての講義。 |
| | 到達目標 | 中国古典文学の主要なジャンルに親しみ基本知識を得る。 中国古典文学の社会的位置づけを理解する。 |
| 授業計画 | (1) 授業のオリエンテーションと中国古典を理解するための基礎知識 (2) 楚辞と屈原 1 (3) 楚辞と屈原 2 (4) 司馬遷と『史記』 (5) 正史の形式 (6) 『史記』司馬相如列伝を読む (7) 中国の叙事詩 1 (8) 中国の叙事詩 2 (9) 娯楽としての悲哀 (10) 中国の小説 1 「小説」とは何か (11) 中国の小説 2 志怪小説と志人小説 (12) 士大夫と詩 1 阮籍 (13) 士大夫と詩 2 陶淵明 (14) 士大夫と詩 3 顧炎武「詩は必ずしも人々皆作るにあらず」 (15) 総まとめ | |
| 自学自習 | 事前学習 | ・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。 |
| | 事後学習 | 授業内容の復習。特に資料と結論との関係を再確認すること。 |
| 使用教材・参考文献 | 使用教材 | 教科書は特に指定しない。授業中に配布するプリントを用いる。 |
| | 参考文献 | 鈴木修次編『文学史』中国文化叢書5 大修館書店1967年 鈴木修次編『文学概論』中国文化叢書4 大修館書店1968年 近藤春雄『中国学芸大辞典』大修館書店1987年 |
| 成績評価の 基準と方法 | 基準 | 授業内容に応じた中国古典文学に関する知識と理解があれば合格とする。 |
| | 方法 | 筆記試験 60% 出席態度 40% |
| 備考 | | |

| 授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ） | | |
|-------------------------------------|-------------|-----|
| 教育課程の獲得目標 | レベルに応じた到達目標 | レベル |
| | | |
| | | |
| | | |

| | | |
|------------|---|--|
| 科目名 | 書道史 | |
| 担当者 | 伊之口 芳至 / INOKUCHI, Yoshiyuki | |
| 科目情報 | 人間文化<歴史地理> / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 2年次 | |
| | — | |
| 科目概要 | 授業内容 | 書の歴史を時代別に区分し、古典を解説しながらその書道史の流れを捉える。 |
| | 到達目標 | 三千余年にわたる書の伝統と歴史は、書写文字の簡略化と美化の連続であったといえる。日本に伝わった漢字を受容し和様化と仮名を完成した日本人の感性など書の魅力は尽きない。中国と日本の書の歴史を豊富な古典の資料を解説しながら、時代区分を越えて展開されてきた大きな書道史の流れを学習者が把握できるように授業を進めたい。 |
| 授業計画 | (1) 中国書道史 文字の起源と甲骨文字 (2) 中国書道史 金文と周代の書法 (3) 中国書道史 秦代の文字の統一と隷書への変化へ (4) 中国書道史 漢代の隷書と用筆美 (5) 中国書道史 草書・行書・楷書の萌芽 (6) 中国書道史 六朝の書と書聖 (7) 中国書道史 隋・唐の楷書 (8) 中国書道史 個性と開放の宗代 (9) 中国書道史 元・明・清の書法とその流れ (10) 中国書道史 帖学と碑学 (11) 日本書道史 漢字の伝来 (12) 日本書道史 奈良時代の書法と写経 (13) 日本書道史 平安時代と仮名の完成 (14) 日本書道史 その後の書道史と今後の書道 (15) 総まとめ | |
| 自学自習 | 事前学習 | ・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。 |
| | 事後学習 | ・授業の初めに前回の授業内容の確認を行う。 ・前半に小レポートを課す。 |
| 使用教材・参考文献 | 使用教材 | 鈴木翠軒・伊東参州共著『新設 和漢書道史』日本習字普及協会 1996年 |
| | 参考文献 | 藤原鶴来『和漢書道史』二玄社 1927年 |
| 成績評価の基準と方法 | 基準 | 出席状況、レポート、受講態度と到達目標に達した者を合格とします。 |
| | 方法 | レポート 70%、受講態度 30% |
| 備考 | 適宜補充プリントを配布する。読書レポートの内容も成績評価の対象とする。 | |

| 授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ） | | |
|-------------------------------------|-------------|-----|
| 教育課程の獲得目標 | レベルに応じた到達目標 | レベル |
| | | |
| | | |
| | | |

| | | |
|------------|---|---|
| 科目名 | 英国の歴史 I | |
| 担当者 | 酒瀬川 純行 / SAKASEGAWA, Sumiyuki | |
| 科目情報 | 人間文化<歴史地理> / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 2年次 | |
| | — | |
| 科目概要 | 授業内容 | 古代ビーカー族からケルト族の定住、ローマ軍の支配を経て、アングロサクソン、バイキング、ノルマンの侵入と王朝樹立に至る過程を、王室並びに社会に焦点を当ててその変遷を考察する。又毎時間重用事象に関する受講生数名によるプレゼンテーションを課し、BBC ニュース、The Guardian Weekly の記事により最新の英国情報も提供する。 |
| | 到達目標 | 古代から 11 世紀のノルマン王朝成立までの歴史の流れについてその概要を学び、主立った国王、事件、事象について学び、理解する。 |
| 授業計画 | (1) What is history? What is the UK? (2) The Beakers and Stonehenge (3) The Celts (4) The Celts and Romans (5) The Celts and Romans (6) The Celts and Romans (7) The Anglo-Saxons (8) The Anglo-Saxons (9) The Anglo-Saxons (10) The Anglo-Saxons (11) The Vikings (12) The Vikings (13) The Normans (14) The Normans (15) 総まとめ | |
| 自学自習 | 事前学習 | ・使用教材（英文プリント）・参考文献を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。 |
| | 事後学習 | 学んだ内容を復習し、理解すること。 |
| 使用教材・参考文献 | 使用教材 | 担当者作成英文資料 |
| | 参考文献 | 酒瀬川純行著『エッセイと写真で綴る緑と石とゆとりの国イギリス』 現代図書 2008年 森 護 『英国王室史事典』 大修館書店 1994年。 |
| 成績評価の基準と方法 | 基準 | 各王朝の時代背景、主な事象等について理解したものは合格とする。 |
| | 方法 | プレゼンテーション 40%、終了試験 60%。 |
| 備考 | | |

| 授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ） | | |
|-------------------------------------|-------------|-----|
| 教育課程の獲得目標 | レベルに応じた到達目標 | レベル |
| | | |
| | | |
| | | |

| | | |
|------------|--|--|
| 科目名 | 英国の歴史Ⅱ | |
| 担当者 | 酒瀬川 純行 / SAKASEGAWA, Sumiyuki | |
| 科目情報 | 人間文化<歴史地理> / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 2年次 | |
| | — | |
| 科目概要 | 授業内容 | プランタジネット王朝から、チューダー、スチュアート、ハノーバーを経て現在のウィンザー王朝にいたるまでを王室並びに社会に焦点を当ててその変遷を考察する。又毎時間重用事象に関する受講生数名によるプレゼンテーションを課し、BBC ニュース、The Guardian Weekly の記事により最新の英国情報も提供する。 |
| | 到達目標 | プランタジネット王朝から現在のウィンザー王朝までの歴史の流れについてその概要を学び、主立った国王、マグナ・カルタ、宗教改革、名誉革命、農・産業革命等の重要な出来事について学び、理解する。 |
| 授業計画 | (1) The House of Plantagenet (2) The House of Plantagenet (3) The House of Plantagenet (4) The House of Plantagenet (5) The House of Tudor (6) The House of Tudor (7) The House of Tudor (8) The House of Tudor (9) The House of Stuart (10) The House of Stuart (11) The House of Hanover (12) The House of Hanover (13) The House of Hanover (14) The House of Windsor (15) 総まとめ | |
| 自学自習 | 事前学習 | ・使用教材（英文プリント）・参考文献を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。 |
| | 事後学習 | 学んだ内容を復習し、理解すること。 |
| 使用教材・参考文献 | 使用教材 | 担当者作成英文資料 |
| | 参考文献 | 酒瀬川純行著『エッセイと写真で綴る緑と石とゆとりの国イギリス』現代図書 2008年 森 護 『英国王室史事典』大修館書店 1994年。 |
| 成績評価の基準と方法 | 基準 | 各王朝の時代背景、主な事象等について理解したものは合格とする。 |
| | 方法 | プレゼンテーション 40%、終了試験 60%。 |
| 備考 | | |

| 授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ） | | |
|-------------------------------------|-------------|-----|
| 教育課程の獲得目標 | レベルに応じた到達目標 | レベル |
| | | |
| | | |
| | | |

| | | |
|------------|--|---|
| 科目名 | 米国の歴史と文化 I | |
| 担当者 | 竹内 勝徳 / TAKEUCHI, Katsunori | |
| 科目情報 | 人間文化<歴史地理> / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 2年次 | |
| | — | |
| 科目概要 | 授業内容 | 『パイレーツ・オブ・カリビアン』とメルヴィルの『白鯨』を比較することで、英語の読解力を向上させると共に、作家の考え方やその背景となる社会状況について学ぶ。また、音声教材や映像作品も交えて、作品について深く学ぶ。必要に応じて英検、TOEIC の指導も行う。 |
| | 到達目標 | 現代英語の文法、語法や口語体を生きた英文の中で読み解くことで、実践的な英語読解力を身につける。また、作品の背景となった社会状況を理解する。 |
| 授業計画 | (1) 『白鯨』(1956年版)鑑賞 (2) Pirates of the Caribbean-Curse of the Black Pearl 精読 (3) Pirates of the Caribbean-Curse of the Black Pearl 精読 (4) Pirates of the Caribbean-Curse of the Black Pearl 精読 (5) Pirates of the Caribbean-Curse of the Black Pearl 精読 (6) Pirates of the Caribbean-Curse of the Black Pearl 精読 (7) 『パイレーツ・オブ・カリビアン—ブラックパール』の呪い』鑑賞 (8) ディスカッション (9) Pirates of the Caribbean-Curse of the Black Pearl 精読 (10) Pirates of the Caribbean-Curse of the Black Pearl 精読 (11) Pirates of the Caribbean-Curse of the Black Pearl 精読 (12) Pirates of the Caribbean-Curse of the Black Pearl 精読 (13) Pirates of the Caribbean-Curse of the Black Pearl 精読 (14) 『パイレーツ・オブ・カリビアン』との比較 (15) 総まとめ | |
| 自学自習 | 事前学習 | ・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。 |
| | 事後学習 | ・学習箇所を繰り返し、読み、語句や表現法を覚える。 ・会話練習を継続する。 |
| 使用教材・参考文献 | 使用教材 | Pirates of the Caribbean-Curse of the Black Pearl (ペンギン) |
| | 参考文献 | 適宜指示する |
| 成績評価の基準と方法 | 基準 | 教科書の英文を読み解き、授業中に質問する。 |
| | 方法 | 筆記試験 60%、会話テスト 20%、発言 20%。 |
| 備考 | | |

| 授業マトリクス上の位置づけ (科目が設置された学科、コースでの位置づけ) | | |
|--------------------------------------|-------------|-----|
| 教育課程の獲得目標 | レベルに応じた到達目標 | レベル |
| | | |
| | | |
| | | |

| | | |
|------------|--|---|
| 科目名 | 米国の歴史と文化Ⅱ | |
| 担当者 | 竹内 勝徳 / TAKEUCHI, Katsunori | |
| 科目情報 | 人間文化<歴史地理> / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 2年次 | |
| | — | |
| 科目概要 | 授業内容 | 『パイレーツ・オブ・カリビアン』とメルヴィルの『白鯨』を精読、比較することで、英語の読解力を向上させると共に、作家の考え方やその背景となる社会状況について学ぶ。また、音声教材や映像作品も交えて、作品について深く学ぶ。必要に応じて英検、TOEICの指導も行う。 |
| | 到達目標 | 現代英語の文法、語法や口語体を生きた英文の中で読み解くことで、実践的な英語読解力を身につける。また、作品の背景となった社会状況を理解する。 |
| 授業計画 | (1) 『パイレーツ・オブ・カリビアン—デッドマンズ・チェスト』鑑賞 (2) 『白鯨』の原文名場面精読 (1) (3) 『白鯨』の原文名場面精読 (2) (4) Pirates of the Caribbean-Dead Man's Chest 精読 (5) Pirates of the Caribbean-Dead Man's Chest 精読 (6) Pirates of the Caribbean-Dead Man's Chest 精読 (7) 『白鯨』(1998年版)鑑賞 (8) 前期の『白鯨』の授業についてディスカッション (9) Pirates of the Caribbean-Dead Man's Chest 精読 (10) Pirates of the Caribbean-Dead Man's Chest 精読 (11) Pirates of the Caribbean-Dead Man's Chest 精読 (12) Pirates of the Caribbean-Dead Man's Chest 精読 (13) Pirates of the Caribbean-Dead Man's Chest 精読 (14) 『白鯨』との比較 (15) 総まとめ | |
| 自学自習 | 事前学習 | ・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。 |
| | 事後学習 | ・学習箇所を繰り返し、読み、語句や表現法を覚える。 ・会話練習を継続する。 |
| 使用教材・参考文献 | 使用教材 | Pirates of the Caribbean Dead Man's Chest (ペンギン) |
| | 参考文献 | 適宜指示する |
| 成績評価の基準と方法 | 基準 | 教科書の英文を読み解き、授業中に質問する。 |
| | 方法 | 筆記試験 60%、会話テスト 20%、発言 20%。 |
| 備考 | | |

| 授業マトリクス上の位置づけ (科目が設置された学科、コースでの位置づけ) | | |
|--------------------------------------|-------------|-----|
| 教育課程の獲得目標 | レベルに応じた到達目標 | レベル |
| | | |
| | | |
| | | |